高橋　奥平	鶴岡町三八	一七、三九〇	
高橋浦治郎	榮町二七三	七、二〇〇	
高橋桝五郎	東川町一〇五	六、三八〇	
高橋　久作	西川町五二	九、八六〇	
高橋　辰藏	西川町五〇	一五、三七〇	
高橋　米治	惠比須町五〇	二一、九七〇	
高橋忠三郎	遂萊町五〇	四八、四四〇	
高橋　清作	旭町二三五	一七、二六〇	
高橋　爲藏	西川町六一	七、二〇〇	
高橋熊五郎	船場町一九	三七、二六〇	
高橋倉太郎	東濱町七	三九、一三〇	
高橋文之助	曙町一	七四、〇六〇	
高橋文五郎	曙町一	八〇、二七〇	
高橋孝太郎	末廣町五二	一六、九五〇	
高橋　熊吉	大黒町一〇二	八、一〇〇	
高橋松太郎	大黒町四三	六二、七〇〇	

高橋　善平	仲濱町四	一六〇、六三〇	
高橋　清治	辨天町六〇	三〇一、七五〇	
高橋　藤藏	辨天町二五	六、〇〇〇	
高橋　理吉	鍛冶町六二	二〇、六九〇	
高田　理作	汐止町七	七、五四〇	
高田　フジ	遂萊町一二三	八、〇〇〇	
高田松太郎	眞砂町二	五九、六二〇	
高田　豊吉	惠比須町	八、〇〇〇	
高田由太郎	西川町八四	六、二〇〇	
高森　清藏	船場町二五	一六、九九〇	
高森　忠八	船場町二五	七、二七〇	
高森　忠藏	船場町二一	四三、七九〇	
高畑　又作	船場町一九	七、二〇〇	
高畑　又市	船場町一九	二、五六〇	
高杉吉四郎	末廣町一六	九、六〇〇	
高井甚太郎	船見町六九	八、四〇〇	

高杉藤三郎	豊川町六	二四、七四〇	
高木五三郎	富岡町二	五〇、七六〇	
高木榮太郎	榮町二二七	四九、二四〇	
高木　金作	元町六一	一四三、二四〇	
高橋　幸藏	青柳町三四	一九、六六〇	
高島　カネ	春日町二七	一六、八四〇	
高橋　精一	旭町二〇四	八、四四〇	
高島　政治	元町四八	七、二〇〇	
高橋　診菴	辨天町七五	三四、八九〇	
高松　多齋	辨天町七五	二、〇七〇	
高西常次郎	辨天町六九	八、九二〇	
高崎竹次郎	西濱町六	三三、一六〇	
高崎　喜治	豊川町四一	六、〇〇〇	
高瀨　久吉	末廣町二二	三八、〇七〇	
高桑　九平	富岡町四	八、三八〇	
高浪　梅吉	青柳町八一	一五、九八〇	

所得納稅者人名表

高須長七郎	東濱町九	六七、六〇〇	
高岡　新助	豊川町五一	二〇、九八〇	
高原與太郎	蓬萊町五〇	六、六六〇	
高橋光太郎	山脊泊町一二	三六、六九〇	
高田丈太郎	東川町八二	七、五〇〇	
高山　文男	末廣町九	六、〇〇〇	
高橋　チヨ	相生町四八	九、七八〇	
高橋　架	龜田村	八、〇四〇	
高岡　寅治	新川町二七四	六、〇〇〇	
高橋　敬作	相生町七一	六、〇〇〇	
高橋　フジ	相生町七一	三、二四〇	
高島　ナカ	西川町五	六、〇〇〇	
藤林駒之助	東雲町二四一	九、〇六〇	
高橋清次郎	鶴岡町三一	六、七八〇	
高田　てい	旅籠町三六	八、六一〇	
高橋　ハナ	旅籠町三六	八、二〇〇	

元橋 ハル	蓬萊町一三一	九、九三〇
高橋 トワ	旅籠町三二	九、一三〇
高橋 カチ	蓬萊町一〇九	一二、七一〇
建部 作郎	龜田村	六、二四〇
只木小五郎	末廣町一〇三	一六、五三〇
唯野チトセ	寶町一三	三、一一〇
中野 文吉	寶町一三	一八、二四〇
棚谷 清	船場町	九、六〇〇
橘 盛之助	惠比須町三六	六、三三〇
橘 藤太郎	末廣町五九	六、〇〇〇
寶田市次郎	船見町六二	六、四八〇
高島 章造	音羽町三六	七、〇〇〇
高村 由藏	西川町八	六、〇〇〇
高野 繁松	小舟町二一	六、〇〇〇
田卷庄次郎	龜田村	六、〇〇〇
田島朔太郎	船場町二三	六、五〇〇

高橋 ミサ	東濱町四九	六、〇〇〇
高橋 泰	青柳町二七	二三、六八〇
高畑 鶏助	東濱町二〇	六、〇〇〇
田村松五郎	末廣町八〇	四三、二六〇
代島代次郎	曙町二二	六、九〇〇
谷津光太郎	船場町三	八、四〇〇
武藤民之助	鶴岡町四六	七、〇〇〇
武内 岩藏	大森町四	二三、一八〇
竹林福次郎	辨天町八四	六、〇〇〇
武藤マスヱ	鍛冶町一七	七、六八〇
祖濱榮太郎	海岸町六九	七、〇八〇
曾我 太郎	辨天町六五	九、〇〇〇
曾田 憲彦	汐止町七	一五、一一〇
園田半之助	富岡町六	三三、六八〇
辻 仲	天神町八九	一八、六五〇
辻 伊三郎	天神町八九	一九、五一〇

辻 市太郎	東雲町二四六	二四、三四〇
辻 勝次郎	小船町	九、八〇〇
辻 留吉	西川町七二	七、八〇〇
辻本善次郎	鶴岡町三二	九、〇七〇
辻本 キタ	鶴岡町三二	六、〇五〇
津田鋹之助	末廣町一一三	四九、六八〇
津田善右衛門	西濱町三二	四六三、一五〇
津田佐兵衛	大黒町九九	一三、九四〇
津田 昌	相生町五八	一三、八一〇
津田 英造	谷地頭町一五	六、四四〇
塚田治三郎	船場町二	九一、二六〇
塚田才次郎	東川町二〇九	一九、一三〇
塚田ッヨシ	地藏町六四	五一、六六〇
塚原リヤウ	辨天町六六	九、六四〇
釣田 數惠	東濱町三二	三七、七一〇
角田 忠吉	曙町四	八五、六八〇

角谷 作造	船場町九	一五二、八一〇
角 房藏	相生町八八	八、九八〇
角鹿宗兵衛	音羽町五三	七、六〇〇
土橋 藤市	大町二九	一三、七一〇
土橋シュン	大町三一	七、八四〇
土田 保吉	豊川町四五	二〇、一六〇
土田 彌藏	旅籠町八一	六、〇〇〇
土岐 萬吉	天神町六〇	二一、一七〇
土谷 忠吉	會所町三四	九一、二一〇
土屋 一郎	船場町三	八〇九、二〇〇
土井太郎吉	西川町七七	三、六六〇
土井增太郎	西川町七七	五、二六〇
土井鐵太郎	船場町	二四、一九〇
土居久壽次郎	汐見町一三	六、〇〇〇
土方惣太郎	曙町二五	七、〇〇〇
土門信太郎	蓬萊町四九	六、二四〇

所得納稅者人名表

塚越市太郎　會所町二一　六、〇〇〇
筒井長左衛門　相生町九〇　二〇、九三〇
筒井　辰平　東雲町二四二　六、二四〇
筒井又右衛門　龜田村　三、六〇〇
筒井又三郎　龜田村　六、〇四〇
筒井　又治　音羽町八四　七、三八〇
常野　彌助　大町二〇　五四、六九〇
常野壽次郎　大町三五　三七、七九〇
常野與兵衛　大町八　三、四五〇
對嶋　龍司　大町七　三八七、二四〇
爲谷喜四郎　青柳町二三　七、八〇〇
鳥　源十郎　會所町三五　二〇、三一〇
坪井　民治　富岡町二　七、二〇〇
鶴岡　彌藏　西川町九七　六、〇〇〇
鶴尾　ツル　東濱町二四　五三、六八〇
　　東川町一七八　六、四八〇

螺良　恂一　元町　九、六〇〇
務川　清重　龜田村　九、六〇〇
根布　庄吉　船見町六三　二四、一九〇
長谷川瀧三郎　地藏町六四　五五、八九〇
長谷川千代三　會所町四六　二一、一六〇
長谷川定之助　相生町五九　九、四〇〇
長谷川八二郎　汐見町一九　四八、二三〇
長谷川泰助　船見町八二　二四、五〇〇
長谷川久太郎　鶴岡町一　七、七〇〇
長谷川ミツ　天神町五一　二二、九四〇
長谷川千代春　相生町五三　三、七一〇
長谷川イソ　相生町五三　七、三六〇
長谷川丑太郎　寶町四一　七、一〇〇
長谷川政太郎　鶴岡町一一　七、一〇〇
長谷川利三郎　眞砂町二　三、八一〇
長谷川吉藏　蓬萊町一五四　三、〇四〇

長谷川チヨ　惠比須町四五　六、二〇〇
長谷川藤三郎　西川町六六　五八、九七〇
長谷川清藏　大黒町七二　九、〇〇〇
長谷川金作　住吉町一四九　六、〇〇〇
長谷川淑夫　元町　一八、一三〇
長谷川勝藏　旅籠町八三　六、〇〇〇
長谷　フク　鍛冶町一七　五五、五三〇
長谷　ツル　鍛冶町一七　八、八四〇
長森　フジ　相生町七二　二三、八六〇
長森　文吉　蓬萊町七一　一、一八〇
長森福太郎　青柳町五〇　四三、三三〇
長橋與三郎　相生町九　二一、九三〇
長橋　シゲ　相生町九　四、三三〇
長尾　安藏　汐止町五　六、〇〇〇
長尾　カメ　東川町一〇二　七、五〇〇
長尾　舍　元町四四　一八、四四〇

長尾　慶助　西濱町一三　一六、五二〇
長尾　セイ　西濱町一三　四、二四〇
長岡由太郎　末廣町七一　一五、八八〇
長岡正次郎　旅籠町七七　八、四〇〇
長岡　照正　元町四八　三五、七九〇
長村永次郎　龜田村　二〇、〇一〇
長田　次吉　富岡町八　一三、八四〇
長田　富藏　末廣町五五　四四、九七〇
長川　儀助　辨天町三六　九四、二三〇
長濱末太郎　船見町五〇　三三、六八〇
長野　金七　西川町六六　七、五九〇
長　連樹　青柳町五〇　九、一三〇
長村　正吉　末廣町八七　六、〇〇〇
長村　忠吉　相生町九二　八、七二〇
直原代次郎　東濱町四八　六、〇〇〇
中村庄兵衛　地藏町六　一三、五八〇

所得納稅者人名表

中村常次郎	惠比須町三四	四〇、〇三〇
中村　眞砂	會所町五一	一三、六一〇
中村長太郎	西川町五五	一六、四八〇
中村　五郎	船見町	一七、〇一〇
中村玉次郎	蓬萊町二二	二三、六七〇
中村金左衛門	鶴岡町六六	八、四九〇
中村　ミヱ	鶴岡町六六	一、一六〇
中村　ヤヱ	蓬萊町一一七	二四、八二〇
中村　コト	蓬萊町一一七	二七、九四〇
中村彌五七	蓬萊町一一七	五、一八〇
中村龜太郎	蓬萊町二〇	六、二〇〇
中村兵四郎	惠比須町八五	七、二〇〇
中村　新八	東濱町二一七	三四、四八〇
中村　經一	地藏町	八、九〇〇
中村　ノブ	蓬萊町九六	二六、二〇〇
中村　シン	蓬萊町九六	一六、六三〇
中村　ケイ	旅籠町六二	二、八八〇
中村　三郎	東濱町二九	四、三七〇
中村吉太郎	會所町九	三、一四〇
中村增之助	會所町五四	一九、三〇〇
中村　良次	曙町一七	五七、九六〇
中村　芳松	音羽町二三	七、六二〇
中村金太郎	壽町一六	二四、一九〇
中村　竹藏	汐見町二三	六四、二二〇
中村忠太郎	旅籠町三	七、五六〇
中村　ミヱ	蓬萊町一二三	一四、一三〇
中村諭次郎	鶴岡町三〇	三七、八六〇
中村　ヨシ	青柳町九	一三、四〇〇
中村　庄吉	豊川町五七	三四、七五〇
中村久次郎	青柳町二八	四八、三五〇
中島　清喜	曙町五	一、一四〇
中島　清助	曙町五	六、〇〇〇

中島信太郎	船場町一九	六、〇〇〇
中島　元吉	寶町三一	一七、三五〇
中島重次郎	眞砂町五三	四、九〇〇
中島清五郎	眞砂町三	一、六〇〇
中根鎭八郎	汐見町二三	二三、七三〇
中根　庄藏	榮町二三〇	八六、四六〇
中井　多吉	辨天町二四	二一、〇六〇
中井　倉造	寶町三九	五七、五三〇
中井　ミテ	寶町三九	五、八〇〇
中井　宣胤	會所町二〇	一八、一四〇
中井　仲藏	豊川町五一	一八、一四〇
中野　幸八	音羽町七六	六、〇三〇
中野　元吉	蓬萊町一五五	一四、七五〇
中野文太郎	龜田村	九、八八〇
中野　ミヱ	青柳町	七、五六〇
中野芳次郎	蓬萊町一〇六	六、四六〇
中西仁太郎	汐見町九	九、二一〇
中西　友吉	谷地頭町五	四五、五四〇
中西伊之助	船場町	六、〇〇〇
中瀨捨太郎	船見町八五	二〇、五四〇
中橋　榮作	東濱町二一	九、四二〇
中川佐右衛門	豊川町二四	六、六二〇
中川　榮吉	若松町五	一四、四五〇
中川武右衛門	相生町六二	二〇、九四〇
中川國太郎	相生町一七	六、〇〇〇
中川　竹松	末廣町一一三	六、〇〇〇
中田和一郎	東川町三	六、〇〇〇
中田　力藏	龜田村	一九、一七〇
中田政五郎	大森町一	九、〇〇〇
中田　鐵藏	末廣町一一五	七、三八〇
中田倉之助	谷地頭町	六、五四〇
中里　イサ	鍛冶町二二	二〇、四八〇

所得納稅者人名表

中上　仁作	西川町六三	一〇七、四八〇
中土捨次郎	汐止町一〇	一三、二三〇
中山　テル	蓬萊町三一	七、七〇〇
中山　カツ	相生町七一	六、九六〇
中山　三次	相生町一六	九、〇〇〇
中山小清太	船場町一九	一八、一四〇
中山伊三郎	住吉町一五五	七、五八〇
中山　銘三	谷地頭町八一	八、四〇〇
中山與三郎	大黒町八三	一二七、〇二〇
中山　春吉	相生町六	一四、九九〇
中山濁五郎	海岸町	一三、六一〇
中山喜太郎	富岡町	九、六〇〇
中谷　音彌	富岡町一〇	三五、五一〇
中谷　ミツ	富岡町一〇	四、六九〇
中名生知德	青柳町六二	三四、五〇〇
中　直作	西川町六〇	八、二四〇
中小田愛太郎	西川町九〇	六三、七〇〇
中澤榮次郎	西川町一四	九、二一〇
中澤　金吉	汐止町二三	九、三一〇
中津初太郎	大黒町八二	八、八〇〇
中津　久松	幸町一	一九、九五〇
中本　嘉吉	船場町	八、四〇〇
中濱安太郎	天神町七〇	九、一二〇
中田　國藏	眞砂町三	三、八八〇
中田　國松	眞砂町三	二、四〇〇
中村　清吉	地藏町一四	六、一八〇
中村　嘉藏	西川町八〇	六、〇〇〇
中橋　俊一	寶町三三	六、〇〇〇
並木鐵太郎	末廣町一五	五七、三九〇
永井　シカ	春日町二三	一五、七九〇
永井藤太郎	相生町八七	一九、四八〇
永井　吉次	地藏町四二	八、八〇〇

永井　榮藏	山脊泊町三八	六、二〇〇
永田豊太郎	元町一二	六、四八〇
永田順兵衛	會所町一九	一五、四八〇
永田　方正	春日町三五	一三、六一〇
永田儀八郎	幸町六	一一、五一〇
藤谷　タサ	幸町六	三七、九三〇
永久　岩松	天神町八〇	二一、一七〇
永橋　至剛	元町四三	二四、一九〇
永澤　新吉	寶町一四	七、〇〇〇
永田仁左衛門	會所町三六	九、八三〇
永田由太郎	會所町三六	四、三七〇
中村由三郎	大町四二	二、六四〇
佐藤　カヰ	大町四二	三、六〇〇
成田富太郎	東川町二〇九	三一、四七〇
成澤　タカ	寶町二六	六、六〇〇
成田　倉市	若松町五九	八九、七五〇
成田　嘉七	大黒町五三	九八、六九〇
成田六次郎	大黒町一〇一	四九、二七〇
成田　清晋	元町四三	六、五九〇
成田　千代	天神町八七	一三、一九〇
成瀨　正經	東雲町二四一	六、五〇〇
仲村金右衛門	末廣町一〇一	二〇九、一三〇
仲山　與七	蓬萊町一四五	一七、二八〇
仲　忠次郎	地藏町五八	一七、一八〇
仲　伊三郎	豊川町四九	一五、六七〇
中島　秀郎	辨天町五	六、四〇〇
中島　久吉	大町三七	九、六〇〇
中村　幸助	豊川町五七	八、一四〇
中尾卯一郎	會所町二六	六、〇〇〇
難波松兵衛	春日町一九	一七、五一〇
名井勝次郎	東雲町二四二	一八、二七〇
鍋田　爲藏	天神町二八	四八、三三〇

所得納稅者人名表

鍋田德次郎	西濱町二〇	四九、四五〇	
鍋島 藤七	幸町六	二五、〇七〇	
楢林 英寶	天神町七四	三一、〇九〇	
那倉 智顯	船見町一〇三	六五、一八〇	
那倉 彌八	元町一二	一九、六八〇	
浪岡 ナミ	惠比須町二二	七、二〇〇	
奈良千代吉	鶴岡町三〇	三、六五〇	
奈良 安藏	辨天町三五	六、一二〇	
村上兵五郎	住吉町二三四	七、七八〇	
村上 イト	東川町一〇八	四二、二四〇	
村上 賴	東川町一〇八	一〇、三五〇	
村上 清吉	末廣町五九	四二、九九〇	
村上 金藏	東濱町三〇	二三、三九〇	
村上 ルイ	蓬萊町一三八	一六、九四〇	
村山熊太郎	壽町六	六、〇〇〇	
村上茂太郎	末廣町六二	九、六〇〇	
村上 マス	寶町一	三三、二三〇	
村田勇次郎	鶴岡町二五	七、二〇〇	
村上 ヒサ	鶴岡町二五	〇、四〇〇	
村田奥太郎	寶町一	八、六二〇	
村田 竹治	船見町四四	七、二〇〇	
村田半次郎	西川町一一	四七、六一〇	
村田 駒吉	曙町一	二六六、七一〇	
村田 サタ	曙町一	七五、九一〇	
村田 マサ	曙町一	八七、六七〇	
村田 ソノ	鰐淵町三七	八、一八〇	
村田 鐵藏	海岸町六六	八四〇〇	
村形 ヨシ	春日町一九	一六、一五〇	
村井新次郎	富岡町一〇	六、四八〇	
村山甫二郎	元町四九	四、四七〇	
村山 ハツ	元町四九	三、三六〇	
村岡 倉吉	眞砂町二	三七、一〇〇	

村木甚三郎	富岡町二	七六、五一〇	
村木善太郎	富岡町二	一五、六四〇	
村本 イマ	鍛冶町二七	二〇、一六〇	
村垣 素行	汐見町五	一五、一二〇	
村松 久雄	天神町七四	八、四〇〇	
村瀨永太郎	曙町七	九、六〇〇	
村山 雄吉	元町九	七、二〇〇	
村林 元吉	壽町二四	二一、一五〇	
村上 祐兵	青柳町	一五四、一四〇	
村井 武八	惠比須町一一	六、〇〇〇	
村上 丑松	西川町六〇	六、〇〇〇	
村本宗兵衛	曙町	九、八〇〇	
向井 嘉吉	惠比須町五五	六二、二四〇	
向井熊太郎	若松町一〇八	二三、七三〇	
向井佐之助	谷地頭町八	三一、七一〇	
宗戸 清七	鍛冶町二五	一六六、一五〇	
宗澤 茂七	東濱町一三	八二、五〇〇	
宗像 敏英	龜田村	六、四八〇	
宗原 チセ	大黑町七五	六、〇〇〇	
內山 吉太	天神町五〇	五六二、七五〇	
內山德太郎	曙町一四	七、五二〇	
內山 廣吉	東濱町五六	一八一、八八〇	
內山金兵衛	豊川町二	一五、一二〇	
內山 久吉	地藏町二〇	六、七六〇	
內山 哲雄	末廣町五九	一八、七五〇	
內山佐五平	地藏町一	一四、八三〇	
內山 タケ	元町三五	六、〇〇〇	
內山 仙	元町四八	八、四〇〇	
內山例之助	春日町一二七	六、〇〇〇	
內山 金作	曙町三	六、一四〇	
內田才次郎	末廣町一	八八、四四〇	
內田 守中	汐見町二一	一五、一二〇	

内田 重藏	鶴岡町五四	九、〇五〇
内田虎次郎	辨天町六五	一三、一〇〇
内田恒次郎	幸町八	七、三八〇
内藤仙太郎	船場町	七、二〇〇
内藤安太郎	海岸町三四	九、五〇〇
内海 隆吉	船場町	六、〇〇〇
内川 當作	惠比須町五五	一四、六〇〇
内村 善助	新川町二九七	一八、四四〇
内野 高吉	會所町六六	六三、八九〇
上田 勘吉	若松町七三	八、九四〇
上田 氏暢	龜田村	八、八八〇
上田仁太郎	鍛冶町二八	支、二一〇
上土居初太郎	末廣町二〇	三、六〇〇
上野 十平	相生町四六	一三、三一〇
上野善八郎	惠比須町三	二四、八四〇
上村 勘吉	海岸町九九	九、八〇〇
上濱 寅吉	曙町五	九二、三五〇
上條新太郎	辨天町一六	六、〇〇〇
上田 喜助	榮町四一	八、六四〇
上田 イシ	辨天町四八	九、四五〇
上田 大法	辨天町五〇	六、〇〇〇
上田庄太郎	惠比須町七五	七、二〇〇
上野 三春	地藏町三五	七、〇〇〇
上山武右衛門	大黒町七九	七、六〇〇
上野熊太郎	鍛冶町一五	九、〇〇〇
上春 泰吉	西川町六一	七、二〇〇
上原 清	辨天町一	八、四四〇
上野 久吉	仲濱町一〇	七、二〇〇
上口鶴五郎	汐止町三三	一五、三五〇
宇佐美直治	音羽町七七	七 二〇〇
宇佐美榮助	元町六〇	六、二三〇
宇塚安太郎	海岸町三九	一三、〇〇〇

宇多與三松	東川町一四一	一三、一九〇
宇野 兼三	元町四六	一七、六四〇
宇野 ミチ	元町四六	四、五四〇
宇野幸太郎	天神町八二	九、六〇〇
宇佐美常七	蓬萊町一四九	六、〇〇〇
梅林喜三八	大黒町一七六	九、二〇〇
梅林喜太郎	大黒町四一	一三、六一〇
梅川磯次郎	蓬萊町一	七八、九八〇
梅川盛之助	蓬萊町一	八、八八〇
梅田 峯松	天神町七四	八、四〇〇
梅澤幸太郎	蓬萊町五六	六、七一〇
梅崎藤兵衛	蓬萊町七五	一六、〇〇〇
梅津福次郎	末廣町五二	七九九、六八〇
梅津 キク	蓬萊町一五五	一三、六一〇
梅本覺太郎	鶴岡町九	六、八〇〇
梅村 香	谷地頭町八	一三、七七〇
梅内久次郎	鶴岡町一〇	一四、〇一〇
梅内市太郎	鶴岡町一〇	五、九〇〇
梅本 はな	鍛冶町三一	一六、七七〇
梅川 榮松	豊川町二七	六、〇〇〇
海老根千代之助	東濱町五九	六、二一〇
海老名清作	惠比須町七四	五一、一三〇
海野德治郎	寶町四	一五、八六〇
海藤 一策	天神町四六	八、一〇〇
海老 音松	會所町四四	六、〇〇〇
海道長太郎	旅籠町二九	六、二六〇
鵜澤 兼造	鶴岡町五八	三五、八四〇
浦田 久吉	仲濱町二〇	一〇一、〇四〇
浦田兵三郎	仲濱町二〇	一六、〇一九
浦田 豊藏	大黒町四〇	六、〇〇〇
浦田 永吉	幸町一	一七、二五〇
植田 清治	末廣町七八	六二、二九〇

植田　藤藏	相生町八七	八、四〇〇	野
植田元次郎	船場町二二	一五、一二〇	野
植原德太郎	船見町一三五	六、〇〇〇	野
植原　キン	船見町一三五	三、四四〇	野
植月　佐章	汐見町一九	一五、一二〇	野
野村　末市	汐見町二三	一、九二〇	野
野村　康直	曙町一〇	八、四〇〇	野
野村　寅藏	豊川町三八	七、〇〇〇	野
野村元次郎	西川町一五	一四、二八〇	野
野村正之助	若松町五	五七、五二〇	能
野村治郎兵衛	汐止町二八	四二、一九〇	能
野村忠吉郎	相生町六、	二三、八五〇	能
野村嘉一郎	鶴岡町七	六、〇〇〇	能
野中　種藏	相生町六二	六、一二〇	能
野中　藤松	惠比須町一五	四四、一四〇	能
野中治三郎	西濱町三	九、六〇〇	能
野口東太郎	東雲町二四二	八、四四〇	野
野口　憲藏	蓬萊町一二四	七、五〇〇	野
野崎幸次郎	東川町二一一	六、四八〇	野
野田初太郎	青柳町二七	二一、一七〇	野
野田房太郎	龜田村	七、二〇〇	野
野田橋力藏	東川町一〇四	一四、三六〇	野
野澤矢四郎	青柳町一九	七、七二〇	野
野澤辰之助	相生町四八	七、五四〇	野
野呂　義彰	龜田村	八、〇四〇	野
能戸　豊吉	辨天町九	二〇〇、六一〇	能
能戸末太郎	船見町九四	六二、二四〇	能
能中　亨二	船見町五〇	六二、六五〇	能
能中　タミ	船見町五〇	八、一七〇	能
能登　房次	鍛冶町七九	九、二二〇	能
能代幸太郎	寶町二五	二三、一六〇	能
能登捨次郎	東川町六	二二、八五〇	能

納代　東平	東濱町五	七八、九四〇	久
納代　定吉	東濱町五	七四、五二〇	久
登山陽三郎	惠比須町一四	七、五二〇	久
登山　恒七	惠比須町二〇	九、六〇〇	久
乃萬濱次郎	壽町一七	七、二〇〇	久
野本房次郎	元町一六	九、六〇〇	久
野村力太郎	汐見町二三	七、二〇〇	桑
久慈　柳治	青柳町一八	三、七八〇	桑
久慈勇太郎	青柳町一八	三、一〇〇	黒
久慈　トキ	駒止町三一	九、〇四〇	黒
久須美廣太郎	惠比須町七一	一八、五一〇	黒
久須美モト	惠比須町七一	四、三九〇	黒
久保田市太郎	住吉町四五	六、〇〇〇	黒
久保田タヨ	東濱町四〇	四八、二一〇	黒
久保田豊吉	旅籠町四八	二四、一九〇	黒
久保田豊吉	音羽町六五	九、一〇〇	黒
久保田勇次郎	海岸町五四	六、三〇〇	黒
久萬　勇六	汐見町一三	一三、六一〇	黒
久米　廣通	青柳町一八	九、一二〇	黒
久住德次郎	東濱町四二	六、〇〇〇	黒
久保　勇	船見町六三	一九、四〇〇	黒
久須美新藏	蓬萊町一五四	八、〇〇〇	黒
桑山　貞常	青柳町二三	七、九一〇	黒
桑原　マツ	蓬萊町一五五	六、九〇〇	黒
黒田　林平	辨天町四二	九、一〇〇	黒
黒田　由藏	大黒町八九	六、〇〇〇	黒
黒田陸太郎	西川町六二	二二、七五〇	黒
黒井　房吉	船場町二二	四二三、九五〇	黒
黒江　定七	鶴岡町五四	一〇一、二七〇	黒
黒岩源三郎	蓬萊町八九	六、〇〇〇	黒
黒岡善太郎	辨天町五六	一五、八八〇	黒
黒瀧桃太郎	谷地頭町六六	九、四四〇	黒

所得納稅者ノ名表

黒坂熊次郎	山春治町八〇	六、〇〇〇
黒見辰藏	汐止町一七	九、二〇〇
黒川久	谷地頭町七九	七、一〇〇
黒田伴五郎	鶴岡町	九、〇〇〇
黒住成章	富岡町四	二〇、二〇〇
工藤九兵衛	旅籠町六六	九、一一〇
工藤徳太郎	旅籠町六六	九、一〇〇
工藤トソ	駒止町三四	一五、八六〇
工藤長平	駒止町三四	五、八六〇
工藤又藏	青柳町三四	六、〇〇〇
工藤虎五郎	船見町九〇	一三、一九〇
工藤忠平	元町四五	七、一〇〇
工藤英吉	地藏町二〇	三七、三一〇
工藤末吉	谷地頭町二	九、二〇〇
工藤嘉七	地藏町二六	一、〇二九、一三〇
工藤レン	逢莱町一五五	二三、一六〇
工藤嘉三郎	船場町	三六、八四〇
工藤益藏	豊川町五七	六、四六〇
工藤治郎吉	相生町七七	六、〇〇〇
倉岡義三	元町五四	七、一〇〇
倉本千次郎	船場町	七、一〇〇
倉田與作	青柳町五八	六、〇〇〇
熊谷群四郎	青柳町三四	一六、六三〇
熊谷經太郎	青柳町一八	二一、五七〇
熊谷藤助	寶町一	六、八四〇
熊田太七	末廣町	一六、六三〇
九島和吉	地藏町二九	六、四六〇
官野宇一郎	若松町三七	一三、九六〇
楠瀬保馬	船見町八五	九、六〇〇
楠見甚太郎	旅籠町一八	七、一〇〇
草皆ナカ	末廣町五	八、〇〇〇
栗山フク	逢莱町一〇九	七、八六〇

栗山三慶	大黒町二六	六〇、四〇〇
栗山定吉	幸町一	六、二六〇
栗原覺一	元町七一	七、二〇〇
栗田壽吉	末廣町八五	二一、二六〇
栗城富八	船見町一〇	九九、五二〇
栗川用明	船場町	一六、六三〇
栗山庄右衛門	旅籠町一	六、〇〇〇
窪田亮吉	青柳町五〇	一五、一三〇
窪田平右衛門	相生町五一	七、七五〇
窪田與三吉	富岡町二	一五、一三〇
窪田彌助	惠比須町一三	六、〇〇〇
鞍立富三	眞砂町三	六、一八〇
釘澤外次郎	船場町	六、〇〇〇
山本德太郎	谷地頭町八	四、九一〇
山本敏郎	末廣町四六	五〇、五四〇
山本今吉	天神町一五	七、三六〇
山本久松	若松町一九	八、七二〇
山本タツ	相生町七一	九、三四〇
山本武二	天神町七四	六、〇〇〇
山本銀治郎	末廣町八二	七、七六〇
山本富吉	若松町九	四、六八〇
山本クニ	若松町九	四、〇〇〇
山本マサ	東川町二四二	二四、三一〇
山本德次郎	東川町一七六	六、六〇〇
山本平藏	青柳町五三	二〇、一六〇
山本米太郎	汐止町一九	九、五六〇
山本利之助	汐止町一四	一六、九一〇
山本猪之吉	末廣町三七	一七、一六〇
山本喜勇	元町四一	二四、五〇〇
山本多膳	船見町五二	九、三四〇
山本里介	駒止町六	七、五〇〇
山本佐之吉	鍛冶町五〇	二三、一六〇

山本　幸吉	西濱町三九	四〇、三五〇
山本又次郎	富岡町八	二二、一五〇
山本巳之助	大町二〇	五三五、三九〇
山本幸太郎	艦潤町五二	八、一〇〇
山本　元吉	辨天町二三	一九六、七四〇
山本　榮助	逢萊町二四	八、三三〇
山本　トシ	逢萊町七五	六、四四〇
山本辰次郎	東川町二〇八	四四、〇九〇
山本子之吉	會所町二〇	六、〇〇〇
山本　榮藏	惠比須町四三	八、四〇〇
山村　梅吉	龜田村	九、一四〇
八木　憲藏	船場町	三七、二五〇
牧原文次郎	船場町	四一、四〇〇
山田　齋雄	元町四八	六、〇〇〇
山田　康司	東雲町二四一	六、〇〇〇
山本　幸吉	若松町八六	六、〇〇〇

山田　房吉	末廣町六四	一三、〇一〇
山田　蒭郎	會所町五	二一、〇五〇
山田　邦彦	元町五〇	一〇一、九四〇
山田信次郎	相生町九三	七、二三〇
山田長五郎	鍛冶町三一	九、〇〇〇
山田　榮松	地藏町六一	八、六五〇
山田金太郎	鶴岡町四〇	一三、三一〇
山田　精一	逢萊町一四	二三五、一五〇
山田金兵衛	地藏町六〇	五一、二五〇
山田　龜吉	東濱町四五	一、五五〇、八五〇
山田竹次郎	會所町四七	五一〇、一三〇
山田虎之丞	曙町六	一三、〇〇〇
山田利三郎	船見町四三	一八、一四〇
山田　彌作	幸町八	一八、一〇〇
山田　ハナ	富岡町五	二五、一六〇
山口利太郎	天神町七〇	一七、四三〇

山田　德造	若松町五〇	三六、二三〇
山口喜代松	東雲町二四一	一四、四五〇
山口仁兵衛	鶴岡町六三	七、六八〇
山口　啓助	鶴岡町二六	七、七八〇
山口　重次	寶町二五	三三、九八〇
山口與五郎	地藏町九	一三、〇六〇
山口　喜平	西濱町三九	五九、四八〇
山田德太郎	山春泊町八四	一五、二三〇
山田　多吉	會所町六六	二一八、九六〇
山崎市太郎	大黑町二一	七、六三〇
山崎　勉治	東濱町二	六、〇〇〇
山崎　イソ	大黑町五一	一七、八九〇
山崎　庸哉	青柳町六一	三七、七五〇
山崎直右衛門	東川町三四	六、〇〇〇
山崎定次郎	元町三一	二四、二五〇
山崎德次郎	相生町六九	六、〇〇〇

山崎與三吉	大黑町八四	七、二〇〇
山崎　勇治	東濱町一	七、九二〇
山崎清熙	會所町六三	一八、一四〇
山崎　泰治	相生町二	六、〇〇〇
山崎　清吉	相生町六七	九、二四〇
山崎長兵衛	辨天町三五	八、四七〇
山崎　大麓	天神町一二六	六、〇五〇
山崎寅之助	相生町五〇	八、四〇〇
山崎　松藏	幸町九	三五、〇五〇
山崎　イシ	幸町九	四、九六〇
山崎信太郎	辨天町一六	七、三五〇
山崎　チヨ	辨天町一六	一五、九八〇
山崎　作藏	辨天町六四	二四、二五〇
山崎賢次郎	辨天町六四	三三、一六〇
山中　太朗	逢萊町四四	六、七八〇
山中政四郎	逢萊町四四	〇、九二〇

山下 成清	寶町二三	六、二一〇	
山下 助三	汐見町三二	二五、二六〇	
山下重太郎	東川町四二	三〇、三三〇	
山下 ミテ	東川町二四二	二四、〇一〇	
山下藤右衛門	地藏町二二	一九、七四〇	
山下 佐市	汐止町一二	一六、六三〇	
山下慎太郎	天神町七九	一五、一二〇	
山下 辰藏	大黒町三	六、〇〇〇	
山下與三吉	小船町四	六、〇〇〇	
山谷永三郎	蓬萊町一二八	六、七六〇	
山谷 孫吉	幸町一	六二、五八〇	
山谷 ミチ	幸町一	三、九三〇	
山内敬四郎	谷地頭町	六、一六〇	
山内幸四郎	汐見町四	三三、六八〇	
山下 甚藏	元町一二	八、四六〇	
山尾 福三	元町一一	四六、二〇〇	
山野三之助	豊川町六	八、〇六〇	
山本 タカ	蓬萊町八五	八、一六〇	
山形久四郎	鶴岡町三六	八、二一〇	
山川俊之助	壽町二三	六、〇〇〇	
山邦 虎吉	鍛冶町五五	六、〇〇〇	
山岸常太郎	蓬萊町一二四	八、一七〇	
矢代幸次郎	青柳町二三	八、一八〇	
矢竹豊三郎	大町五	一四、二八〇	
矢本 チセ	天神町一〇六	六、二四〇	
矢口源次郎	大黒町七八	七、五〇〇	
矢口慶之助	東濱町三四	七、二〇〇	
矢作 廣治	會所町四二	八、四〇〇	
矢田 金槌	惠比須町五八	七、二〇〇	
矢舖 シノ	蓬萊町一二四	七、三二〇	
八木 信夫	元町七〇	七、二〇〇	
八木勘五郎	末廣町八	二一、五五〇	

八木武次郎	鶴岡町二二	二〇、〇一〇	
八木 三郎	海岸町三四	一四、六〇〇	
八木 シズ	東濱町四八	一三、四五〇	
八百健次郎	曙町六	二八、二九〇	
八百 ナミ	曙町六	二一、五二〇	
八谷 信三	青柳町一九	九、九八〇	
八谷 丑二	青柳町一九	七、八五〇	
八幡藤太郎	豊川町二二	五三、五三〇	
八幡三次郎	船場町二二	三二、〇五〇	
八木橋榮吉	青柳町六二	五七、六六〇	
薮越增太郎	鰻淵町二	一八六、二一〇	
薮越三之助	小舟町二八	八二、一一〇	
柳瀨 忠藏	幸町七	七、二〇〇	
柳澤佐五郎	汐見町一	四五、一三〇	
柳井三之助	龜田村	九、六〇〇	
柳澤 壽男	豊川町四一	六、〇〇〇	
柳谷 ヒサ	春日町一九	八、四七〇	
柳川 與助	大黒町七六	六、〇〇〇	
柳川 熊吉	谷地頭町二	一、五一〇	
柳川富次郎	谷地頭町二	四、五〇〇	
柳谷七右衛門	蓬萊町一七	八六、二三〇	
柳谷 トメ	蓬萊町一七	五、八二〇	
柳田 永助	辨天町六二	三七、八六〇	
山田辰之進	春日町九	一七、六二〇	
山口 春壽	曙町四	三三、六八〇	
山中權之丞	末廣町二	九、〇四〇	
山中 ナリ	末廣町二	五、五四〇	
山崎 忠八	地藏町一五	一、六〇〇	
長谷川 一	地藏町一五	四、〇八〇	
長谷川リエ	地藏町一五	一、〇〇〇	
松下 熊槌	曙町一一	九六、五一〇	
松下 チヨ	旅籠町二七	六、二四〇	

所得納税者人名表

松本武兵衛	仲町六九	二一、六五〇
松本　比作	汐止町一二	六、〇〇〇
松本茂兵衛	豊川町四一	一四、八五〇
松島　サタ	相生町五二	一三、六五〇
松本末次郎	春日町二七	四三、〇五〇
松本　ナヨ	春日町二七	五、〇一〇
松本　フク	鍛冶町三六	六、一四〇
松本利太郎	豊川町四〇	八、〇〇〇
松本　勇吉	西川町一	一五、〇二〇
松岡與八郎	末廣町九〇	二九、七四〇
松岡　陸三	壽町三	一三五、四五〇
松岡善五郎	壽町三	二六、七二〇
松岡八重子	壽町三	〇、二三〇
松岩秀三郎	壽町一二	六、五八〇
松岡　幸	元町九	一八、四〇〇
松田　久作	鶴岡町二九	六、五二〇
松田　兼吉	鶴岡町六七	一六、一七〇
松田　タカ	豊川町五三	八九、八四〇
松田助次郎	會所町一九	一六、六五〇
松田千太郎	船見町四五	三〇、五七〇
松田　定夫	辨天町五三	四一、三一〇
松丘　ヨシ	相生町六七	一三、九六〇
松田　助八	帆影町三三	六、八八〇
松田　エサ	大黒町七九	三、六四〇
松田　セン	大黒町七九	四、三六〇
松橋　象作	仲濱町二二	五七一、七五〇
松野長四郎	大黒町四	一八、八〇〇
松野桃三郎	東濱町一五	五八、三五〇
松川　豊吉	鶴岡町三六	六、八六〇
松川　忠藏	蓬萊町一五三	三七、九五〇
松川喜之助	會所町九	九三、三三〇
松川喜代吉	鰯淵町五	六、二六〇

松吉　佐吉	惠比須町三八	八、一〇〇
松山　喜市	若松町三六	四五、五一〇
松山吉三郎	末廣町七八	八七、四一〇
松原　與作	榮町二二三	一四、二〇〇
松原　德治	辨天町一七	七、四六〇
松尾久太郎	相生町一一	一八、一四〇
松尾　兼松	青柳町七	三六、三四〇
松尾　伊八	青柳町七	二、六一〇
松尾初太郎	相生町六九	三、〇〇〇
松尾　サタ	相生町六九	三、〇〇〇
松浦　龜藏	汐見町二三	九〇、七一〇
松谷　正平	東濱町五六	六、三〇〇
松並庄太郎	西川町七四	三三、九七〇
松前完三郎	船場町一九	一三、六一〇
松廣理三郎	富岡町一〇	六、〇〇〇
松村辨次郎	船見町五六	一三、六一〇
松井　榮造	帆影町三一	七、二〇〇
松井　彌助	鶴岡町七〇	六、六四〇
松木　周助	相生町四二	八、〇〇〇
松田吉次郎	大黒町四九	六、〇〇〇
松本雄太郎	天神町七四	七、二〇〇
松坂　駒吉	東雲町二九	一四、九七〇
松田　吉松	天神町二五	七、二〇〇
松村玄太郎	汐見町一	七、〇〇〇
松田松次郎	榮町一二三	七、九四〇
松廣誠太郎	辨天町四四	一六、二五〇
松内　寅雄	相生町一三	九、三〇〇
松原　忠吉	寶町	九、〇〇〇
松山慶太郎	東濱町四八	六、〇〇〇
松山　畑治	鶴岡町二三	六、四〇〇
松村龜之助	元町三一	七、一〇〇
松浦康太郎	船場町四	八、四〇〇

松本保太郎	船場町二六	一九、二〇〇
前田　彌作	惠比須町三八	八、三〇〇
前田　フジ	青柳町六一	一八、〇三〇
前田　榮吉	寶町二七	六、二〇〇
前田　利一	東濱町一	三五四、九六〇
前田源之助	末廣町八二	三七二、六七〇
前田嘉左衛門	幸町二	一〇七、六四〇
前田　清孝	船場町一九	七、二〇〇
前川　貞治	天神町七四	二、二六〇
前川キヨウ	天神町七四	六、三〇〇
前川　雷三	海岸町六	二二、〇九〇
前側　末松	豐川町二三	二五、五四〇
前多善右衛門	旭町二八四	四、五四〇
前田由太郎	旭町二八四	二〇、二九〇
前　佐市	船場町二五	三、八〇
前田雄之助	春日町三〇八	

前田　茂七	青柳町三一	四五、五四〇
丸山　駒吉	鶴岡町三一	七、二〇〇
丸山　磯吉	春日町二九	二二、二三〇
丸山　文作	住吉町二三八	六、四八〇
丸山今朝藏	寶町一	一四、二四〇
丸山　由松	住吉町一三八	六、〇〇〇
丸山德兵衛	住吉町三〇	六、〇〇〇
丸山勝太郎	相生町二三	六、一八〇
丸山　ナヲ	蓬萊町三三	九、二六〇
丸谷金太郎	榮町一〇一	三三、九九〇
間瀨　八郎	會所町一八	一七、七二〇
間瀨翁太郎	大町一四	二二、八五〇
間　藤吉	西濱町二八	三六、七八〇
間山久太郎	汐止町一三	七、二〇〇
間山慶次郎	汐見町二三	八、四〇〇
眞野清之助	會所町四六	三七、二六〇

眞保　祖山	船見町五六	七、二〇〇
眞壁仁太郎	西川町六六	九一、七一〇
眞田岩太郎	谷地頭町七一	六、〇〇〇
眞船由三郎	豐川町一一	一六、四二〇
增田　友吉	地藏町三二	三、九〇〇
增田シユン	地藏町二	四、八八〇
增川　倉松	東濱町四九	八、九六〇
牧　由次郎	小舟町一九	六、六一〇
牧　八十一	天神町八九	九、六〇〇
牧野　ミサ	地藏町三五	六、〇〇〇
町田　要治	相生町二一	一四、七八〇
町田彌太郎	船場町一九	八、四〇〇
町野　長松	西濱町一九	一〇、七八〇
町井勝太郎	汐止町二〇	九、一八〇
町田　守馬	會所町三〇	二四、四四〇
町田　久敬	元町六九	三三、四八〇

的場仙太郎	鶴岡町六〇	四七、五二〇
槇山　淳平	富岡町一〇	二四、三三〇
桝山　和吉	惠比須町六二	六、八〇〇
桝谷　榮吉	汐見町一二	九、六〇〇
萬谷德三郎	若松町五四	一三、〇三〇
萬田要太郎	蓬萊町一二一	四七、六八〇
萬年　正次	天神町一一二	九、〇〇〇
曲師　春治	臺町一	六、〇八〇
松崎　源作	天神町二五	六、〇〇〇
解良　皆藏	相生町五四	七、二〇〇
解良　久吉	海岸町五五	七、一八〇
解良　キサ	海岸町五五	七、三九〇
解良　ヒサ	天神町一五	一四、二八〇
福井　フサ	富岡町七	六、〇〇〇
福井力太郎	山脊泊町一〇	六、〇〇〇
福田　由松	龜田村	一、六一三、〇三〇

福田　廣吉	辨天町二八	六、〇〇〇
福田慶之助	青柳町五三	二〇、一五〇
福島平次郎	龜田村	八、四八〇
福島源太郎	船見町六四	六、〇〇〇
福原忠三郎	船場町一九	一三、六一〇
福泉　榮造	東濱町四九	八三、〇〇〇
福浦初次郎	曙町二	八、〇四〇
福岡長太郎	大町二一	二五、一五〇
福井　タキ	會所町一二	八、〇〇〇
福留　並吉	元町四三	一五、一一〇
福本鐵五郎	壽町一八	六、〇〇〇
福田　榮吉	旅籠町一七	九、六〇〇
藤村　駒吉	臺町八	一六八、五四〇
藤村　イチ	臺町八	二六、八一〇
藤村庄太郎	臺町一	九、一〇〇
藤村　嘉造	大黒町五八	一三、六一〇
藤浪新太郎	鶴岡町二六	六五、八七〇
藤浪勝太郎	相生町三	二〇、〇六〇
藤浪　源六	若松町三四	一〇〇、六五〇
藤浪喜兵衛	龜田村	六、〇〇〇
藤井清太郎	末廣町八	一〇二、九九〇
藤井源三郎	船見町八二	三七、四二〇
藤井　乘吉	仲濱町一三	四〇、九八〇
藤井利三郎	大町一三	一六二、八四〇
藤井　千代	相生町七七	八、九八〇
藤野　定藏	蓬萊町一三五	一三、一五〇
藤野　常治	惠比須町七	六一、四六〇
藤野　武半	末廣町三九	一三、五一〇
藤野正太郎	會所町五一	一八五、八四〇
藤江喜太郎	船場町一九	二六、八二〇
藤江　登	船場町一九	九、六四〇
藤田文太郎	榮町一七	七、二〇〇

藤田　文邦	若松町七九	六、四〇〇
藤田豊太郎	汐止町一一	一八、五一〇
藤田　律藏	仲濱町六	一四、七四〇
藤田　守重	汐見町一九	六二、一〇〇
藤田　金六	辨天町七八	七、二〇〇
藤田　吉松	辨天町一〇	六、〇〇〇
藤川源三郎	地藏町六一	三一、一三〇
藤川庄太郎	船見町四三	八、四〇〇
藤島　國麿	元町	一六、〇一〇
藤本喜三郎	末廣町四八	四五、一三〇
藤本　初吉	船見町一一七	一八、六三〇
藤原　寅吉	末廣町六四	二四、六五〇
藤原　房一	青柳町一五	六、一六〇
藤村伊三郎	鶴岡町四三	六、六〇〇
藤村　イソ	鶴岡町四三	二一、三一〇
藤澤　城太	元町九	八、一〇〇
藤澤　利助	相生町九六	六、四八〇
藤澤藤太郎	新濱町二	九五、四〇〇
藤森庄五郎	東濱町四九	七、七八〇
藤堂　利吉	豊川町五	二〇、〇八〇
藤ノ木フヱ	豊川町四八	八、一六〇
藤居　祐造	元町四二	一五、一一〇
藤山正兵衛	青柳町五二	二一、三一〇
藤吉　宇一	天神町一〇四	九、六〇〇
藤間　榮城	蓬萊町一四九	七、一〇〇
藤本　キソ	蓬萊町五	三三、六八〇
藤谷　淺吉	谷地頭町	一八、五一〇
藤卷　リク	蓬萊町三三	六、〇〇〇
藤角　和吉	蓬萊町一四五	九、六〇〇
藤川松五郎	大黒町七六	六、〇〇〇
藤井　力松	大黒町七六	七、四〇〇
藤本　吉松	大黒町九六	八、三四〇

藤井喜三郎	豊川町一六	九、四〇〇
船水　米吉	音羽町一四	六、六〇〇
船山　清	汐見町二三	九、〇七〇
船山　清三	汐見町二三	三、九三〇
船山　清藏	仲濱町二	三八九、七六〇
船山　寅藏	辨天町一六	一三、三六〇
船木　德松	仲濱町二六	五三、〇五〇
船矢　早吉	若松町一一五	六、〇〇〇
船倉　留藏	天神町七〇	二一、一六〇
船津巳之助	船場町	七、二〇〇
吉川金兵衛	音羽町六四	一四、二二〇
古川　壽平	元町七一	一六、六三〇
古川二龜一	會所町五六	六、八〇〇
古旗　曆藏	海岸町四三	九四、五五〇
古旗　ハナ	海岸町四三	、二三〇
古玉　周藏	東川町一四六	五六、三一〇
古伯　石藏	眞砂町五	三六、二三〇
石館　重藏	船場町二二	九、六〇〇
古澤　シマ	鍛冶町二七	七、一二〇
古屋　治良	船場町	一六、六三〇
房野巳之吉	若松町一五	一五、一二〇
深濱　鴻堂	船見町五八	二〇一、九四〇
深瀬謙三郎	會所町一八	六一、一八〇
深澤　慶吉	東川町二四一	二三、八五〇
深間　源助	鍛冶町四六	六、〇六〇
深村吉太郎	青柳町一二	七、二〇〇
伏見竹三郎	元町七二	一五、三五〇
物應　由松	船見町四六	七、八〇〇
布施　喜作	若松町四六	六、〇二〇
不波善之助	會所町二六	六、〇〇〇
藤田林之助	海岸町五三	六、〇八〇
駒谷辰次郎	辨天町二九	一六、二五〇

紺野松次郎	惠比須町五六	一四、〇七〇
紺谷巳之助	若松町一〇七	八、八〇〇
兒玉　善吉	寶町一	二一、〇二〇
兒玉德太郎	春日町三九	三四、五五〇
兒玉松之助	西川町七〇	七、三〇〇
兒門　秀峰	元町七一	八、四〇〇
國永政次郎	龜田村	一〇五、五七〇
國領　平七	辨天町四一	六〇、三八〇
國松源右衛門	寶町三二	五一、八七〇
國兼　藤平	東川町二二	二三、二二〇
國時喜太郎	辨天町二八	五五、八九〇
後藤　仁作	辨天町一七	一七、六六〇
後藤元三郎	末廣町八七	三八、八九
後藤宇平太	壽町二四	七、六二〇
後藤　千代	蓬萊町一五四	六、九〇〇
後藤　幹作	末廣町七	六、八〇〇
後藤　厚	寶町三三	三四三、五六〇
後藤　カメ	寶町三三	〇、一二〇
後藤　信吉	船場町二一	七、二〇〇
後藤　隆二	船場町	一三、六一〇
小泉　春吉	末廣町三三	一四、二二〇
小池藤五郎	豊川町四七	一七一、六七〇
小池　常吉	東川町二	六、〇六〇
小泉　平吉	大黑町三五	七、〇〇〇
小出龍太郎	會所町一一	七、五〇〇
小林喜兵衛	船場町二二	一三、五九〇
小林六太郎	鶴岡町二九	一八、二三〇
小林久次郎	相生町五〇	六、〇〇〇
小村　キン	鍛冶町三一	八、五二〇
小林　六郎	龜田村	一四、一五〇
小林喜一郎	東川町一九	五六、〇三〇
小林　貞吉	東川町二〇四	一四二、〇九〇

小林 民治	寶町一	三八、三五〇	
小林與兵衛	蓬萊町一一	一七、七四〇	
小林 嘉七	壽町一	六、四八〇	
小林 文作	壽町一二	一六、六三〇	
小林 ミツ	壽町一二	五、六九〇	
小林六三郎	西川町二八	八、八〇〇	
小林錄太郎	豊川町五三	一五八、二四〇	
小林 健藏	大町三四	一四、三二〇	
小林 安次	青柳町三五	六、〇〇〇	
小林孫太郎	音羽町八〇	八、〇一〇	
小林 イツ	相生町五三	一六、〇四〇	
小林 三樹	相生町五三	〇、三六〇	
小林 達	元町四八	七、二〇〇	
小林房太郎	豊川町四三	二四、〇一〇	
小林喜太郎	鍛冶町一〇	三二、六八〇	
小林喜三郎	大黒町七二	四四、九七〇	
小林乙五郎	大町二	四五、三三〇	
小林 房吉	大町一	一八、一四〇	
小西得太郎	海岸町六九	三二、六八〇	
小林 佐平	末廣町六九	一六、三五〇	
小林 定吉	東濱町四九	五六、二八〇	
小林伊三郎	船場町	八、四〇〇	
小針三太郎	大黒町一九	四五一、〇八〇	
小針 トメ	大黒町一九	一七、三五〇	
小西 清吉	谷地頭町七四	五四、四九〇	
小西八郎兵衛	天神町	一五八、六四〇	
小西 常吉	駒止町一	七、三八〇	
小川勝太郎	蓬萊町一九	七、三八〇	
小西喜三郎	東濱町二八	六四、五六〇	
小西 行夫	龜田村	七、六八〇	
小貫 コト	汐見町一三	八、四〇〇	
小貫 雄治	元町四八	八、四〇〇	

小川 イト	大町五	六、〇〇〇	
小川德太郎	蓬萊町一八	七、二〇〇	
小川 忠藏	汐見町二三	九、六〇〇	
小川三右衛門	鶴岡町三二	七、五九〇	
小川賢次郎	惠比須町一四	六、六〇〇	
小川彌四郎	西濱町一五	四九三、二一〇	
小川 フヨ	西濱町一五	〇、六〇〇	
小川☆兵衛	會所町四	二一、七〇〇	
小川長之助	末廣町三四	一〇二、八六〇	
小川 龍吉	相生町五三	一三、六一〇	
小梅 ナツ	相生町五三	八、九〇〇	
小村 ツル	鍛冶町三一	九、二一〇	
小川 佐助	船場町三	六一、八九〇	
小川 ヤス	寶町三九	二二、八五〇	
小鴨 丈助	汐止町七	一四、九一〇	
小笠金次郎	辨天町三九	三三、九七〇	
小笠原カヲ子	汐見町一三	一三、六五〇	
小田 カツ	鍛冶町二四	六、五〇〇	
小田 禮藏	鶴岡町六四	六、一〇〇	
小谷和右衛門	幸町四	一六、〇九〇	
小谷 九吉	船見町四三	一三、九〇〇	
小谷 一郎	惠比須町五四	八、四〇〇	
小中不二男	元町六一	一三、六一〇	
小野榮太郎	龜田村	八、六一〇	
小野秀次郎	大町三七	二〇七、〇〇	
小野 莊吉	西川町五九	一三、〇〇〇	
小野 勝雅	汐見町一三	八、四一〇	
小野與三郎	松風町二六五	一三、八四〇	
小野寺一男	惠比須町五五	三三、七一〇	
小野 龜治	天神町六	一五、六五〇	
小口 清	元町二二	七三〇〇	
小熊幸一郎	西濱町一九	四五、二〇〇	

所得納稅者人名表

小山辰三郎	小舟町四八	八、〇〇〇
小山　富藏	大町一八	三五、〇〇〇
小山大次郎	西濱町一八	二〇二、三五〇
小山友次郎	末廣町五四	三八、七〇
小山　仁平	元町六九	一五、二一〇
小山　友春	汐見町四	八、四〇〇
小山内敬六郎	末廣町七	三四、五二〇
小笹　千藏	海岸町五一	七、四二〇
小柳次郎吉	富岡町八	三七、五四〇
小寺　義雄	富岡町一〇	九、六〇〇
小綱富太郎	末廣町一一五	二三、〇一〇
小澤　美津	逢萊町九	九、三一〇
小澤　文司	元町一三	七、一六〇
小澤德次郎	鍛冶町四五	六、三六〇
小坂爲次郎	富岡町七八	一九、二六〇
小島竹次郎	海岸町五〇	七、五六〇
小島　久吉	寶町三七	三二、一八〇
小島平次郎	辨天町五七	六、六〇〇
小嶋與三郎	辨天町五八	七、七二〇
小島　セン	末廣町九九	二〇〇、九七〇
小島　ツタ	末廣町九九	三、〇四〇
小島　良助	末廣町九〇	一四、九五〇
小島　榮助	鶴岡町七	一九、三六〇
小島　嘉吉	船場町二五	九、六〇〇
小島千代松	地藏町一	三、三一〇
小島久次郎	船場町二二	七、九四〇
小島滋次郎	惠比須町四一	九、〇〇
小森與三松	東雲町二四一	六四、三一〇
小森　良吉	東雲町二四一	四、一五〇
小森　芳記	船見町九	一六、三六〇
小森鐵三郎	相生町一四	八、〇六〇
小菅彦次郎	東雲町二四二	一四、九五〇

小杉　龜吉	豐川町一	一四、六六〇
小別當ナカ	逢萊町一五五	九、八八〇
小杉　良吉	東濱町二五	一六、四一〇
小野　忠治	相生町四九	八、四〇〇
小林米次郎	天神町三一	七、四四〇
小林榮次郎	天神町七〇	九八〇、四七〇
小川　久松	元町五七	九、六〇〇
小島　一明	青柳町四二	六、二四〇
小川原秀雄	東濱町一九	一六、六三〇
小關秀三郎	船場町	六、〇〇〇
小池　常靜	汐見町一八	一八、一四〇
小島　益藏	鍛冶町三一	六〇、九一〇
小竹幹三郎	會所町二	七、一〇〇
小西　由藏	海岸町六四	七、一〇〇
小松　傳三	青柳町二六	六、一四〇
小口寅次郎	汐上町二一	六、〇一〇
小西　勘藏	大町四五	一五、一一〇
小西　キク	大町四五	五、九〇〇
小林　七松	大黑町七四	一五、一一〇
小松浦太郎	富岡町二	一三、七三〇
小野藤次郎	大黑町六五	六、七六〇
小野久米之助	東川町二〇九	六、四八〇
小川文治郎	船場町	七、二〇〇
小松清次郎	會所町四〇	六、四八〇
小枝　トモ	逢萊町一五四	一三、六〇〇
小町　乙藏	豐川町二八	六、七八〇
小松保太郎	豐川町一四	二五、一六〇
小畑　定吉	大町四二	八、四〇〇
小山治三郎	鍛冶町六	九、三六〇
小澤　萬平	大黑町一二六	九、六〇〇
小林　寧	元町三一	一八、一四〇
小西　善藏	逢萊町一三七	八、一〇〇

所得納稅者人名表

小杉正次郎	曙町二	一六、八四〇
小倉　基	青柳町二五	二一、一五〇
小島　豊吉	大町四三	一三、六〇〇
小島德三郎	大町四三	四、〇一〇
黄金井解三	末廣町九一	八、四〇〇
郡　廣三郎	船場町	六、五四〇
小橘　龜三	東濱町三九	六、〇〇〇
小黑　トク	相生町二一	七、〇〇〇
腰山　長吉	地藏町九	六、〇〇〇
遠藤　吉平	元町四〇	二二〇、六九〇
遠藤伊三郎	榮町一二	七、九二〇
遠藤　榮	旭町二四	六、三四〇
遠藤　作藏	青柳町七〇	六、三四〇
遠藤喜四郎	惠比須町三	九、二〇〇
遠山　廣吉	東濱町三六	二〇、一六〇
遠山　虎吉	蓬萊町三一	六、四八〇
衞藤　民藏	會所町七	七、八〇〇
越田小太郎	辨天町一四	二三、〇二〇
越郷玉太郎	新濱町五	七、五八〇
越郷　九郎	新濱町五	五、二五〇
越川德太郎	大町三七	二三、六八〇
越村　清勝	富岡町一〇	二三、八一〇
越前　榮吉	船見町四三	三七、二六〇
越後太兵衞	末廣町三	一二、八一〇
越後　弟助	若松町五二	六、〇二〇
江口　淡	會所町六六	一三、二四〇
江口卯太郎	元町五七	九、六〇〇
江口岩太郎	元町一六	四五、五四〇
江原　新藏	辨天町三三	六、〇〇〇
江原　正則	元町一六	六、〇〇〇
江刺永ヨシ	會所町二三	一七、六八〇
蛯名　リサ	旅籠町二七	七、七二〇

蛯子　正熙	音羽町五一	七、〇三〇
蛯子確太郎	音羽町五一	五、一二〇
榎本幸太郎	鶴岡町五	九、三六〇
榎本　淳	龜田村	一九、五七〇
寺　喜太郎	東川町二四	一九、三六〇
寺井德三郎	大黑町三四	八、〇四〇
寺井四郎兵衞	末廣町九二	一、六〇六、五〇〇
寺田靜一郎	東川町一七二	七、九〇〇
寺岡　由松	旭町二四〇	七、一〇〇
寺田半四郎	旅籠町八〇	七、四〇〇
寺島吉次郎	海岸町五九	七、九〇〇
寺島喜左衞門	末廣町三四	七、五四〇
寺部　治平	天神町七四	八、四〇〇
寺尾　庄藏	鶴岡町三三	六七、四六〇
寺尾　ツル	鶴岡町三三	〇、一四〇
出村幸太郎	海岸町五〇	一三、九二〇
出口万之助	春日町二〇	四九、六八〇
傳法　兵吉	大黑町七五	一三、三一〇
照井　一郎	海岸町六五	六、一六〇
青木幾太郎	若松町三四	二一、六七〇
青山松四郎	住吉町四三	七、〇〇〇
青山　定吉	住吉町四三	六、三二〇
青柳兵一郎	大黑町九九	八、三〇〇
青柳　弘	海岸町六二	六、〇〇〇
青木　陽平	相生町六	六、〇八〇
青木　トメ	寶町二二	六、〇〇〇
青木　榮吉	東濱町五〇	八、〇〇〇
青野　爲造	若松町一〇一	八、〇〇〇
足立　清	相生町五九	七、二〇〇
足立伊之助	地藏町五	一三、八四〇
足立七次郎	富岡町六	九、六〇〇
足羽　鶴藏	谷地頭町	八、〇四〇

阿部寅四郎	鶴岡町三五	八六、二三〇
阿部九平治	蓬萊町一五五	六七、三二〇
阿部　新七	船場町二	四〇、〇二〇
阿部　彦七	西濱町三九	五六、八六〇
阿部傳治郎	西川町五三	七、五三〇
阿部　傳吉	龜田村	七、二〇〇
阿部元三郎	末廣町六〇	一八、一四〇
阿武　忠祐	天神町四一	四五、五四〇
阿木　サク	榮町番外	一六、三〇
阿部　銜介	青柳町二七	四五、五四〇
阿部　粂吉	西川町一三	八、九八〇
阿部丑太郎	龜田村	九、六〇〇
阿部吉四郎	寶町三一	六、〇〇〇
安田　次郎	大町一六	六、六〇〇
安田　サヨ	蓬萊町九四	一五、三五〇
安達善次郎	鶴岡町一二	一三、三六〇
安達吉次郎	汐止町一二	七、一八〇
安森　善吉	臺町六	三二、二七〇
安森　タケ	臺町六	三、八四〇
安齋　仁吉	惠比須町五七	二一、五〇〇
安部　忠明	元町四八	六、四八〇
安部初次郎	鶴岡町四七	一七、四二〇
安滿充五郎	壽町二三	四七、七九〇
安藤　武	會所町八	八、四〇〇
安元　久雄	谷地頭町四八	一二、六〇〇
安[illegible]幸太郎	大黑町三九	六、四二〇
安[illegible]辨之助	船見町三二	四六、八三〇
安井　利吉	旅籠町八七	六、〇〇〇
安井　忠作	鶴岡町二〇	七、五四〇
相馬　哲平	大町二二	三一、七九三、四三〇
相馬　堅彌	大町二二	八九九、六九〇
相馬　市作	大町二二	七三四、六四〇
相[illegible]直次郎	大町二二	一二六、一七〇

相馬　省三	大町二二	一七、九六〇
相馬理三郎	西濱町二七	五六、三〇〇
相馬健一郎	辨天町五九	八三、五一〇
相澤　玄理	鶴岡町三一	六、四六〇
相澤　タヲ	天神町一三八	一九、二六〇
相澤　兵作	辨天町七六	八、二二〇
相原寅之助	若松町一一〇	一六一、一二〇
相原　昇	若松町一一〇	二〇二、八〇〇
相木龜三郎	地藏町六五	一七、四一〇
相川與三郎	末廣町三四	一六、二七〇
相川　四郎	東濱町五六	二四、九二〇
相良純次郎	龜田村	八、〇四〇
相澤德次郎	西川町七六	六、〇〇〇
相馬富次郎	春日町一五	六、〇〇〇
相澤　豊吉	高砂町二〇	六、〇〇〇
網塚忠兵衛	大町一七	三三六、九一〇
網塚壽太郎	惠比須町一四	二八、二〇〇
網塚德二郎	惠比須町一四	一一、五六〇
網塚　壽三	惠比須町一四	九、〇四〇
秋山富三郎	春日町六	一五、二三〇
秋山市三郎	春日町六	五、〇四〇
秋山　欽哉	龜田村	九、六〇〇
秋山　テツ	惠比須町六七	一七、五六〇
秋葉　チヨ	相生町五四	七、二〇〇
秋南長太郎	蓬萊町三一	二三、一四〇
秋尾八四郎	高砂町一八	七、二六〇
秋山岩三郎	鶴岡町三二	一九、九九〇
秋山　與市	船見町	六、〇八〇
秋葉勘三郎	汐止町三	一五、二〇〇
明石小三郎	會所町三九	一七、一二〇
明石正三郎	末廣町九五	六〇、七九〇
明石勇太郎	末廣町九五	三、五七〇

明石悦之丞	元町七一	淺野 珍作	壽町二四
明石茂太郎	寶町一	淺野 サワ	相生町八〇
荒谷辰次郎	東雲町二八	淺沼 善助	壽町二三
荒谷多次郎	天神町三三	淺岡 梅吉	末廣町三四
荒谷治郎右衛門	住吉町三八	淺岡 コト	惠比須町一四
荒谷 甚作	住吉町三六	淺岡 トキ	惠比須町一四
荒井 廣吉	末廣町三二	淺井五左衛門	遂萊町一一五
荒井勘次郎	大黒町一五一	淺井重太郎	榮町一二三
荒木 榮吉	若松町一〇二	淺賀 音吉	相生町一八
荒木商三郎	惠比須町一七	淺見初太郎	元町一六
荒井松五郎	惠須町一九	淺野義三郎	船見町三〇
荒川 文七	西濱町三七	淺利藤太郎	末廣町四九
荒谷 孫助	相生町四八	淺賀 重吉	相生町八六
新谷 新吉	辨天町二	淺岡 壽治	青柳町一六
荒木 メエ	末廣町二〇	赤坂 源助	相生町一七
淺野 健治	春日町二〇	赤山久太郎	青柳町一七

	七、一〇〇		八、四〇〇
	七、六八〇		一三、七一〇
	七、四四〇		八、六一〇
	三五、七九〇		九〇、二五〇
	六、六〇〇		一一、三四〇
	六、六〇〇		三、八〇〇
	二〇、五一〇		一四、一九〇
	八、〇〇〇		六、六八〇
	一五、六〇〇		一四、六八〇
	二三、五八〇		六、九六〇
	一八、二三〇		八、〇〇〇
	七、五〇〇		八、〇〇〇
	六、〇〇〇		一七、〇〇〇
	九、四八〇		六、四四〇
	一四七、五七〇		一九、六八〇
			六、九二〇

赤澤長兵衛	眞砂町三	天野 キヨ	西川町五二
赤井幸六郎	大町五	天野儀三郎	青柳町二七
赤座 忠義	元町四四	會津才次郎	西川町六
赤川 ヨシ	船場町二四	鎧谷 由松	西川町六五
赤石 トキ	東濱町四九	蘆野乙次郎	天神町
旭 太作	末廣町	合田耕之助	天神町七〇
有江金太郎	東川町二一七	磯山喜壽太	惠比須町七三
有田 儀助	天神町七九	遂田 儀助	谷地頭町
雨夜小太郎	西川町五七	櫻場 守三	天神町七〇
朝倉 一來	龜田村	齋藤 助藏	豊川町一五
朝岡 照	元町四三	齋藤 丑藏	若松町二二
朝井重太郎	會所町一八	齋藤 文治	西川町六一
穴釜要太郎	鰹澗町五二	齋藤 兵助	西川町五一
淡路 勘治	末廣町七五	齋藤保太郎	惠比須町四四
天間 岩藏	相生町八〇	齋藤 政三	相生町五四
天野 秀正	汐見町二七	齋藤 清負	大黒町七四

	一四、二四〇		六、〇〇〇
	一三、八九〇		九、六〇〇
	一四、三六〇		八、〇〇〇
	七、二〇〇		一五、九六〇
	六、〇〇〇		六、〇〇〇
	六、〇〇〇		六、七二〇
	三九、一六〇		一三、二五〇
	八、四〇〇		六、〇八〇
	四九、〇六〇		一四三、五二〇
	六、〇〇〇		一七、六二〇
	六、〇〇〇		一三、六〇〇
	七、二〇〇		一四、三九〇
	一八、四〇〇		八、〇〇〇
	一五、八六〇		八、一四〇
	八、八〇〇		三七、九三〇
	八、四〇〇		八、四〇〇

所得納稅者人名表

齋藤 德藏	會所町四七	二、九三〇
齋藤儀三郎	末廣町六三	一三、六五〇
齋藤 重藏	辨天町四五	五四、一三〇
齋藤 猛逸	汐見町三三	七、二〇〇
齋藤 定吉	春日町二八	三、六八〇
齋藤大一郎	榮町六八	三八、五七〇
齋藤 修平	榮町六八	八、二八〇
齋藤 岩藏	龜田村	七、二〇〇
齋藤又右衞門	末廣町四九	四一、七三〇
齋藤豁三郎	曙町一四	八、九六〇
齋藤 清七	末廣町九	二〇、一三〇
齋藤與三郎	眞砂町三	九、〇〇〇
齋藤初五郎	大町四一	六、九〇〇
齋藤 福松	末廣町六六	六、六〇〇
齋藤松太郎	鶴岡町六四	五、一六〇
齋藤 俊助	相生町七三	九、四〇〇
齋藤 淺吉	末廣町四	七、二八〇
齋藤久太郎	末廣町六〇	七、六五〇
齋藤 祐二	春日町一五	六、〇〇〇
齋藤 俊吉	谷地頭町	六、一八〇
齋藤 光守	會所町四二	六、四八〇
齋藤 藤藏	仲濱町	六、六〇
齋藤松太郎	豊川町二四	六、〇〇〇
堺 正吉	船見町一四四	九、四四〇
堺 和悅	曙町三	一四、九七〇
堺谷 敏祐	船見町九一	六、九〇〇
笹 佐吉	海岸町三九	六、三八〇
笹村圓次郎	松風町二七七	一四、九九〇
笹村 タマ	松風町二七七	一、八九〇
笹 本 衰	元町一五	一五、七九〇
笹谷新太郎	旭町二四〇	一九、七八〇
笹野德之助	末廣町七七	一八、八〇〇

笹島吉與門	東雲町二四二	四、三一〇
笹島吉之助	東雲町二四二	三、三六〇
笹垣吉三郎	辨天町三三	八、三〇〇
笹井 賢三	西川町七二	六、三四〇
笹井 和吉	龜田村	九、六〇〇
澤 豊吉	鍛冶町三〇	二、六七〇
野澤 民藏	大町二六	六、〇〇〇
澤田 光長	相生町六七	一八三、五九〇
澤田辰次郎	元町七	一九、六六〇
澤口 喜藏	海岸町一七	八、九四一〇
野村 愼德	高砂町一〇	一八、一四〇
澤井 才治	船場町一一	八、二六〇
澤田 磯吉	榮町四七	七、二〇〇
澤田倉次郎	鶴岡町五〇	六、〇〇〇
澤株仁三郎	大黒町一一一	六、一〇〇
櫻庭勝太郎	相生町九四	六、〇〇〇
櫻井 直一	會所町七	四九、四七〇
櫻井永次郎	海岸町三四	六、三四〇
佐藤金太郎	船場町	一三、六一〇
佐藤 春治	會所町三五	七、九二〇
佐藤亥之助	船見町	一六、三八〇
佐藤辰五郎	末廣町一二八	三三、六八〇
佐藤 又藏	船場町一四	六、六〇〇
佐藤 善也	東雲町二五	四、八〇〇
佐藤ヨシシ	東雲町二五	一、三三〇
佐藤イワヲ	東雲町二五	一、三三〇
佐藤 永助	蓬萊町一〇七	一八、一四〇
佐々木忠兵衞	船場町一二	一六、一九〇
佐々木千代	船場町三	一〇、三四〇
佐々木吉兵衞	末廣町二四	六六、五九〇
佐々木榮助	大黒町九三	七、九四〇
佐々木太仲	元町七一	七、二〇〇

所得納稅者人名表

佐々木藤治	蓬萊町一五五	七、五四〇
佐々木サタ	蓬萊町一五五	一六、三五〇
佐々木吉三郎	汐止町一八	六、〇〇〇
佐々木久之助	曙町一	六、五〇〇
佐々木新八	蓬萊町一〇	六六、五九〇
佐々木小八	若松町六〇	一八、七七〇
佐々木ハマ	蓬萊町一四四	五一、二〇〇
佐々木アサ	蓬萊町一四四	一、九八〇
佐々木智	元町三一	二一、一七〇
佐々木淺吉	船見町六三	九、六〇〇
佐々木鶴松	船見町五二	九、六〇〇
佐々木毅	汐見町七	七、二〇〇
佐々木喜	汐見町二三	八、四〇〇
佐々木與右衛門	惠比須町三七	二〇、二四〇
佐々木仙松	海岸町三四	八、〇三〇
佐々木ヂワ	幸町九	九、七二〇

佐々木德次郎	蓬萊町二一	四一、四〇〇
佐々木定吉	地藏町三	三〇四、七五〇
佐々木留次郎	蓬萊町一一六	六、五六〇
佐々木市太郎	汐止町三	一八、五六〇
佐々木ツマ	相生町七七	六、四〇〇
佐々木末吉	末廣町九	六、〇〇〇
佐々木吉太郎	音羽町四七	六、〇〇〇
佐々木由藏	東雲町二八〇	一三、一五〇
佐々木定吉	東雲町二八〇	三、一三〇
佐々木銀造	鶴岡町七〇	七、〇〇〇
佐々木ヨシエ	寶町二九	六、〇〇〇
佐々木佐助	船場町二五	六、三六〇
佐々木サメ	相生町六〇	一四、三一〇
佐々木金藏	船場町二五	八、〇〇〇
佐々木仁三郎	天神町四四	六、〇〇〇
佐々木敬太郎	東雲町二八一	六、七一〇

佐々木吉太郎	相生町九二	七、九二〇
佐々木完太郎	元町七一	六、四八〇
佐々木清三郎	船見町九二	六、〇〇〇
佐々木平次郎	辨天町一七	一一〇、一五〇
佐野乙五郎	豊川町二一	六、七四〇
佐野　半平	西川町二九	三三、六九〇
佐野右馬之助	青柳町一	二五、〇五〇
佐野豊太郎	大町三	一三、六一〇
佐野　政次	鶴岡町三七	四〇、〇七〇
佐野　定七	龜田村	三九、四七〇
佐野喜代八	幸町一	一六、八八〇
佐々　愼三	青柳町七四	一七、七三〇
佐々　チヨ	青柳町七四	二五、八〇〇
佐多　彦美	天神町九三	二〇、七五〇
佐久間テル	蓬萊町三六	八、〇四〇
佐中　敬常	春日町三九	七、八〇〇

佐中　米藏	春日町三九	一二、六〇〇
佐賀　イワ	地藏町四七	一二、八三〇
佐賀邦次郎	曙町四	七、一四〇
佐渡辰次郎	惠比須町四七	七、九二〇
佐久間德次郎	海岸町六九	九、六〇〇
佐伯　叔作	末廣町	六、〇〇〇
佐伯　辰雄	船場町	一五、一一〇
猪川　宮吉	鶴岡町三〇	七、一〇〇
諏訪　新吉	天神町七〇	五三、七四〇
魚谷　藤松	汐止町一七	六、〇六〇
櫻井　リエ	蓬萊町一三四	四九、六八〇
櫻井　ヨシ	蓬萊町一三四	一五、五九〇
櫻井　軍次	富岡町七	六、〇〇〇
櫻田儀三郎	若松町一〇八	七、〇〇〇
櫻井　竹松	西川町四一	八、〇〇〇
更科虎五郎	元町四二	一四、〇一〇

榊 盛次	相生町七二	六、〇〇〇	
榊 茂夫	船場町一九	一四九、〇四〇	
榊原惣治郎	惠比須町五一	二四、三四〇	
坂井長三郎	鰮澗町二三	六、〇〇〇	
坂口 久作	大森町一	六、〇〇〇	
坂井 正義	船場町二二	一九五、七八〇	
坂井 定吉	辨天町二三	六四、六三〇	
坂井惠十郎	青柳町三九	一三、七八〇	
坂井 釘治	壽町 三	六、〇〇〇	
坂口末太郎	鍛冶町一四	七、二〇〇	
坂口已千之	元町四三	六、七二〇	
坂本 藤吉	會所町五八	二、四四〇	
坂部 キン	蓬萊町二	一五二、二四〇	
坂下 常吉	青柳町一四	一〇、四四〇	
坂下一郎	青柳町四	六、七〇〇	
坂本 政司	鶴岡町五二	二四、九五〇	
坂本 小作	惠比須町五五	六、〇〇〇	
坂本 末松	船場町	七、二〇〇	
坂田 金章	豊川町二一	一七、二四〇	
坂本 兼吉	末廣町五七	一九五、四五〇	
坂本 作平	西川町一五	六、〇〇〇	
酒谷 善助	幸町八	一三九、七二〇	
酒谷國太郎	幸町八	二三、五九〇	
酒谷彌右衛門	旅籠町五	六、三六〇	
酒谷 ツル	旅籠町五	六、二〇〇	
酒澤岸太郎	辨天町六	一五、一四〇	
酒井德太郎	地藏町一五	七、〇〇〇	
酒井 長作	仲濱町二八	八、〇〇〇	
酒井 丑藏	相生町	九、〇〇〇	
鮫島 正亮	東濱町三	七、二〇〇	
佐藤八十八	幸町九	一六四、九二〇	
佐藤作太郎	住吉町二八	五一、七五〇	

佐藤 ヨシ	住吉町二四	二、四八〇	
佐藤 良行	汐見町七	九、六〇〇	
佐藤 龜吉	青柳町五〇	八、四〇〇	
佐藤 大藏	青柳町六二	九、〇〇〇	
佐藤太郎治	築町十五	七、四〇〇	
佐藤文次郎	旭町三四	一九、七〇〇	
佐藤 嘉八	地藏町四六	三九、七〇〇	
佐藤 宗助	地藏町五二	四三、七〇〇	
佐藤 峰彌	西川町一〇八	二、一六〇	
佐藤 市彌	西川町一〇八	一四、三三〇	
佐藤慶次郎	西川町一〇八	七、二七〇	
佐藤佛次郎	西川町二	一六、七六〇	
佐藤 寅藏	地藏町一三	一四、二六〇	
佐藤直次郎	天神町八〇	六、五四〇	
佐藤 三郎	住吉町一五	六、〇〇〇	
佐藤 倉吉	鶴岡町三六		
佐藤 森吉	船場町一九	六、〇〇〇	
佐藤 善吉	汐止町七	六〇、九四〇	
佐藤重五郎	汐止町七	三六、〇六〇	
佐藤甚之助	西濱町三二	一八六、四四〇	
佐藤篤太郎	壽町二四	一五、一一〇	
佐藤彦左衛門	末廣町九七	八、五二〇	
佐藤德太郎	相生町三二	一四、三九〇	
佐藤 昌茂	元町一二	四〇、二三〇	
佐藤 善次	豊川町五〇	六〇、五一〇	
佐藤 潔	曙町一六	七、六一〇	
佐藤 三藏	新濱町六	一四、八九〇	
佐藤 綉三	天神町四七	一四、二一〇	
佐藤 吉藏	旅籠町二五	八、八〇〇	
佐藤米太郎	富岡町五	八、〇〇〇	
佐藤三左衛門	龜田村	一五、九八〇	
佐藤長兵衛	龜田村	二二、二四〇	

所得納稅者人名表

佐藤槌之亟	元町一五六	五五、二〇〇
佐藤　ヨシ	船見町七	一八、五〇〇
佐藤　廉	富岡町一	四一五、九九〇
佐藤長兵衛	辨天町五五	六、八〇〇
佐藤倉之助	西濱町四	八、八〇〇
佐藤　俊一	青柳町	八、一六〇
佐藤　仁市	末廣町五六	六、四〇〇
佐藤　良仲	相生町六七	六、〇〇〇
佐藤利三郎	豊川町四一	一三、一三〇
佐藤　權作	惠比須町五三	九、八八〇
佐藤　廣次	蓬萊町三一	一八、一四〇
佐藤　カセ	鶴岡町六	一二、六〇〇
佐藤太郎吉	鶴岡町三	一六、一一〇
佐藤　元吉	東濱町三三	一六、二一〇
佐藤平次郎	鶴岡町六五	一七、八九〇
佐藤　甚平	鶴岡町五七	一五、三七〇
佐藤久治郎	元町三一	六、〇〇〇
佐藤市太郎	龜田村	一七、八二〇
佐藤　サタ	蓬萊町一〇六	一七、二〇〇
佐藤　和藏	汐止町九	一三、一〇〇
佐藤三四郎	地藏町一〇	八、三八〇
佐藤長五郎	富岡町七	六、〇〇〇
佐藤行三郎	船場町	六、〇〇〇
桐野　興吉	天神町七四	八、四〇〇
菊枝　興藏	天神町七四	六、〇〇〇
桐野　綱藏	青柳町三三	七、二〇〇
京谷卯之松	大黒町三三	二三、九四〇
北村　庄平	西川町七〇	一七、三六〇
北村　サク	蓬萊町一四五	六、四二〇
北山時太郎	音羽町二一	七、八二〇
北山友次郎	船場町二三	二三四、九八〇
北川　芳之	富岡町一〇	五〇、五八〇
北守　政直	元町五〇	四三、三一〇
北守　シゲ	元町五〇	〇、九四〇

北原鉦太郎	豊川町五九	一七、〇一〇
北條　盛英	青柳町三二	九、八四〇
北潟谷喜太郎	豊川町四六	八、九四〇
北村寅次郎	船見町六三	九、六〇〇
北野松太郎	天神町四二	九、六〇〇
北村　吉松	天神町一〇三	七、二〇〇
北村　爲藏	蓬萊町八一	九、〇〇〇
北田　儀助	海岸町三九	七、五〇〇
北田　ミツ	東川町二〇九	一三、六一〇
北田　勇藏	鶴岡町三一	一七、三〇〇
菊地　寛次	元町七一	八、四〇〇
菊地治郎右衛門	壽町二四	三四九、二七〇
菊地　伴吉	船場町一八	一二、七一〇
菊地　英三	鶴岡町一二	二八、九八〇
菊地　洲二	鶴岡町一二	一三、八〇〇
菊地　久治	汐見町一九	六、〇〇〇
菊川　フク	蓬萊町一五三	八、七八〇
菊川　熊吉	船場町二二	八、四〇〇
菊地　淺吉	惠比須町二〇	六、二八〇
菊地　常雄	船場町	四一、四〇〇
菊地　ちゑ	末廣町一〇七	七、六四〇
木村　ソヨ	西川町二	一四、二八〇
木村圓太郎	惠比須町三八	六、〇〇〇
木村　鹿造	青柳町三四	二三、一八〇
木村市太郎	若松町四三	四一、四五〇
木村松太郎	鍛冶町一〇	七、五〇〇
木村彌兵衛	若松町二〇	九、四八〇
木村　定吉	若松町二〇	〇、一四〇
木村市三郎	音羽町六二	一〇、三五〇
木村　嘉七	音羽町六二	二九、七六〇
木村　庄吉	富岡町一〇	一八、一四〇
木村　熊吉	大森町二	九、五八〇

所得納税者人名表

木浪谷作藏	仲濱町二六	一三、〇一〇
木下初三郎	船見町六三	五、六〇
木下　龜吉	大黒町四〇	一三、一〇〇
木下　利吉	惠比須町七二	七、〇〇〇
木下清次郎	地藏町五六	一八、四五〇
木下　順乘	地藏町五六	一九三、〇六〇
木下松太郎	地藏町五六	二、三九〇
木下　善一	曙町九	一八、八六〇
木下　トキ	曙町九	一、五〇〇
木下　クニ	曙町九八	三、一七〇
木下金兵衛	谷地頭町五	六、八二〇
木田　チヨ	天神町一八	四五、四〇〇
木田長右衛門	天神町一八	四七、五一〇
木島　榮次	西川町六二	三四、五〇〇
木島　豐治	末廣町三二	三六三、二八〇
木島　光治	末廣町三二	七、五六〇

木原源七郎	豐川町一〇	一八、二四〇
木原　幸藏	汐止町一七	一三、六一〇
木代　力松	海岸町九三	六、三六〇
木下登三郎	元町一二	一八、一四〇
木村與一郎	船場町	三七、一六〇
木下　勘藏	東濱町三九	九、六一〇
木下　善彌	大町三四	六、二八〇
木下　鶴藏	豐川町五三	八、七六〇
木山三郎吉	惠比須町二九	六、〇〇〇
喜田　節二	壽町八	一三、六一〇
喜多村峰吉	地藏町一	七、〇一〇
喜多伊三郎	船場町	四九、六八〇
喜多見福吉	豐川町四二	六、四〇〇
岸田　直司	寶町三三	五、七六〇
岸田　元吉	寶町三二	一、六八〇
岸田　貞七	寶町三二	六、〇〇〇

湯山春三郎	相生町二	一三、〇〇〇
湯川榮之助	末廣町四〇	三四、五〇〇
遊佐　磯治	船見町九二	二〇、九六〇
由比與三郎	惠比須町七四	三三、一四〇
由利　良謙	惠比須町四八	八七、八一〇
由利　皆吉	會所町二五	七、一〇〇
結城　祐吉	西川町七〇	七、六四〇
幸島　修作	豐川町三三	二六、六三〇
目黑萬治郎	相生町九一	七六、七五〇
目黑　やゑ	相生町九一	一七、六〇〇
目崎　藤吉	鶴岡町五五	六、二一〇
目黑德次郎	青柳町	八、六六〇
道瀨　常吉	船場町	七、一〇〇
道下榮次郎	西川町八九	六、五〇〇
宮崎　鶴吉	西川町五一	六、〇〇〇
宮崎岩次郎	大黒町四七	九、六〇〇

宮本　ツル	青柳町八	六、一〇〇
宮崎喜太郎	龜田村	七、一〇〇
宮崎竹四郎	旭町二三八	四七、四七〇
宮崎　さよ	相生町五〇	一四、七一〇
宮崎　ヨシ	東濱町四八	一五、一二〇
宮崎　休平	青柳町二五	七、一四〇
宮崎松太郎	仲濱町二八	九八一、二〇〇
宮崎　恒吉	西濱町八	一三、六一〇
宮崎恒次郎	海岸町一〇〇	七、九六〇
宮崎　末吉	地藏町一	六、〇〇〇
宮崎金之助	若松町六七	七、四八〇
宮崎　榮助	末廣町三九	四一、五一〇
宮崎　彌藏	富岡町七	九、六〇〇
宮川誠太郎	蓬萊町一二二	八、四〇〇
宮川巳代治	若松町六八	八、〇一〇
宮脇多三郎	富岡町七	九、二〇〇

宮脇　政吉	富岡町七	八、四四〇	
宮本武之助	東濱町一〇	九二、九〇〇	
宮本賢次郎	遂萊町一五五	一三、九四〇	
宮本　源吉	東濱町四〇	三五、九三〇	
宮越　熊吉	元町五六	七、二〇〇	
宮越敬之亟	春日町二四	六、四八〇	
宮石　マン	東川町二二〇	六、二四〇	
宮地　義明	曙町一九	一五、一二〇	
宮石八太郎	若松町七二	三五、三五〇	
宮田定右衛門	地藏町五九	一六、八五〇	
宮津磯次郎	春日町一五	七、二〇〇	
宮松茂左衛門	末廣町六	一九一、三五〇	
宮原　德松	惠比須町六〇	三一、六四〇	
宮路　鈴吉	惠比須町三八	一八、三一〇	
宮村松次郎	鶴岡町六二	一八、八八〇	
宮澤　嘉貞	若松町四九	一三、六三〇	
宮木錦三郎	末廣町九	一五、一三〇	
宮内佐太郎	東川町	一五、一三〇	
宮内敬太郎	龜田村	一九、五七〇	
宮越長之助	寶町七	六、〇〇〇	
宮脇　善吉	富岡町七	七、〇〇〇	
宮田仁太郎	大町四四	八、〇三〇	
宮澤　貞治	若松町三五	七、四四〇	
湊　傳次郎	天神町八三	六、四八〇	
御厨　眞胤	元町四一	三九、五一〇	
水嶋　隣太	谷地頭町一〇	一五、〇一〇	
水野彌三次郎	鶴岡町二九	七、二〇〇	
水野　藤吉	曙町一	三、三〇	
水上　知三	眞砂町八	一七、二八〇	
水谷喜右衛門	鶴岡町三二	六、〇〇〇	
水谷安太郎	東雲町二四二	七、三〇〇	
水口忠三郎	魯川町二三	五八、五一〇	

水間　勇	惠比須町九	一六、六三〇	
水山清治郎	海岸町三三	八、〇八〇	
三浦　政吉	東川町一九八	八、〇〇〇	
三輪竹次郎	幸町九	二〇、八三〇	
三浦　正忠	鶴岡町一九	一四、四七〇	
三浦與四郎	汐止町九	六、〇〇〇	
三浦　音松	西川町六三	七、八〇〇	
三浦　誠一	地藏町九	八、〇八〇	
三浦喜次郎	末廣町四一	三七、六一〇	
三浦要太郎	末廣町四八	一四七、八〇〇	
三浦　新助	相生町九〇	一九、四〇〇	
三浦佐一郎	富岡町二	九一、四三〇	
三浦當太郎	船場町二三	二、七八〇	
三浦　タキ	船場町二三	三、六〇〇	
三田久兵衛	末廣町一九	三六、四八〇	
三田　幸藏	末廣町九	二一、九〇〇	
三田　ソメ	若松町九	一三、五一〇	
三國與平治	西川町六三	六、〇〇〇	
三上　定一	青柳町四六	七、一〇〇	
三上　房吉	旭町一三八	二一、七一〇	
三上　久吉	相生町一〇〇	一五、一一〇	
三上圓太郎	住吉町一五七	八、〇〇〇	
三上　幸助	大黒町六二	一五、九〇〇	
三上清太郎	相生町五四	六、七〇〇	
三上　長吉	住吉町三三	六、〇〇〇	
三上　朔三	鍛冶町五二	三五、一九〇	
三國　サト	駒止町三二	一五、八八〇	
三谷　鐵藏	末廣町八三	三五、一一〇	
三塚　武治	元町七一	八、四〇〇	
三坂昌太郎	船場町	九、六〇〇	
三坂　亥吉	壽町一〇	五八、五八〇	
三好海三郎	天神町七四	五六、九三〇	

三村 アイ	地藏町四一	七、〇〇〇	
三影 德松	天神町七〇	八、五六〇	
三野 嘉助	谷地頭町九八	九、六〇〇	
三木 兵吉	相生町一六	九、八〇〇	
三木 良藏	海岸町六〇	六、七六〇	
三木幾次郎	富岡町八	一六、六三〇	
三木儀一郎	富岡町一	一八、一四〇	
三浦 由松	船見町一〇九	六、〇〇〇	
三戸 與吉	會所町四〇	六、〇〇〇	
南 寅吉	大黑町三九	一六、六三〇	
南 太三吉	天神町五八	一八、一四〇	
南 庄太郎	大町	一三、六一〇	
南場吉次郎	西川町六九	四五、一〇〇	
南川 重隆	船見町一一九	九、一二〇	
南 文次郎	大町三三	八、四〇〇	
南波 專吉	龜田村	八、八〇〇	
皆川 ヨサ	榮町三六	六、〇〇〇	
冥賀 喜作	東川町一八〇	九、〇〇〇	
溝口 勇助	曙町一三	八、四〇〇	
溝口 景應	仲濱町一八	一二、九八〇	
峰友 茂平	地藏町二七	五五、五二〇	
味方勘次郎	西川町一二	一三、三八〇	
美馬 太市	大町三一	七、八八〇	
芝崎 秀治	豊川町五五	一一三、五五〇	
舖寶 太郎	海岸町三九	一三、三六〇	
城塚政太郎	船見町四七	九、六二〇	
式場 忠吉	東濱町四八	六、〇四〇	
重松市之助	末廣町一四	四二、七八〇	
重地 潛	會所町三一	九、六〇〇	
志村 俊	寶町二三	一三、四六〇	
志賀 イク	蓬萊町五	九三、八四〇	
柴内 一枝	高砂町二三	六、〇〇〇	

柴田 養吉	若松町二三	一五、三三〇	
柴田 政治	惠比須町四〇	六、四〇〇	
篠原哲十郎	船見町八二	四一、四〇〇	
篠原 宗士	龜田村	一三、六一〇	
篠原七郎兵衛	相生町二一	九、一八〇	
進藤吉三郎	大黑町八七	一二、九六〇	
進藤 三吉	大黑町八七	一一、八九〇	
進藤榮太郎	地藏町八	四四二、六八〇	
進藤 義雄	地藏町八	一四、四〇〇	
進藤 富藏	蓬萊町一四三	五四、六三〇	
澁田利右衛門	辨天町四六	三七、五一〇	
澁谷 源吉	元町七一	一三、六一〇	
澁谷 力造	元町二〇	三四、五〇〇	
澁谷金次郎	曙町一八	三六、三四〇	
澁江辰比古	龜田村	九、六〇〇	
澁川 政雄	龜田村	八、〇四〇	
澁谷 フサ	青柳町二七	六、〇〇〇	
品川久太郎	仲町九〇	九五、四五〇	
品田 鹿造	西濱町二八	八四九、九八〇	
下田 タケ	相生町五〇	六、九八〇	
下田長之助	會所町五二	四七、三八〇	
下田茂兵衛	青柳町五二	三六、四三〇	
下田 フサ	青柳町五三	八、二八〇	
下田京次郎	春日町二九	九、四二〇	
下條九平太	若松町二六	二〇、七九〇	
下妻 友造	惠比須町一二	一三、一〇〇	
下村 豊吉	大黑町八六	七、七六〇	
下村 定吉	春日町二	六、七二〇	
下河原留吉	東濱町九	二〇、一六〇	
鹽崎 政吉	東濱町四八	二三、九四〇	
鹽崎 泰輔	相生町八八	四四、四八〇	
鹽原 朝治	地藏町二三	一六二、七〇〇	

鹽冶辨三郎	末廣町一〇〇	八一、〇一〇
鹽谷　德治	大黒町七八	一五、二九〇
鹽谷甚右衛門	末廣町四五	一四、二三〇
白金　サキ	蓬萊町七	一七九、九五〇
白金　セキ	青柳町六三	五八、二四〇
白崎　寅吉	大黒町八七	九、二〇〇
崎七左衛門	地藏町三六	五一、一五〇
白戸政治郎	地藏町六六	一四七、〇二〇
白井甚治郎	天神町七四	六、〇〇〇
白井　猶次	西川町一九	二四、五七〇
白井　秋作	辨天町三二	八、五〇〇
白濱　タオ	船場町三	一四、七八〇
白岩　俊長	谷地頭町九八	一九、二四〇
白山　金助	若松町一〇〇	一六、一一〇
白石豊太郎	壽町一四	一三、六一〇
白井　茂	谷地頭町五	一五、一二〇
白井　政夫	元町四七	六、〇〇〇
清水麟太郎	蓬萊町二ノ二	四四、八三〇
清水　トワ	蓬萊町二ノ二	〇、二一〇
清水　ヨシ	蓬萊町一五五	二六、七〇〇
清水　タカ	蓬萊町一五五	九、〇四〇
清水　大藏	西川町六四	一〇〇、六九〇
清水　政吉	西川町九九	一七、七五〇
清水　ヒサ	旅籠町八八	四六、七一〇
清水太郎吉	東川町一一〇	六、〇〇〇
清水悅太郎	船見町四	八、〇二〇
清水　敬吉	辨天町八六	四一、〇三〇
清野喜惣治	相生町七	一七、三〇〇
清野吉三郎	相生町七	四、八三〇
清水　ハル	蓬萊町五五	一四、四五〇
清水久次郎	寶町二七	一五、一二〇
清田　又吉	末廣町七〇	八、〇〇〇

清田藤次郎	豊川町四二	六、一六〇
清水由太郎	末廣町九	八、〇〇〇
島野　朝吉	鍛冶町七	一五、一二〇
島野市太郎	西濱町一	三四、五〇〇
島崎　イト	谷地頭町六九	六一、二七〇
島谷　藤平	船見町八二	四九、六八〇
島崎金太郎	豊川町二七	一五、一二〇
島谷安太郎	春日町二八	二〇、一六〇
島貫　政治	青柳町一二	一五、一二〇
島津勇太郎	元町四八	九、六〇〇
島田　寅松	豊川町五六	六、七六〇
島田多右衛門	西川町五	四、四一〇
島田　エイ	西川町五	九、四五〇
島田　リセ	東濱町三八	一五、一二〇
島田勝次郎	辨天町三二	四、四二〇
島田　岩吉	辨天町三	二、九〇〇
二本柳ルイ	辨天町三	三、一二〇
島本芳次郎	高砂町一〇	一五、一二〇
島貫長之助	東濱町四二	八、四〇〇
新　ユキ	西濱町一八	五一八、六四〇
新　與三郎	西濱町二九	一、八六二、五一〇
新　彌七郎	大町三八	九九、五二〇
新田　ミカ	大町一六	一三、九四〇
新井田春吉	青柳町五四	一四、六〇〇
新井　宗平	末廣町九六	一七、〇四〇
新井　光藏	末廣町九六	三一、五八〇
新井　重吉	末廣町一四	四〇、九二〇
新田　完一	末廣町二六	八〇四、九八〇
新保　辰治	相生町八四	九、〇〇〇
新庄幸次郎	青柳町三四	三七、一二〇
新沼善三郎	榮町二二六	一三、八八〇
新宅市之助	鱸澗町二九	一八、八〇〇

新田與三吉	天神町八五	八、四〇〇	柴　友治
新　壽	船場町	六、〇〇〇	信野　助治
庄野　利八	東濱町五六	三、七二〇	菱谷三次郎
庄司　金藏	鶴岡町一三	八、九〇〇	姫岩秀治郎
新出　市藏	船見町五二	一五、一二〇	廣田　文助
章　克己	會所町五五	四一、〇六〇	廣部藤太郎
潮田銀次郎	蓬萊町一一	一五、一二〇	廣部　吉松
忍　サツ	船見町一一四	八、九四〇	廣谷　源治
柴野　チセ	青柳町七二	八、九〇）	廣安幸次郎
柴田アヤメ	大黒町五六	八、〇〇〇	廣田　悌作
柴竹　房吉	元町七〇	七、二四〇	東　喜作
茂村　清助	西濱町三四	四、五四〇	東條松五郎
茂村勝太郎	西濱町三四	二、五二〇	東條　常吉
床村　キヨ	西濱町三四	一五、〇一〇	東出長四郎
鹽野　良晴	汐見町二三	一五、七二〇	東出　エキ
清水外次郎	榮町八九	一三、三一〇	東浦政右衛門

東浦喜太郎	天神町八六	一八、一四〇	平田文右衛門
東山　松治	元町三五	八、四〇〇	平田常次郎
東海林豐藏	海岸町六九	七、一〇〇	平田新三郎
樋爪與兵衛	船場町二	五六、三五〇	平田　ミツ
樋爪秀次郎	船場町二	九、五九〇	平田　勇松
樋口　敬吉	蓬萊町一一二	二七、六七〇	平田　藤助
樋口　コト	蓬萊町一一二	一六、九四〇	平岡　盛藏
樋口鐵太郎	旅籠町四五	八、四〇〇	平岡　キク
樋口　重親	東濱町六	八二、一一〇	平岡　新平
樋口多喜藏	東濱町二七	一〇四、一二〇	平松　松平
樋口　島藏	相生町八四	六、九〇〇	平松　與吉
日向　次則	船見町一一〇	三、一六〇	平松ヒヤク
日向　貞助	船見町一一〇	四、五六〇	平出喜三郎
日下部久太郎	大町二五	七、六八〇	平出　定吉
日沼晴太郎	大黒町一七	八、〇〇〇	平野　貞助
平田　薫	壽町二八	一九、六六〇	辨天町二四

末廣町一〇		二二八、四一〇	
汐止町二		六五、二一〇	
元町四六		七、六二〇	
元町四六		〇、一六〇	
龜田村		九、六〇）	
地藏町一一		二三、五二）	
若松町八一		七、三二〇	
東川町二〇九		九、〇四〇	
東川町二〇九		〇、七二〇	
惠比須町一二		一六、三六〇	
青柳町五七		七、三六〇	
天神町七〇		三、七二〇	
船見町一一一		一、六六七、七四〇	
船見町八二		九、五〇〇	
惠比須町四八		七、二〇〇	
辨天町二四		八六、九六〇	

平野富太郎	地藏町三五	六、一〇〇	
平　良治	眞砂町二	一五、三八〇	
平山　新	鶴岡町二八	七、二〇〇	
平川清三郎	大町二九	一八、八〇〇	
平塚　幸八	天神町七九	六、〇〇〇	
平塚庄次郎	東濱町三七	六、三三〇	
平澤幸太郎	相生町一三	三、七〇〇	
平井　トメ	旅籠町三六	六、七三〇	
平山　マツ	蓬萊町八七	八、三〇〇	
平澤藤次郎	東川町四九	六、〇〇〇	
平山　秋司	天神町一〇八	六、〇〇〇	
平賀　種樹	船見町五六	九、六〇〇	
平川　爲助	龜田村	九、六〇〇	
平瀨　清馬	船場町	一八、一四〇	
平井　正道	船見町	三二、六〇〇	
平原　八藏	高砂町一	六、八四〇	
平澤宗太郎	辨天町七〇	六、一八〇	
平山　午吉	若松町四五	六、〇八〇	
栄見　政吉	榮町八	九、六〇〇	
東　鹽太郎	仲濱町	六、四八〇	
廣田　榮助	天神町七八	六、五四〇	
疋田與惣吉	惠比須町一七	一、〇〇〇	
師岡淳四郎	末廣町九九	六、〇〇〇	
最上　長吉	東濱町四九	三五、一三〇	
百瀨傳次郎	鶴岡町七一	五一、二八〇	
百瀨　潤吾	曙町一三	六、〇〇〇	
毛利甚兵衛	豊川町一〇	五五、七五〇	
毛利　與平	鶴岡町五九	六三、五五〇	
毛利津左衛門	龜田村	二〇、三九〇	
盛山　嘉六	蓬萊町一八五	三、六〇〇	
森　久平	壽町二四	一七、二〇	
森　國五郎	海岸町一七	六、七四〇	

森　金藏	惠比須町五五	九、八四〇	
森　清馬	末廣町六一	八六、〇九〇	
森　嘉美太	豊川町五	五六、三七〇	
森　圓次郎	臺場町六四	一四、一一〇	
森　新三郎	仲濱町一三	八七四、八八〇	
森　平造	大黒町四五	九、六〇〇	
森　與六	西濱町一七	一六、七二〇	
森本　留吉	東雲町二四二	六、七二〇	
森本　一郎	豊川町五五	一〇〇、八五〇	
森下　弘	汐見町八	六、九六〇	
森川　菊藏	眞砂町二	八、二三〇	
森田　國藏	汐止町六	一四六、一四〇	
森田藤四郎	若松町四八	一四、一一〇	
森田　常吉	壽町二四	三、六〇〇	
森口　正男	鶴岡町二二	七、九〇〇	
森地由三郎	辨天町三三	七、〇〇〇	
森口萬治郎	東川町二〇九	九、七四〇	
森口七太郎	東川町二〇九	四、二四〇	
森安鐵之助	壽町二四	一三、六一〇	
森山　テル	船見町一二〇	六、七二〇	
森下　磯吉	調町二二	八　四八〇	
森田譯次郎	船場町	一五、一二〇	
森　清吾	東川町二〇五	三、〇一〇	
森　萬作	船見町一二四	三七、九五〇	
森井　富吉	西濱町二	六、〇〇〇	
森　富次郎	大黒町七八	六、二八〇	
仙田德一郎	小船町四	一八、四一〇	
關　兵之助	大町三五	一六、八八〇	
關　省策	龜田村	一八、一四〇	
關口　源造	壽町四四	二四、五七〇	
關　政光	元町三五	八、四〇〇	
關口　半	汐見町一	四八、三〇〇	

所得納稅者人名表

關	てい	天神町	七、〇八〇
關	庄次郎	末廣町五七	七、〇三〇
瀨田松テル		惠比須町七〇	三六、一二〇
瀨田松友吉		鶴岡町四六	八、四二〇
瀨賀	熊吉	山脊泊町七八	六、九四〇
瀨戸	トミ	相生町一四	三、七〇〇
瀨下	豐吉	豐川町七	九、六〇〇
專田	多吉	元町一二	七、六八〇
妹尾喜代次		船場町	九、六〇〇
隅木	イチ	鍛冶町二四	一六、四二〇
助則	勇作	大黑町三	五四、四二〇
末永	正俊	大町三	八、一四〇
末富孝治郎		會所町三	五〇、六二〇
末松	茂	船見町六五	一八、九四〇
諏訪長次郎		山脊泊町四〇	六、〇〇〇
諏訪	慶祿	龜田村	二〇、八七〇
砂澤	正俊	元町一一	六〇、一五〇
砂原	友作	住吉町一五三	七、六二〇
須藤	イマ	蓬萊町一五五	九、八八〇
須藤	守忠	龜田村	七、二〇〇
須藤初太郎		地藏町五〇	九、五〇〇
藤代庄次郎		地藏町五〇	一〇五、二五〇
須貝	要吉	鶴岡町三六	一二、七〇〇
須田	喜六	豐川町四一	六、〇〇〇
須田安五郎		汐見町四	九、六六〇
須藤直治郎		會所町五五	一三、六二〇
須藤	廣吉	龜田村	六、〇八〇
須田	萬次	相生町一五	六、八四〇
菅原	金吉	寶町一	六、〇〇〇
菅原次郎吉		西濱町二六	一八、六七〇
菅原	忠治	惠比須町三五	七、八二〇
菅野	喜助	辨天町七	一四、〇一〇

菅谷	善司	地藏町五七	一、六五七、四五〇
菅村	純之	青柳町一七	三、七一〇
菅沼	マツ	蓬萊町一五五	三、六六〇
菅野	修藏	曙町二	一九、一九〇
菅野	タカ	曙町二	〇、八四〇
菅野	ミヨ	曙町二	三、三一〇
菅野謙次郎		相生町五三	七、〇〇〇
杉浦	嘉七	汐見町一七	一、六五一、七八〇
杉浦	允	汐見町一七	一四、七一〇
杉浦	周作	春日町二一	一六八、九六〇
杉浦	智	寶町一三	九、六〇〇
杉野三次郎		辨天町二一	九九、四三〇
杉村	龜	旅籠町五九	一三、一〇〇
杉村	チム	旅籠町五九	六、三四〇
杉村	泰輔	汐見町二三	七、二〇〇
杉村	米藏	相生町一〇一	四七、〇五〇
杉村	常吉	末廣町九	一八、一四〇
杉村	禎松	東濱町五三	四〇、〇三〇
杉村	ユキ	蓬萊町一五五	八、二四〇
杉村	德藏	若松町九八	一五、九〇〇
杉山勘次郎		住吉町一四三	二〇、一四〇
杉山伊勢松		鰡淵町一六	七、六〇〇
杉山	久藏	壽町一七	六、六〇〇
杉山	重吉	旅籠町四二	九、一〇〇
杉澤駒五郎		住吉町一八二	九、三八〇
杉澤善右衞門		住吉町一七八	二三、〇八〇
杉澤傳右衞門		住吉町一七八	七、五六〇
杉本甚三郎		幸町四	一五、五〇〇
杉田	九平	東川町四五	六、八四〇
杉本	惠	青柳町二五	七、一六〇
杉	元治	龜田村	一九、五七〇
鈴木	文藏	和生町一八	六、〇〇〇

所得納稅者人名表

鈴木重兵衛	寶町三七	六、〇〇〇	
鈴木　英力	汐止町一四	六、二八〇	
鈴木岩三郎	末廣町五六	七、〇〇〇	
鈴木　定吉	大黒町六二	七、一〇〇	
鈴木　徹	鍛冶町三一	七、〇〇〇	
鈴木久太郎	天神町七四	八、四〇〇	
鈴木　重利	鶴岡町一	一三、一三〇	
鈴木　富郷	汐見町二三	八、四〇〇	
鈴木　龍雄	青柳町一四	七、一〇〇	
鈴木　仙藏	谷地頭町七九	六七、七四〇	
鈴木　啓二	會所町二二	六五、九五〇	
鈴木　寛	末廣町一一三	一三、三五〇	
鈴木　ヤエ	末廣町一一三	五、二九〇	
鈴木　幸治	末廣町八五	九三、一六〇	
鈴木　德藏	末廣町八五	七、〇四〇	
鈴木　こう	相生町七	六、九八〇	
鈴木　鼎造	汐止町一二	八、一四〇	

鈴木　定衛	東雲町二四二	一五、〇一〇	
鈴木　是辰	鶴岡町二七	八、三八〇	
鈴木時太郎	船場町三	六、〇一〇	
鈴木　チヨ	蓬萊町一五四	九、五八〇	
鈴木　豊吉	大黒町一二四	一五、一一〇	
鈴木　柳作	蓬萊町一一五	一八、一四〇	
鈴木　定吉	惠比須町三三	九、三六〇	
鈴木嘉兵衛	惠比須町四六	七、四〇〇	
鈴木源二郎	元町七一	一九、九五〇	
鈴木　佐助	豊川町二四	九六、〇〇〇	
鈴木　元治	末廣町一七	八、四〇〇	
鈴木　茂作	惠比須町一六	八、六四〇	
鈴木清九郎	末廣町六九	八、六四〇	
鈴木精一郎	元町四五	三八、九五〇	
椎木酉太郎	西川町一〇六	七、二〇〇	
末田　百藏	西川町七四	六、二八〇	
椙木　林造	寶町三九	九、六四〇	

池森　島吉	鍛冶町五三	九、一一〇	
川中近次郎	龜田村	八〇、三一〇	
渡邊忠三郎	谷地頭町八	一一六、五六〇	
山路安太郎	相生町七二	六、一〇〇	
水間三左衛門	辨天町一六	一、四一〇、二四〇	
宮內喜之助	汐見町二八	三四、四八〇	
齋藤長左衛門	鍛冶町一四	一二、九二〇	
會田　彦藏	會所町三四	八、四〇〇	
佐藤　兼吉	龜田村	七、一〇〇	
岩井　捨吉	榮町五七	七、二〇〇	
石岡　雪治	汐見町	三四、四八〇	
櫻井源左衛門	曙町一五	七、二八〇	
福本　幸吉	惠比須町五八	六、〇〇〇	
高橋忠三郎	地藏町六五	八、〇〇〇	
藤林　又男	元町四三	七、四〇〇	
瓠洞　清雄	汐見町二〇	三四、四八〇	

片桐　美亮	鍛冶町一四	九、六〇〇	
中久木信義	元町	一六、三一〇	
飯島　朝三	元町	九、六〇〇	
根本仙三郎	汐見町一	二〇、一六〇	
鈴木　國俊	青柳町一六	一八、八四〇	
澤　克己	曙町三	二〇、二四〇	
種田　タカ	幸町四	七、四四〇	
安藤　金治	幸町四	四一、四〇〇	
高岩　岩藏	幸町二	九七、八八〇	
蓼原　三雄	汐見町一	一七、六四〇	
河上莊三郎	船見町八二	二八、九六〇	
中根　政藏	末廣町	七、二四〇	
櫻井　利吉	谷地頭町	四五、三三〇	
男澤敬之進	西川町一	九、六〇〇	
藤村慶太郎	谷地頭町	一八、六四〇	
永谷武次郎	船見町一二四	六、〇〇〇	

所得納稅者人名表

早岐慶三郎	汐見町一	二七、六四〇
桶田力太郎	銀冶町五五	一五、二一〇
堤　定次郎	汐見町二三	五五、二〇〇
高取安太郎	銀冶町	四八、二六〇
久保田園吉	旅籠町三二	一五、二一〇
加藤　啓助	船見町一二四	一五、三六〇
岡崎　光久	天神町七四	二四、三六〇
菊地　武夫	青柳町四五	一四、〇〇〇
堤　　潮	元町	九、六〇〇
ジエー、エー、ウヰルソン	船見町一〇八	一、七五、四八〇
シー、アイ、フレザ	船見町一一五	四八〇、〇〇〇
ビー、ケー、フワイソン		一〇七、六四〇
イー、アール、フワイソン	元町五五	四一、四〇〇
ジエームス、ケートレー	船場町	六、〇〇〇
イー、シエー、キング	船見町	九五、八一〇
ジエームス、スコット	元町七三	一六三、八一〇
シー、エス、バアテルス	元町七三	八六、〇一〇
ミス、エム、タプソン	船見町八六	三五、五四〇
エム、エス、ハンプトン	元町	四八、三〇〇
アウグスタ、デカルソン	元町五三	四八、三〇〇
タヴルユ、コルボアン		

チヤルス、チットルシップ	大森町八	一〇二、八一〇
張　脅三	谷地頭町	四二、四〇〇
張　忠甫	仲濱町六	一五、二一〇
李　長綬	仲濱町六	七、六〇〇
	大町六	三四、五〇〇
苑　篠香	汐止町一	七、六〇〇
汪　順完	大町三三	二四、七〇〇
任　有土	豊川町三	八、〇〇〇
張　鴻森	豊川町七	六、四〇〇
張　芝芳	仲濱町六	一五、二一〇
朱　英表	仲濱町六	六、〇〇〇

㊟函館港累年輸出入額

我函館港に於ける貿易は、未だ以て横阪神等諸港に及ばざる遠しと雖も逐年秩序的發達をなしつゝあるは左表を見ても一目瞭然たるべし

△函館港累年輸出入額

年次	輸出額	輸入額	輸出入合計
二十六年	七〇二、九三四圓	一九一、三三〇圓	八九八、二六五圓
二十七年	七二九、五八〇	三二九、九三二	九五八、五一二

函館港累年輸出入額

二十八年	八一三、五〇八	四五四、七一三
二十九年	一、〇八二、六六一	七六九、五七六
三十年	一、六五八、八一二	一、一七六、〇六一
三十一年	一、六五二、五九三	一、六九八、一五六
三十二年	二、一一六、〇五〇	一、七二六、四六二
三十三年	二、一二七、六一四	三、〇〇九、二八四
三十四年	二、三三六、六三六	二、四一五、〇二三
三十五年	二、〇〇五、五二四	二、七九五、二〇一
三十六年	三、〇〇八、九、六	四、一〇四、八五九
三十七年	二、〇三四、一五八	八二七、九〇三
三十八年	二、三一六、五三四	九一〇、八四八
三十九年	三、一九八、九五〇	一、六七〇、一六九

以上三十六年には七百萬圓を超過し實に函館開港以來空前の大盛況を呈せしが惜むべし此長足の進歩は三十七年の劈頭日露國交の破裂するや三百萬圓以下に減少せり然れども平和克復と共に三十八年の終末は三百萬圓以上に達し、既往に對照する時は三十三年及び三十六年に及ばざるも殊に三十八年度以降外國貿易の統計表より除かれたる樺太南半の輸出入を加へたらんには更に其數字を增加せしこと疑ひなかるべし、今樺太戰前の輸出入を見るに左の如し

△戰前二個年薩島輸出入統計

	輸出額	輸入額	輸出入合計
三十四年	四〇一、一二〇	一、三三六、一〇五	一、七二八、一二五
三十五年	四三六、九八七	一、六九四、五五五	二、一三一、五四四
三十六年	六三三、一三三	二、二六六、五八四	二、八九九、七一七
一ヶ年平均	四九〇、七四六	一、七六五、七四八	二、二五六、四九五

國別貿易輸出入趨勢

當港貿易に最も重大の關係を有する清、露、米、英、四國の趨勢左の如し

	清國	露西亞	合衆國	英國
二十六年	四三五、九七五	二三、七九五	二〇五、二九五	六九七

二十七年	三八八、七二五	三〇七、四八六	一八九、〇二〇
二十八年	四二五、一七七	四三〇、三五三	二三五、六二一
二十九年	五三〇、四七五	八七七、八八九	二〇六、五八八
三十年	七八九、二八〇	一、七一五、〇九〇	一六六、二六五
三十一年	七六六、六三二	一、八九五、六四四	一九五、四一二
三十二年	一、一六九、六五三	二、二一七、九八四	三三四、九八三
三十三年	九二、八三七	三〇、五五〇、一八四	六四六、八四〇
三十四年	一、一六六、〇九四	二、六七九、四九三	六八五、〇六七
三十五年	六六一、八一五	三、二〇一、〇五七	七六三、〇五四
三十六年	一、一一一、二八七	三、九八一、四三七	二四〇、一九七
三十七年	一、二〇七、一四八	二七六、〇八四	九八三、五四〇
三十八年	一、四七一、六五五	五一、九一四	一、二五八、六一三
三十九年	一、二八一、九九〇	一、六三九、一三六	一、五四三、六七四

●最近内外國輸出入表

（單位千圓）

	輸出	輸入	合計
明治三十年	二三、〇七六	二三、〇七六	四六、一五二
三十一年	二六、二〇七	二四、五九〇	五〇、七九七
三十二年	二六、〇二〇	二六、〇二〇	五二、〇四〇
三十三年	二六、〇二〇	二六、〇二〇	五二、〇四〇
三十四年	二六、〇二〇	二六、〇二〇	五二、〇四〇
三十五年	二六、〇二〇	二六、〇二〇	五二、〇四〇
三十六年	二六、〇二〇	二六、〇二〇	五二、〇四〇
三十七年	二六、〇二〇	二六、〇二〇	五二、〇四〇
三十八年	二六、〇二〇	二六、〇二〇	五二、〇四〇
三十九年	二六、〇二〇	二六、〇二〇	五二、〇四〇

（噸數は船の噸數、價格は千圓を以て單位とす）

明治三十九年	船數	噸數	貨物價額
内國	一	一	四、八六九
外國	三四九	二六二、〇七七	四、八六九
計	三四九	二六二、〇七七	四、八六九

明治三十七年	船數	噸數	貨物價額
内國	二、四八四	二、六八二、六四五	一七、九二九
外國	九三、五一〇	九三、五一〇	二四、八六七
計	二、五六三	二、七六六、一五五	四五、三九九

明治三十八年	船數	噸數	貨物價額
内國	一四、五七	三、四一六、五一〇	一九、〇七九
外國	六六	九九、九六一	三、二三八
計	一四、六五三	三、五一六、四七二	二三、一七

明治三十八年	船數	噸數	貨物價額
内國	一〇、〇一三	四、四九三、七一〇	一八、三五四
外國	六四一	三二八、三九二	二三、一五
計	一〇、六五五	四、八一九、六六二	四二、二九三

●外國輸出入品別表

△輸出品（千圓を以て單位とす）

品別　明治三十九年　同　三十八年　同　三十七年　同　三十六年

海産物	一、一九一	一、四五五	一、一九一	一、〇六二
農産物	三〇	一六	五	五〇
工産物	五五	六	—	一三
木材	八八	一、六七三	五六	三二
硫黄	九二五	七一四	六六三	六九〇
石炭	—	—	—	—
滿俺	五九	—	—	—
毛皮	四八	一〇二	一一二	一五七
漁業用品	七八二	一	四	九九六
熟銅	—	—	—	—
其他	二一	四	三	九九
計	三、一九九	一、七二三	二、〇三四	三、〇〇九
	△輸入品			
海産物	七三七	五一	六五	二、七六四
石油	五四七	五九五	七〇六	七五五
麥粉	三〇五	一二八	—	三一

鐵道用鐵材	—	—	—	四三七
汽船	—	一〇二	—	—
積戻品	二八	—	一〇	四七
其他	五三	三五	四七	七一
計	一、六七〇	九一一	八二八	四、一〇五

●最近内國出入船年表

（貨物價額は千圓を以て單位とす）

明治三十八年

		船數	噸數	貨物價格
入港	汽船	五、四七八	一、六六三、二一七	二五、六七九
	帆船	一、八三一	四七、三一九	
	計	七、三〇九	一、七一〇、五三六	
出港	汽船	五、四七二	一、六六〇、八二七	二〇、一五三
	帆船	一、八〇六	四五、一四七	
	計	七、二七八	一、七〇五、九七四	

合計	汽船	一〇、九五〇	三、三二四、〇四四	
	帆船	一二、六三七	九二、四六六	四五、八三二
	計	一四、五八七	三、四一六、五一〇	

明治三十七年

		船數	噸數	貨物價格
入港	汽船	四、三四八	一、二七七、七五	
	帆船	一、九五〇	四九、八四九	二四、一四〇
	計	六、二九八	一、三二七、五六四	
出港	汽船	四、三七一	一、三〇六、七六六	
	帆船	一、八一五	四八、三一五	一八、三九五
	計	六、一八六	一、三五五、〇八一	
合計	汽船	八、七一九	二、五八四、四八一	
	帆船	三、七六五	九八、一六四	四二、五三五
	計	一二、四八四	二、六八二、六四五	

明治三十六年

	汽船	五、二〇八	二、二七九、五一二	

入港	帆船	?	?	二三、三七四
	計	五、〇二八	二、二七九、五一二	
出港	汽船	四、九八五	二、二一三、七五八	
	帆船	?	?	一八、七九四
	計	四、九八五	二、二一三、七五八	
計	汽船	一〇、〇一三	四、四九三、二七〇	
	帆船	—	—	四二、一六八
	計	一〇、〇一三	四、四九三、二七〇	

●最近外國出入船年表

（本表は船數は汽船帆船の合數輸出入品價は千圓を單位とす）

		入港 船數	入港 噸數	輸入品價	仕出地
明治卅九年	外國船	四八	八三、一四五	一、六七〇	清、北米、獨、白、英、英領印度、露西亞、韓濠洲其他
	內國船	一一〇	三七、〇八四		
	計	一五八	一二〇、二二九		

最近外國出入船年表

明治卅八年	外國船	二五	四七、六六六
	内國船	一二	九六三
	計	三六	四八、六四八
明治卅七年	外國船	三四	四五、二〇四
	内國船	九	一、〇二三
	計	四三	四六、二二六
明治卅六年	外國船	四五	六四、八五八
	内國船	一三	八九、二一〇
	計	一七	一三三、九七八

出港船數噸數

明治卅九年	外國船	五一	八七、九五七
	内國船	一四〇	五三、八八一
	計	一九一	一四一、八三八
明治卅八年	外國船	二六	四九、四六八
	内國船	四	一、八四六

輸出品價仕向地

	清、韓、露亞、英、佛、白、諾、獨、	九二	
	露、北米、アラスカ、其他		
	清、露亞、英、佛、蘭、白、獨、露、	八八	
	北米、濠洲其他		
	英領印度、英領海峽殖民地、清	四、一〇五	
	露、亞、白、獨、英、露、北米、濠洲		
	其他		
	清、韓、英、北米、露亞、濠洲、香	三、一九九	
	港、加奈太其他		
	清、韓、香港、露亞、英、北米、加	二、三二七	

	計	三〇	五一、三二四
明治卅七年	外國船	三五	四七、一七九
	内國船	一	一二五
	計	三六	四七、二九四
明治卅六年	外國船	四四	六四、七九一
	内國船	三一	一〇七、六三三
	計	三五	一五二、四一四

奈多、濠洲

清、韓、英、北米、加奈太、濠洲、	二、〇三四	
布哇		
清、韓、香港、露西亞、英、加奈	三、〇〇九	
太、北米、濠洲、布哇		

●戸口最近十ヶ年對照表

年次	戸數	人口
三十年	一七、一三九	七三、九六八
三十一年	一七、八九六	七八、〇四〇
三十二年	一八、九〇九	八九、七九四
三十三年	二一、四三四	八七、一五九
三十四年	一九、七五九	八九、四八四

（備考）三十九年の人口本籍三十八年より增すこと四百四十九戸入寄留六百七

戸口最近十ヶ年對照表

年次	戸數	人口
三十五年	二一、四四六	八五、九三四
三十六年	二二、九四六	八六、一〇五
三十七年	二一、九一一	八八、〇七一
三十八年	二二、五六九	八八、六一〇
三十九年	二三、二七〇	九一、一九八

十九減出寄留千百十一増にて四十年三月迄取捨調査したるものなり

●在留外國人員三ケ年對照表

男女	國別	英吉利	佛國	合衆國	白耳義	葡萄牙	支那	合計	合計	合計
		三十八年							卅七年	卅六年
男		一四	二	五			七五	九七	八四	一二八
女		八	一〇	一二			一	一	三三	四〇 三六
合計		二二	一二	一七			七六	一三〇	一二四	一六四

（備考）日露戰爭後一旦引上げたる露國人も平和の克復と共に復來函したる等増減あるべくも當局廳は未だ調べ決了せずして發表とならざるに付三十九年度分は記載せず但し大同小異にて三十八年の調査と大差なかるべし

●經濟力消長累年表

		外國貿易額	内外國出入船舶噸數	預金及び拂出金高	荷爲替及送金爲替出高
明治廿九年	人口 七〇、八二八、〇〇〇	一、三九、四三、〇〇〇	一、三一七、一九八	五七、〇二〇、〇〇〇	一六、九四一、七二四
同	三十年	一、六八七、九一一	三、二八三、八二〇	七八、二〇〇、六九八	三三、八三四、二五九
同	卅一年	七八、〇四〇	三一、二三六、九一九	四〇、二三四、三六九	二五、八九六、六二一
同	卅二年	八九、七九四	三、八三三、六七九	九八、五九一、五七五	二九、六三、八七五
同	卅三年	八七、一九九	三、八五三、一五四	一三、九五一、一九五	三五、九三七、五三六
同	卅四年	八九、四八四	四七、七五一、六六〇	一二〇、四〇一、九二六	三七、六〇一、一九三
明治卅五年		八五、九二四	四、八〇〇、七二五	四、五三四、一四六	三三、三五四、四四七
同	卅六年	八五、一〇五	七、一三、七六六	四一、一六八、五二一	四一、一九〇、五三六
同	卅七年	八八、〇七一	二、八六二、一〇六一	四二、〇三五、八七一	二、五二、九六三
同	卅八年	八八、六一〇	三、三七、二八三	四五、八四二、三九	三、三〇九、二六〇

●最近の金融界一般

日露開戰以來の當港經濟界は如何に經過せしや、貯蓄預金の趨勢及び金融界の現象を一目瞭然たらしむる爲め左に概記せん

△一般預金殘高

三十九年	三十八年	三十七年
△貯蓄預金殘高		

一月	四、六二六、九九〇	四、五九九、九七六	五、〇四二、五六四
二月	四、六〇六、三二一	四、三七八、九二三	四、四四八、四五一
三月	四、三六七、五四三	四、三七七、〇四三	四、五七五、五六一
四月	四、二三六、二六二	四、三二二、二六六	四、三七一、五二八
五月	四、四三二、二九一	四、〇五七、〇八二	四、一四九、一二五
六月	四、四五五、七八三	四、〇九二、九四八	四、五二八、六三一
七月	四、七四四、四五〇	四、〇九〇、〇九九	四、四四八、三〇八
八月	五、二一八、六二一	四、三一〇、〇四七	四、六四五、〇三八
九月	五、六二六、五四八	四、七〇〇、八二七	四、七七五、六三三
十月	六、四九七、五五六	四、七〇八、四八六	四、六六〇、一八八
十一月	五、五九二、一一三	四、七二九、四〇六	四、五一四、四七五
十二月	五、四三二、三三六	四、五九九、二七六	四、三二六、五八四

△諸貸付殘高

一月	三十八年	三十七年
	二、五八二、〇〇六	二、四九三、一六二

△割引手形殘高

	三十九年	三十八年
	一、二〇〇、七二一	一、四一五、九三一

二月	二、一五九、七五九	二、一〇三、〇八六	一、八九九、七九七
三月	二、四九九、五六〇	二、〇〇一、六〇四	二、〇〇三、〇三八
四月	二、六七三、二〇〇	二、二八一、四〇	二、一五一、四二九
五月	二、七一〇、九八九	二、三〇六、七二	二、〇九一、八一四
六月	二、六七二、一九四	二、三一四、九九四	二、〇六九、八一四
七月	二、九一七、二一三	二、二三五、九〇八	一、九八二、四五五
八月	二、八二一、三九八	二、一一三、七八七	一、八九一、八七一
九月	二、八八五、七四八	二、三一三、五八七	二、〇三九、二六三
十月	三、三四二、六九三	二、一八〇、二七七	二、一五四、三九二
十一月	三、三二八、〇四八	二、三〇一、五五〇	二、三二八、七二二
十二月	三、五五六、二一〇	二、五九八、四〇三	二、六一八、〇九五

二月	二、一五九、七五九	二、一〇三、〇八六	一、八九九、七九七
三月	二、四九九、五六〇	二、〇〇一、六〇四	二、〇〇三、〇三八
四月	二、六七三、二〇〇	二、二八一、四〇	二、一五一、四二九
五月	二、七一〇、九八九	二、三〇六、七二	二、〇九一、八一四
六月	二、六七二、一九四	二、三一四、九九四	二、〇六九、八一四
七月	二、九一七、二一三	二、二三五、九〇八	一、九八二、四五五
八月	二、八二一、三九八	二、一一三、七八七	一、八九一、八七一
九月	二、八八五、七四八	二、三一三、五八七	二、〇三九、二六三
十月	三、三四二、六九三	二、一八〇、二七七	二、一五四、三九二
十一月	三、三二八、〇四八	二、三〇一、五五〇	二、三二八、七二二
十二月	三、五五六、二一〇	二、五九八、四〇三	二、六一八、〇九五

一月	四、六二六、九九〇	四、五九九、九七六	五、〇四二、五六四
二月	四、六〇六、三二一	四、三七八、九二三	四、四四八、四五一
三月	四、三六七、五四三	四、三七七、〇四三	四、五七五、五六一
四月	四、二三六、二六二	四、三二二、二六六	四、三七一、五二八
五月	四、四三二、二九一	四、〇五七、〇八二	四、一四九、一二五
六月	四、四五五、七八三	四、〇九二、九四八	四、五二八、六三一
七月	四、七四四、四五〇	四、〇九〇、〇九九	四、四四八、三〇八
八月	五、二一八、六二一	四、三一〇、〇四七	四、六四五、〇三八
九月	五、六二六、五四八	四、七〇〇、八二七	四、七七五、六三三
十月	六、四九七、五五六	四、七〇八、四八六	四、六六〇、一八八
十一月	五、五九二、一一三	四、七二九、四〇六	四、五一四、四七五
十二月	五、四三二、三三六	四、五九九、二七六	四、三二六、五八四

一月	七、八〇一、三	七、九〇、五四八	六、九五、四三八
二月	七、八二、九〇六	八、三三、三八四	五、六九、二七〇
三月	七、五二、九七八	七八二、三九九	六四二、二六二
四月	七、四五、二一七	七、〇〇、六〇七	六四四、〇三二
五月	七、一七、四〇六	六、七七、六九二	六、五四、三六七
六月	七、四七、一五三	六、五八、六二六	六、八五、四五四
七月	七、九六、七四八	六、七七、八九一	六、九二、九六〇
八月	八、三七、九三九	七、〇九、〇二三	七、二九、三八〇
九月	八、七五、三六六	七、四九、八二二	七、四〇、八二八
十月	九、二六、五二六	七、五二、二一〇	七、四〇、五二四
十一月	九、四二、〇三八	七、四二、三七〇	七、四〇、五二四
十二月	九、六九、七六一	七、五三、一六九	七、五三、八三、

●爲替金額對照表

函館郵便局に於ける爲替事務は近來大に繁劇となり從て取扱金額も非常の增進を來せり今二十九年度の振出金高を聞くに九十八萬二千二百六十四圓八十九錢五厘に

最近の金融界一般　爲替金額對照表

して前年より增加すること七萬八千六百七十九圓六十四錢なるが拂渡高は百三十三萬千百九十八圓二十四錢にして前年より增加すること五萬五千百四十七圓三十一錢八厘なり又此手數料金は九千百三十七圓七十九錢にして前年より八百六圓九十三錢を增加せり尙其詳細は左の如し

		三十九年度內國爲替	三十八年度內國爲替	增
振出	枚數	四七、二五一	四五、一九三	二、四五八
	金額	九八二、二六四、八九四	九〇三、五八五、二五五	七八、六七九、六四〇
拂渡	同	七一、三二〇	七四、一〇〇	二七八
	同	一、三三一、一九八、二四〇	一、二七六、〇五〇、九二八	五五、一四七、三一八
	料金	九、一三七、七六〇	八、三三〇、八六〇	八〇六、九三〇
	同上	外國爲替	三十八年度外國爲替	增
振出	枚數	九三	七七	一六
	金額	三、四三五、〇七〇	三、三三二、八五〇	一〇二、二三〇
拂渡	同	一九	七七	三二
	同	七、七九七、五〇〇	四、〇五七、〇〇〇	三、七四〇、五〇〇

料金　二八、九〇〇　一二〇、一〇〇　八、八〇〇

●米價高低比較表

今試みに最近三年間に於ける當港米價の趨勢を觀察するに年に依りて高下の動機を異にすれども三十七年は二月日露戰爭繼續するや否、下半期の豊作を見越し、天候好良厄日無難、古米拂底、三十八年は土用丸潰れ、增水被害、麥作の不良、二百十日無事、北越地方の鎌入不足、東北地方の凶作、平和克復、三十九年は丙午の年に因める警戒、申分なき天候、平年作より一割八分四厘昨年より三割一分九厘の增收、期米界の順調、東北地方の收穫減少、時化續きの爲め入米なく一時在米一萬强に減退せし等の原因に依て左の高低を示せり

	三十七年度 建米越後三等玄 高	三十七年度 建米越後三等玄 低	三十八年度 同庄內二等玄 高	三十八年度 同庄內二等玄 低	三十九年度 同越中三等玄 高	三十九年度 同越中三等玄 低
一月	一二円、九〇	一二円、四〇	一二円、四〇	一一円、九〇	一四円、三五	一四円、一五

米價高低比較表

二月	一三、八五	一三、〇五	一一、八五	一一、八〇	一四、三五	一四、〇〇
三月	一三、五〇	一二、〇〇	一一、八五	一一、八〇	一四、一五	一四、〇〇
四月	一二、八〇	一二、三〇	一二、一〇	一一、九〇	一四、一五	一三、八〇
五月	一二、九〇	一二、五〇	一二、三〇	一一、九〇	一四、二〇	一三、九〇
六月	一三、一〇	一二、八〇	一二、一〇	一一、八五	一四、八五	一四、二五
七月	一三、〇〇	一二、六〇	一二、三〇	一二、一〇	一五、〇〇	一四、五五
八月	一三、五〇	一三、〇〇	一五、二〇	一二、三〇	一四、七〇	一四、六〇
九月	一三、七〇	一三、四〇	一四、八〇	一四、一〇	一五、七〇	一四、九〇
十月 古	一三、八〇	一三、五〇	一五、〇〇	一四、〇〇	一五、九〇	一五、三〇
十月 新	一三、二〇	一二、六〇	……	……	……	……
十一月	一三、九〇	一三、七〇	一五、二五	一五、一〇	一五、五〇	一五、三〇
	一二、九〇	一二、五〇	……	……	一五、三〇	一四、八〇
十二月	一三、八五	一三、五〇	一五、一〇	一四、九〇	一五、五〇	一五、三〇
	一二、八五	一二、五〇	……	……	一五、三〇	一五、一〇
最高低	一三、九〇	一二、三〇	一五、三〇	一二、〇〇	一五、九〇	一三、八〇

（備考）三十八年度に新米高低なきは割合に少なからざるも東北地方の不作にて新米は安からず五錢乃至十錢位の直開きなる爲め區別せず又新米出廻季は其年に依り十月と十一月の遲速あることを知るべし

●龜田、上磯兩郡農蠶漁業一班並ニ三ヶ年對照表

▲農蠶

名稱	龜田郡 三十九年	龜田郡 三十八年	龜田郡 三十七年	上磯郡 三十九年	上磯郡 三十八年	上磯郡 三十七年
米	五、三九九石	一一、三五四石	五、二五八石	八三二石	二、五〇四石	一三、五八九石
馬鈴薯	六四、八三九	一〇六、〇〇一	一四六、四五四	一〇、九七二	二一、一〇五	五八、〇〇五
燕麥	五六二	五四三	三〇六	一、一四三	一、四七八	一、七六九
麥	一、〇三九	一、二七八	一、五八三	二四一	四六六	二三二
大豆	七、〇六〇	六、八五六	八、六八二	四一〇〇	三、〇九三	七、五五五
小豆	五、九五二	六、三四〇	五、三六九	三、一八〇	二、四八八	三、一五一
玉蜀黍	一、九一九	一、八四一	五、一二〇	二、七五四	三、〇一六	三、八三五
蕎麥	一、八九〇	五、三九九	五、三二七	八二八	九一八	五九一

龜田、上磯兩郡農蠶漁業一班並に三ヶ年對照表

種別	三十五年	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年
米	三、三五一石	三、四九六石	三、五三一石	三、五三三石	三、五三六石
稗	二、四九六石	二、四七四石	二、四七〇石	二、四六六石	二、四六六石
黍	二、四七四石	二、三五三石	二、〇四石	二、〇三一石	二、〇三六石
粟	一、〇〇〇石	一、九六石	一、六五石	一、三三石	一、二三六石
荏	五〇石	一九六石	一三石	四石	五石
胡麻	三八斤	四七、〇〇〇斤	五一斤	五二斤	四四斤
藷	三、二五、九〇斤	四七、〇〇〇斤	三〇、〇〇〇斤	七〇、三五〇斤	三六三、七〇三斤
粉	三〇石	五、五五五石	二三石	一石	三〇石
鰯	七、八六九石	一、三五六石	二、八六二石	二、六四六石	一、六四六石
鰮	二八石	七六二石	三四石	三八四石	四五六石
鮭	三三石	三三石	三〇石	三〇石	三〇石
鱒	三九一石	二四〇石	三一石	二九石	二九石
鱈	一、三五一石	三一九石	一九石	二六石	二七石
鮪	三、五五六石	一、一六石	二、八六二石	二、六七石	一、九六〇石
昆布	七五石	五、五五五石	三、〇八一石	三八、三〇二石	二七、五二七石
鰹節	二四斤	一、三五六斤	三一、〇三斤	一、三三斤	二、三三斤
鯣	二五三斤	二五三斤	二九四斤	二六六斤	二七〇斤
鰯	一九六斤	一九六斤	一六五斤	一三斤	八五四斤
鰮	五二斤	四七、〇〇〇斤	五一斤	五二斤	四四斤
鰹	三、〇八一斤	三、〇八一斤	三〇、〇〇〇斤	七〇、三五〇斤	三六三、七〇三斤
鰹節	二四斤	一、三五六斤	三一、〇三斤	一、三三斤	二、三三斤
鯣	二五三斤	二五三斤	二九四斤	二六六斤	二七〇斤
鰯	一九六斤	一九六斤	一六五斤	一三斤	八五四斤
鰮	五二斤	四七、〇〇〇斤	五一斤	五二斤	四四斤
鰹	三、〇八一斤	三、〇八一斤	三〇、〇〇〇斤	七〇、三五〇斤	三六三、七〇三斤

●上陸移住民調

年次	戸数	人口 男	人口 女	計
三十九年	九、八八四	一二、五六〇	八、六七四	二一、二三四人
三十八年	四、五九八	六、一三三	四、九三五	一一、〇六八
三十七年	九四二	一、四一〇	一、〇八五	二、四九五

●内外國宿泊人員三ヶ年對照表

年次	區別	三十八年	三十七年	三十六年
	本道人	四五、五六六	四五、六七五	四八、三一九
	他管人	四四、〇八二	五二、〇八二	五八、七二二
	外國人	二五〇	一二九	一、五五四
	合計	八九、八九八	九七、八八六	一〇八、五九五

（備考）右の如く三十九年度分は未調査にて知ることを得ざるも三十七八年の

外國人宿泊の少なきは日露戰爭の結果にて三十九年度は平和克復後にもあり企業熱の勃興旁々總べて增加したること疑ひなかるべし

●鐵道及滊船乘降出入調

年次	出入船客 乘客	出入船客 下客	出入船客 計	滊車乘降客 乘客	滊車乘降客 降客	滊車乘降客 計	合計
三十九年	一八九、一二七人	一六五、七〇六人	三五四、八三三人	一一五、三九八人	一一六、六八〇人	二三二、〇七八人	五八六、九一一
三十八年	一三七、三九九	一四七、一七三	二八四、五七二	九四、三二四	八九、一五六	一八三、四八〇	四六八、〇五二
三十七年	一一一、二〇六	一二一、六一〇	二三二、八一六	八九、五八三	八八、〇七〇	一七七、六五三	四一〇、四六九

●倉庫現在數

函館の位置貨物集散の要路に當るを以て倉庫の建設近年著しく其數を增加せり今最近に於ける倉庫の現在數を調査すれば實に左の如し、又十、丸本倉庫は米穀の取扱多く其他金森は大小豆諸雜貨、海產物、安田、葛西倉庫等は海の便宜上海產物の出入頻繁なり

倉庫	所在地	煉瓦造 棟	煉瓦造 坪	石造 棟	石造 坪	土藏 棟	土藏 坪	木造 棟	木造 坪	合計 棟	合計 坪
西出孫左衛門倉庫	西濱町	二	一六六	—	—	—	—	—	—	二	一六六
函館倉庫	仲濱町	八	九〇三	一	九五	—	—	一	一一三	一〇	一、一一一
又十藤野四郎兵衛倉庫	同町	二	四二二	—	—	—	—	—	—	二	四二二
函館汽船株式會社倉庫	船場町	二	二〇八	—	—	—	—	—	—	二	二〇八
金森渡邊熊四郎倉庫	同町	九	一、三〇九	—	—	一	三	七	五九四	一七	一、九一五
安田商事合名會社倉庫	同町	九	九三三	—	—	—	—	一一	九五八	二〇	一、八九一
山縣勇三郎倉庫	同町	三	二四〇	—	—	—	—	一	六〇	四	三〇〇
龍紋山田敬助倉庫	眞砂町	一	二七五	—	—	—	—	五	九六〇	六	一、二三五
丸本柳田藤吉倉庫	辨天埋立地	三	一、四七〇	—	—	—	—	一	二四〇	四	一、七一〇
一井石垣隈太郎倉庫	大町	一	一六八	—	—	—	—	—	—	一	一六八
巴共榮倉庫	眞砂町	二	一、一九五	—	—	—	—	—	—	二	一、一九五
山北葛西倉庫	船場町	一	四二一	—	—	—	—	—	—	一	四二一
品田倉庫	西濱町	一	六二	—	—	—	—	—	—	一	六二
合計		四四	七、七七二	一	九五	一	三	二六	二、九二五	七二	一〇、八〇四

倉庫現在數

●貨物數量換算標準

（輸出之部）

●魚粕及乾製海産物は四十貫目を一石とし百六十目を一斤とし鹽鮭鹽鱒は六十尾鯡は百二十尾、鹽鰯は二十尾、生魚類は八貫目を以て一石とす

●長切昆布は五個を一石とし、元捌昆布は十七貫目、折昆布、雜昆布は十五貫目を以て一石とす

●氷は二十個を一噸とし、葉藍及藍玉一個を十五貫目、麻類一個を十九貫目粉類一個を十二貫目、海藻類一個を二十五貫目、毛皮三十枚を一個とせり

●石炭は十六叭を一噸とし、硫黄は十四叭、滿俺は二十叭を以て一噸とす

●麥粉一袋は五十斤にして澱粉一函は七十五斤なり

（輸入之部）

●米、麥、雜穀、食鹽一俵を四斗、和酒大阪樽は四斗、大山、越後樽を二斗、味噌一樽を十三貫八百目醬油一樽を一斗、洋酒一個を四打、麵類一個を十貫目、菓子一個を十三貫目、茶一個を七十斤綿一個を十二貫目、蠟燭一個を五貫目、金物類一個を十五貫目、漁網及編糸一個を十七貫目麻類一個を十九貫目、乾物類一個を八貫目鰹節一個を十貫目として換算せり

●砂糖一個を百斤とし海産物類は二十貫目を一石とせり

其他品物にも依れど海産物の委托口錢は二分五厘にて入目風袋等に關する規定皆あるを以て其當業者に就て了知せらるべし

●諸官公衙並ニ所在地

名稱	位置	首長官氏名
函館要塞司令部	谷地頭町	陸軍砲兵大佐 渡邊忠三郎
要塞大隊司令部	龜田村	陸軍砲兵中佐 中川近次郎

諸官公衙所在地

函館聯隊區司令部	船見町
函館憲兵分隊	鶴岡町
函館衛戍病院	龜田村
函館控訴院	汐見町
函館地方裁判所	汐見町
函館區裁判所	汐見町
函館稅關	東濱町
函館　務署	汐見町
札幌鹽務局函館出張所	汐見町
函館煙草販賣所	船場町
函館郵便局	末廣町
函館海事局	鍛冶町
函館度量衡檢定所	元町
御料局札幌支廳出張所	青柳町
北海道廳函館支廳	元町
函館警察署	富岡町

陸軍步兵少佐	桜井利吉
陸軍憲兵大尉	藤谷淺吉
陸軍一等軍醫	前田保十郎
院長　判事	馬場愿治
所長　判事	松浦龜藏
監督判事	島倉龍治
稅關長	三好海三郎
署長　稅務官	佐多彥美
前　同　人	
所長　事務官補	末松　茂
局長　缺員代理	中
海事局長	高取安太郎
所長　屬	村垣素行
所長　技手	熊谷郡四郎
支廳長	龍岡信熊
警視	園田半之助、

函館警察署水上分署	仲濱町
函館監獄	龜田村
函館測候所	高砂町
函館區役所	豊川町

●各國領事館

名稱	位置	首長官氏名
英國副領事館	會所町	領事代理副領事　イー、エル、エス、ゴルドン
國副領事館	船見町	領事代理副領事　ギヨーム、トラウトショル
米國代辨領事館	船見町	代辨領事　イー、ジエー、キング

警部	內山仙
典獄	堀內久保
所長　技手	梶沼長三郎
區長	山田邦彥

●諸新聞社

▲函館毎日新聞社　富岡町に在り本道新聞界に於て最も古き歴史を有する政治新聞なり主筆工藤忠平氏、吉岡憲氏營業部を擔任す

▲函館日日新聞社　小橋榮太郎氏の經營に成れる政治新聞にして東濱町に在り主筆齋藤哲郎氏

▲北海新聞社　地藏町に在り宮島鎗八氏の主幹する處政治新聞なり主筆青木清治郎氏

▲其他北海商報社、商業新報、北海朝日等の商事及廣告專門の新聞あり

●各學校病院附慈惠院

名稱	所在地	設立年月	校長氏名	現在生徒數 男	現在生徒數 女	摘要
▲公私立學校						
彌生高等小學校	船見町	明治三四、四月	島貫 政治	五八	一	明治四十年改築工費三五、一七九圓
函館女子高等小學校	元町	同 二六、四	菊池 武夫	一四三		
寶尋常高等小學校	寶町	同 二、七	長尾 含	五八三	三四	

東川尋常高等小學校	榮町	同 三、四	工藤虎五郎	六五六	四五二
若松尋常高等小學校	若松町	同 三六、四	佐藤 市彌	六四〇	三九
龜田尋常高等小學校	龜田村	同 二、三	上田 氏暢	一八八	一六三
幸尋常小學校	鍛冶町	同 三〇、九	佐藤 精三	四〇四	四〇九
彌生尋常小學校	天神町	同 一五、四	大竹 敬造	六四六	四七〇
住吉尋常高等小學校	青柳町	同 三、四	長谷川千代喜	九一三	五〇七
高砂尋常小學校	東雲町	同 三一、四	菅村 純之	四五四	四〇八
堀川尋常高等小學校	相生町	同 一九、五	堀川 道藏	三三〇	一三九
元町女子高等小學校	元町	同 三一、九	松岡 幸子	一	三一七
若山尋常小學校	天神町	同 一四、一二	若山藤兵衛	六六	八七
一貫尋常小學校	寶町	同 一五、三	內海十三郎	一三〇	一〇七
惠以尋常小學校	旭町	同 三三、九	石澤 宇記	一〇九	一〇〇

明治三十三年改築工費一九、三七四圓

同 三十六年新築工費二一、一〇〇圓

明治三十六年改築工費二四、四二九圓

同 三十八年改築工費三一、三五六圓

各學校、病院及慈惠院

鶴岡尋常小學校　高砂町　明治一八、三　秋尾八四郎　二七　九
古川尋常小學校　音羽町　同　一五、三　竹内愛次郎　五〇　三七
大谷女學校　曙町　同　二二、一　赤座　忠義　一　五七
吉祥女學校　西川町　同　二三、五　野村嘉一郎　一　二〇

▲私立各種學校

名稱	所在地	設立年月日	校長氏名	現在生徒數 男	女	摘要
吉祥女學校	西川町	明治三三、五月	野村嘉一郎	一	二四	高等小學校に類する學科
聖保祿女學校	元町	同　三、九	マリー、オリエ		二六	同上
大谷女學校	曙町	同　二、一	赤座　忠義	一	三八	高等小學校一二年の學科及高等女學校の學科
遺愛女學校	元町	同　一五、二	エ、テカルソン		二三〇	同上
靖和女學校	元町	同　三二、一〇	アール、ファイソン	一	八六	同上

開北學舍　富岡町　同三五、三　小寺　義雄　九五　一　國語、漢文、英語、數學
一貫商業補習學校　寶町　同一五、三　內海十三郎　四八　一　商業地理、商業歷史、商事要項、
繪畫學校　青柳町　同二五、三　北條　盛英　四　六　圖畫專門
函館裁縫女學校　會所町　同三、一〇　山本　タケ　一　三　裁縫專門
大石裁縫女學校　天神町　同三五、七　大石　トク　一　五五　同上
北海裁縫女學校　壽町　同三五、一　杉村　タミ　一　四九　同上
早川裁縫女學校　曙町　同六、七　早川　キセ　一　三　同上
厨川裁縫女學校　曙町　同四、一　厨川　ツル　一　四六　裁縫、編物
櫻井裁縫女學校　曙町　同三六、八　櫻井　春代　一　二〇　裁縫專門
河村裁縫女學校　末廣町　同三七、五　河村榮次郎　一　六　同上
北鳴裁縫女學校　壽町　同三七、五　小口　幸　一　四〇　同上
堀川裁縫女學校　青柳町　同三六、一〇　堀川　道藏　一　三　同上

私立各種學校

林裁縫女學校	末廣町	同三九、七	林トメ	―	四五 同上
實踐女學校	西川町	同三九、八	名和淵海	―	五八 高等女學校に類する學科
函館數學舍	船見町	同三六、八	藤本初吉	七	― 數學專門
海員數學教授所	同上	同上	同人	五	― 航海術、機關算法

▲各種廳立學校

▲函館中學校　明治二十八年四月一日開始卒業生を出すこと既に二百二十一名の多きに及ぶ三十八年中現校舍を新築して之に移る龜田村に在り最近の調査に據るに現在生徒四百二名あり校長武田安之助氏熱心之が職に當る

▲函館商業學校　明治三十二年七月の創立に係る元町に在り前きに明治十九年函館商業なるものありしが同二十八年廢校となり其俤は僅かに函館中學校の内に商業專習科として存するに過ぎざりしが三十二年に至り再び獨立するに至る本校即ち之れ

なり卒業生を出すこと既に八回百七十七名に及び内實業に從事するもの百四十一名兵役中十九名、遊學中十一名外國に在るもの二名にして最近の現在生徒數三百九十三名ありと、同校に補習夜學校の設あり三十六年四月の創立に係る所謂徒弟夜學校なり夜間各商店の丁稚小僧を集めて卑近適實の學を補習せしむ成績大に見るべきものあり現に百十餘名の生徒を收容す校長神山和雄氏本務の餘暇熱心之が經營に從事し居れり

▲函館商船學校　明治三十五年の創立に係り席上學科、實習科の二科に分れ各科各三年通して六年の修業年限なるを以て未た卒業生を出すに至らすと雖も既に七十八名の實習生(内航海科五十一名、機關科二十七名)を有せり、席上學科生又た六十八名(内航海科八十九名機關科七十九名)あり校長は藤井源三郎氏、校は鍛冶町に在り

▲函館高等女學校　明治三十八年五月開校始め區は本校の設立を道廳に請ひ三萬圓の校舍建築費を寄附して成立せしものなり校舍は繼續事業として起工せられ四十年

各種廳立學校　一三九

竣工の豫定なり創立日尚ほ淺く未た卒業生を出すに及ばずと雖も現在生徒二百六十七名を有す同校に附屬寄宿舍あり目下遊學生三十二名を收容す谷地頭町元淺田家の建物を以て之に充つ食費一ケ月平均五圓內外にて足れりと校長鈴木源二郎氏は創立以來校務に執掌し熱誠甚た努む校は元町高燥の地にあり展望佳絕

▲函館區立病院　安政六年箱館醫官栗本鮑庵、鹽田順庵氏等衆醫と資を揖て萬延元年の冬箱館山の上町（現今の旅籠町）に起工文久元年六月竣工し箱館醫學所と稱す明治元年五月民政方病院と爲し二年九月開拓使所屬となり函館病院と改稱三年閏十月更に大學東校の所轄に移され北海道各地の病院を統管す四年七月愛宕町（現金の船見町）に新院を築て茲に之を移し舊院を廢せり同年十一月大學東校より再び開拓使に委す十一年十一月火災に罹り之を官舍（現今の天神町）に移す十二年十二月復燬く更らに同所徵毒室に合併す十四年天神町（現今の位置に新築し官立を改めて公立と

なす二十三年三月十一日道廳より無代にて函館區に下附せられ四月一日公立函館病院に改む三十三年五月十八日火を失して全燒す三十五年十月紳商渡邊孝平氏金十萬圓を投じて病院を其燒跡に新築して區に寄附せんことを時の區長に出願し區會は滿場一致を以て之を受くるの決議を爲せり即ち三十六年五月起工三十八年十月全く落成を告げたり稱して區立函館病院と呼ぶ醫學士巽庭守三氏は創立以來院長心得として院務に從事す其他外科部長醫學士八田桓、產科部長神谷良平、藥劑長村林元吉の諸氏なり

▲私立豐川病院　豐川町に在り明治三十九年四月の開院に係る院長は醫學士佐藤廉氏なり公立函館病院と共に本區の二大病院と稱す

▲私立後藤病院　東濱町に在り明治三十四年十一月の創立に係る院長後藤厚氏

▲私立藤野產科婦人科病院　當區に於ける產科婦人科唯一の病院なり明治三十二年四月の開院に係る會所町に位置す院長藤野正太郎氏

▲私立深瀬病院　船目町に在り眺望に富む院長深瀬鴻堂氏は舊家にして刀圭界の功勞者なり

▲私立高松病院　辨天町に在り明治三十五年三月開院す院長高松多齋氏

▲私立由利病院　恵比須町に在り明治三十四年十一月開院す院長由利良謙氏

▲私立函館外科病院　會所町に在り明治三十四年十一月の開院に係る院長眞野清之助氏

▲私立渡島外科診療院　船見町に在り明治三十六年十二月の創立に係る院長横山彰氏

▲私立五稜眼科病院　會所町に在り其創業は明治卅五年八月にして院長田中啓平氏

▲私立近藤眼科病院　相生町に在り明治三十五年一月の開院に屬す院長近藤清次氏

▲私立町田眼科病院　會所町に在り創業明治三十九年二月院長醫學士町田守馬氏

▲函館傳染病院　區の經營に係る明治三十五年七月開始三十八年十月建造を行のふ現建物之れなり新川町に在り周圍砂地にして厭ふ可しと雖も内容整備成績甚だ良好なり

▲精神病院　本年四月一日より獨立病院となりしも以前は函館病院附屬病室なり現建物は明治三十三年の築造に係り谷地頭町に在り入院患者常に絶えず

▲函館慈惠院　明治三十三年二月寺井四郎兵衛、上田大法、中山與七の三氏相謀りて之を創設し十一月院舍の建築を終り開院を見るに至る後三十八年十二月二十八日火災に罹り全部燒失せしが本年二月事天聽に達し建築資金として五百圓を下賜せられ道廳又其工費豫算の十分の一の補助を許せり目下之か資金募集中に在り位置は新川町脫崖の區を占む目下行旅病人(區の受託)五十一名、兒童四十六名、老衰八名其他院外補助八名あり理事長寺井四郎兵衛氏、常務理事中山與七氏なり蓋し其規模の廣大なる本道唯一と稱す

●銀行諸會社

當區に於ける銀行諸會社の情況を按ずるに銀行に在りては其數に於て始めより殆んと一定不動の狀態度を取るも函館銀行は昨近資本倍加の決議を爲し目下擴張の途に就き百十三銀行亦同樣の劃策中に在るを以て其內容に著しき發達を遂げつゝあるは言を待たず諸會社に至りては最近の調査に據れば其數既に四十三箇の多きに上り三十八年の末日現在に比して十三箇を增し資本金亦之に伴つて異常の增加を示せり左に其比較を掲げ、大勢を明にす

附記　銀行諸會社表に明記を欠くも日本銀行函館出張所の設立あるは固より言ふ迄もなし同行は末廣町に在り

▲銀行

年次	數	資本	拂込	積立	社債
卅九年末日	三	一、五七〇、〇〇〇円	一、五五〇、〇〇〇円	三三六、〇〇〇円	――
卅八年末日	三	一、五七〇、〇〇〇	一、五五〇、〇〇〇	二四九、七〇〇	――
卅七年末日	三	一、五七〇、〇〇〇	一、五三五、〇〇〇	二八四、二〇〇	――

▲各地銀行支店

年次	數	資本	拂込	積立	社債
卅九年末日	四	九、六七〇、〇〇〇	六、八三二、五〇〇	一、二九〇、六八〇	八〇〇、〇〇〇
卅八年末日	五	八、六〇〇、〇〇〇	六、四九六、四八八	八〇八、二〇〇	八〇〇、〇〇〇
卅七年末日	五	八、六〇〇、〇〇〇	八、四二六、四八八	六、三一八、五〇〇	八〇〇、〇〇〇

▲諸會社

年次	數	資本	拂込	積立	社債
卅九年末日	四〇	三、五七八、八六九	二、一〇二、八四九	一〇五、七九九	六〇〇、〇〇〇
卅八年末日	三〇	二、一〇二、八四九	一、九二九、五四二	八四、四一八	――
卅七年末日	二四	一、九二九、五四二		七五、二一四	――

▲各地諸會社支店

年次	數	資本	拂込	積立	社債
卅九年末日	一六	二六、〇三一、〇五〇	二六、九八八、七五〇	九、〇六〇、二五〇	三〇〇、〇〇〇
卅八年末日	一〇	二六、九八八、七五〇	二四、九〇二、五〇〇	二、八九九、三三一	六〇〇、〇〇〇
卅七年末日	九	二四、九〇二、五〇〇	二七、一五二、五〇〇	六、九二〇、五四五	八〇〇、〇〇〇

備考　以上は三十九年末日以前の統計を示すと雖も本年に入りて設立せられたるもの別表記載の如し

銀行諸會社

▲銀行

名稱	所在地	設立年月	資本金	拂込金	積立金	頭取氏名
株式會社百十三銀行	末廣町	明治十二年一月	一、〇〇〇、〇〇〇円	二〇〇、〇〇〇円		田中正右衛門
同 函館銀行	末廣町	同二十九年七月	五〇〇、〇〇〇	九七、〇〇〇		廣谷源治
同函館貯蓄銀行	末廣町	同二十九年六月	七〇、〇〇〇	二五、〇〇〇		田中正右衛門

▲各地銀行支店

名稱	所在地	支店設立年月日	資本金	拂込金	積立金	社債	支店長氏名
株式會社二十銀行函館支店	東濱町五	十八年三月	三、〇〇〇、〇〇〇円	一、二五〇、〇〇〇円	一七〇、〇〇〇円	——円	砂澤正俊
株式會社北海道貯蓄銀行函館支店	末廣町二十九	三十年七月	二七〇、〇〇〇	一八二、五〇〇	四〇、六〇〇	——	石井一仁
株式會社北海道拓殖銀行函館支店	末廣町二十四	三十八年五月	五、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	重役河東田經清
株式會社第三銀行函館支店	東濱町二十九	二十年二月	二、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	八三〇、〇〇〇	——	小河原秀雄

名稱	所在地	設立年月	資本金	拂込金	積立金	社債	社長氏名	摘要
函館船渠株式會社	辨天町十二	二十九年二月	一、八〇〇、〇〇〇	一、二五〇、〇〇〇	一〇、二五〇	六〇〇、〇〇〇	川田龍吉	船舶製造、修理及鐵工業
函館株式會社	運送店末廣町五	三十三年五月	六〇、〇〇〇	二四、〇〇〇	四三〇	——	山田竹次郎	船舶貨物揚卸曳船及勞役請負
北海道機械株式會社	大町四	三十四年四月	一五〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	一三、〇〇〇	——	笹野榮吉	綿糸綿網製造
函館馬車鐵道株式會社	東雲町四	三十年四月	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	三、七〇〇	——	松山吉三郎	運輸業
函館魚商株式會社	汐止町十一	三十二年一月	二五、〇〇〇	六、二五〇	三、一五〇	——	服部半右衛門	魚類委托販賣
樺太漁業株式會社	辨天町二	三十九年二月	五〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	六〇〇	——	笹野榮吉	漁業
日本漁獵株式會社	仲濱町七	三十八年七月	三〇〇、〇〇〇	七五、〇〇〇	——	——	松平正直	漁獵及水產物製造
株式會社物產商會	東濱町十一	三十五年一月	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	三三〇	——	小林藤五郎	海陸物產委托販賣
函館精米株式會社	西濱町五	四十年一月	一五〇、〇〇〇	三七、〇〇〇	——	——	太刀川善吉	精米貸搗及販賣業

渡島水電株式會社	末廣町	三十九年六月	一、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	—	—	未定
北海道人造肥料株式會社	鶴岡町	四十年五月	一、〇〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	—	—	電燈業及電力供給
巴座式會社	東川町七	三十年七月	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	—	—	井上角五郎
逢萊見番株式會社	逢萊町	三十九年七月	五、〇〇〇	一、二五〇	—	—	肥料製造
函館船具會社	東濱町十	三十六年十月	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	五〇〇	—	阿部九平治
健全合資會社	末廣町四	三十五年四月	三、〇〇〇	三、〇〇〇	—	—	藝妓營業
千島汽船合資會社	西濱町四	三十八年六月	六五、〇〇〇	六五、〇〇〇	—	—	山田竹次郎
古着商合資會社	西川町四	三十二年四月	二、一〇〇	二一〇	五八六	—	詳細劇場ノ部ニ在リ
巴合資會社函館精米所	榮町	三十七年十一月	七、二〇〇	五、二〇〇	一、〇〇〇	—	永野彌平
函館製瓦合資會社	眞砂町	三十九年九月	五、〇〇〇	五、〇〇〇	—	—	船具漁具販賣
函館製紙合資會社	東雲町	三十一年七月	一六、〇〇〇	一二、一〇〇	三〇〇	—	三輪竹次郎
							物品販賣及土木請負業
							田端半七
							運送業
							加藤喜七
							古着競賣
							太刀川善吉
							精米業
							石舘友作
							煉瓦、瓦、土管製造
							清水政吉
							製紙業

函館米商會社	榮町	三十一年四月	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇	—	—	齋藤修平
合資會社							物品販賣業
北海産業會社	東濱町三	三十二年三月	一〇〇、〇〇〇	九、三五〇	—	—	內野高吉
合資會社							海陸物產委托販賣及海運業
函館魚商會社	汐止町地藏町十一	三十二年十一月	五五、〇〇〇	一、一五八	—	—	式場忠吉
合資會社			五四、〇〇〇				魚類委托販賣
合資會社商店	西濱町七	三十九年七月	三〇、〇〇〇	一、一〇〇	—	—	新與三郎
							米、雜穀委托販賣
合資會社函館倉庫	仲濱町九	三十八年九月	三〇、〇〇〇	三、〇〇〇	—	—	中村定三郎
							倉庫業
毛山商店	末廣町九	三十九年九月	二五、〇〇〇	二、四〇〇	—	—	毛利與平
合資會社							呉服、太物賣買
青木組石炭販賣合資會社	東川町十一	三十九年一月	二〇、〇〇〇	五、〇〇〇	—	—	渡邊增太郎
							石炭賣買
合資會社加賀漁業閉體	東川町十	三十九年一月	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	—	—	政木次郎吉
							漁業
函館肥料合資會社	龜田村字村內十一	三十六年一月	二、一〇〇	一、〇〇〇	—	—	中野文太郎
							區內雨便汲取及肥料賣買
函館薪材合名會社	豊川町八	三十三年八月	五、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—	秋山富三郎
							薪及炭販賣
松陸殖產合名會社	壽町四	三十一年四月	二八、〇〇〇	二八、〇〇〇	二四〇	—	松岡陸三
							開墾牧畜業

名稱	所在地	支店設立年月	資本金	拂込金	積立金	社債	支配人	摘要
佐野硝子合名會社	東川町	三十四年二月	四、三〇〇	三、三〇〇	一八〇	—	佐野寅之助	硝子器製造
大沼凍氷合名會社	會所町	三十七年三月	五、〇〇〇	一、八〇〇	—	—	平松貞三郎	凍氷採取販賣
函館汽船切符販賣合名會社	東濱町	三十六年二月	二、九〇〇	五五九	—	—	遠山源七	乘船切符販賣
金森合名會社	船場町	三十九年九月	五二〇、〇〇〇	五二〇、〇〇〇	—	—	渡邊三策	倉庫及海運業
渡邊合名會社	末廣町	三十九年十二月	五〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	—	—	渡邊熊四郎	洋物、小間物、雜貨販賣
龜井供資合名會社	東濱町	三十九年七月	一〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	—	—	龜井初太郎	金錢貸付業
中村合名會社	海岸町	三十九年三月	三〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	—	—	中村長八郎	醬油製造
丸善菅谷合名會社	音羽町	四十年四月	一三三、〇〇〇	一三三、〇〇〇	—	—	菅谷善司	酒類及味噌醬油醋造蒸類貨物荒物販賣
一山庄吉田回漕合名會社	仲濱町	三十七年六月	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	—	—	吉田庄作	運送及物品販賣
合名會社錢一常野商店	大町	三十八年十一月	五、〇〇〇	五、〇〇〇	—	—	常野嘉太郎	紙類販賣
富澤合名會社	末廣町	三十五年八月	一八、〇〇〇	八、〇〇〇	—	—	武富平作	銃砲火藥販賣

▲各地諸會社支店

名稱	所在地	支店設立年月	資本金	拂込金	積立金	社債	支配人	摘要
日本郵船株式會社函館支店	船場町	十八年十月	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	二、三二〇、八〇四円	三〇〇、〇〇〇円	榊茂夫	運送業
日本火災保險株式會社函館支店	末廣町	三十九年八月	三、〇〇〇、〇〇〇	七五〇、〇〇〇	一、四一八、九九四	—	大森剛三	火災保險業
內國通運株式會社函館支店	大町	三十七年五月	一、二五〇、〇〇〇	七八一、二五〇	一六五、〇〇〇	—	杉村龜	運送業
帝國生命保險株式會社函館支店	會所町	三十一年三月	一、〇〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	五、〇八五、八二三	—	城田鶴五郎	生命保險業
津輕物產株式會社函館支店	仲濱町	三十五年四月	二二、五〇〇	二二、五〇〇	一〇、〇〇〇	—	野呂留藏	物品販賣
安田商事合名會社函館倉庫運搬事務所	豐川町	三十二年八月	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	—	—	—	運搬及倉庫業
金森合名會社支店	船場町	三十九年九月	五二〇、〇〇〇	五二〇、〇〇〇	—	—	渡邊三策	船舶用器、漁具及諸機械販賣
渡邊合名會社支店魁文舍	末廣町	三十九年十二月	五〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	—	—	渡邊熊四郎	書籍及學校用品販賣
同上時計店	同町	同上	五〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	—	—	同人	時計販賣

●商工業團体

名稱	位置	設立年月	組合員數	取締組長氏名	
無限責任函館龜田村買販賣組合	明治三十五年三月	一一六人	理事中村修		
邊渡合名會社三星屋末廣町	非九年十二月	五〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	渡邊熊四郎	砂糖麥粉石油販賣
同一二堂	同上	五〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	同人	書籍及學校用品販賣
同上洋服店	同町同上	五〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	同人	羅紗洋服販賣
○井今井合名會社函館支店	末廣町一三三年一月	三〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	淡路勘治	呉服、太物賣買
合名會社三忠商店函館支店	東濱町四三十三年四月	七五、〇〇〇	九、四五〇	伊藤田德次郎	物品販賣
小杉合名會社函館支店	末廣町十三十六年一月	六〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	小杉佐左衛門	呉服、太物販賣
佐野硝子合名會社支店	大町二三十四年二月	四、三〇〇 三三〇	一八〇	佐野寅之助	硝子販賣

函館鍋改良組合	大森町	同	四十年五月		
函館水產組合	高砂町	同	三十五年七月	一一五組	長孝內長作
函館鐵物商組合	富岡町	同	十八年二月	一、一三七組	長藤林藤吉
函館菓子商組合	惠比須町	同	十八年三月	一三	正取締澁田利右衛門
函館物產商組合	船場町	同	十九年七月	九五	同佐々木吉兵衛
函館魚商組合	汐止町	同	二十三年十一月	二〇二	同山本巳之助
函館和洋小間物商組合	末廣町	同	二十六年五月	二八〇	同苅谷鐵之助
函館、函田、上磯、茅部、山越、檜山、爾志、久遠、奥尻、瀬棚、島牧、寿都、磯谷、岩内、古宇、積丹、古平、余市、小樽、高島、忍路、高島、古宇、積丹、古平、余市、小樽、高島、忍路、高島、古宇、積丹、古平、余市、小樽、高島、忍路、高島

●實業團体

名稱	位置	設立年月	團體員數	會長氏名
函館刻昆布業組合	東川町同	三十三年五月	二一	組合長 高橋清作
函館大鋸職組合	賓町同	二十六年二月	一、六五六	同 菅原東之進
函館雜穀商組合	西川町同	三十七年五月	四一	同 南場吉次郎
函館板鐵細工組合	西川町同	三十七年六月	二二	取締 平澤幸太郎
函館海陸物産仲立業組合	仲濱町同	三十八年四月	一〇二	同 田中仙太郎
函館浴場同業組合	鍛冶町同	三十八年十月	六〇	同 深間源助
函館洋服商組合	末廣町同	四十年三三月	四〇	同 片岡卯三郎
函館木材商組合	眞砂町同	四十年四月	三二	組長 山田啓助
函館大工職業組合	東川町同	四十年六月	四五〇	未定

函館海運同盟會　東濱町　明治三十四年二月　二七　會長 平田薫
函館銀行集會所　末廣町同　三十八年十月　七　會長 田中正右衛門

備考　以上は公認を經たるもの其他の私團體は茲に之を省略す

●諸稅負擔額

稅目	年次	國稅	地方稅	區稅	計	一人平	一戶平
	三十九年度	五八七、三九四、四七九円	八九、四五九、九二〇円	一九三、一五六、〇九〇円	八七〇、〇一〇、五二九円	九、五六〇	三七、三七〇
	三十八年度	五六九、六二六、九六九	七四、二〇三、八三〇	一三五、八六〇、二八〇	七七九、六九〇、〇七九	八、九二〇	三四、五二〇
	三十七年度	二八七、四九、四五四	六六、七三五、一三三	一三三、三五四、五六〇	四八六、五七九、一四七	五、五八〇	三二、六〇〇

稅目	年次	三十九年度	三十八年度	三十七年度
▲國稅				
地租		二一六、二〇三、六五九円	二一五、四〇〇、六五九円	七五、九一三、二三四
所得稅		一九五、六三三、八四〇	一八五、六一三、一一〇	一〇三、一一六、六八〇
營業稅		一七五、三三四、四八〇	一六八、三七〇、二〇〇	一〇八、二二三、九四〇

諸稅負擔額

賣藥營業税	二二三、五〇〇	二四三、〇〇〇	二三五、五〇〇
合計	五八七、三九四、四七九	五六九、六二六、九六九	二八七、四八九 四五四

▲地方税

地租割	六、〇二四円、九四〇	六、〇一八円、二二〇	六、〇〇五円、九六八
營業税	六、七五七、九〇〇	六、〇二九、三〇〇	五、八四三、一〇〇
雜種税	三八、一六〇、五六〇	三一、八八〇、九五〇	二六、二九〇、九二〇
營業税附加税	一六、六五〇、九五〇	一三、四八九、五二〇	一二、六一九、〇八〇
戸數割	一九、一四五、一九〇	一二、五六四、八二〇	一二、六九八、六二〇
反別割	一五五、四二〇	一五五、〇二〇	二〇一、九八五
水産税	二、五六五、〇〇〇	四、〇六五、〇〇〇	三、〇七五、四六〇
合計	八九、四五九、九六〇	七四、二〇二、八三〇	六六、七三五、一三三

▲區税

地價割	三、四九三円、〇三〇	三、四七八円、六六〇	五、七九五円、九八〇
所得税割	三四、五五六、二二〇	二一、〇五六、二五〇	一八、九七五、七六〇
營業税割	二九、七〇一、三六〇	一六、八九五、九六〇	一五、七八七、八六〇

戸數割	九、二七六、七二〇	三、一六五、六六〇	三、二〇二、七四〇
附加割	三、四〇八、四九〇	三、〇一八、五九〇	二、九二九、〇一〇
營業税附加割	一七、五八九、一八〇	一四、七八七、四〇〇	一三、〇五八、〇五〇
雜種税附加割	九五、一三一、〇九〇	七三、四五七、七六〇	七二、六〇五、一六〇
建物割	一九三、一五六、〇九〇	一三五、八六〇、二八〇	一三二、三五四、五六〇
合計	一九三、一五六、〇九〇	一三五、八六〇、二八〇	一三二、三五四、五六〇

❶氣温對照表

▲紅塵萬丈の四字は北京より起りしか又函館より出でしか、故中江兆民居士が云ひし如く北海道に行く人は綿入れを用意すべしと、氣候定まりて綿入れより單衣になるまでの春の氣候は雪解を待つ甲斐もなく連日の風にて土塵の立ざるはなく甚しきは日光を隱くすことありき、之れ道路の土惡くして渡島半島の實を現はす以所乎、先づ中温度にて靜穩なるは八、九月、十月下旬となりては寒冷日に加はり泥濘足駄を沒するに至り雨雪は横より來りて眞直に降ることなし、殊に陽春三四月より五月下

旬までは風雨のみにて折角の花をアタラ夜半の嵐雨に吹散されて見ることを得ず人をして千歳の恨事呼はりをなさしむる等氣候の變化甚しく東風は第一の敵にて、病死者眼病者の割合に多きは強ち之れのみに依らざるべくも函館測候所の調査に係る最近三ヶ年の平均氣温及び晴雨日數を掲ぐれば即ち左の如し

▲氣温（毎月平均、攝氏）

	三十七年	三十八年	三十九年
一月	(一)四、一	〇、四	〇、四
二月	一、三	〇、四	〇、三
三月	一、三	〇、一	一、一
四月	七、二	四、二	六、七
五月	一一、〇	一〇、六	一〇、七
六月	一六、五	一四、〇	一三、〇
七月	一九、七	一八、四	一八、六
八月	二二、六	一八、九	一九、七
九月	一七、一	一七、七	一六、〇
十月	一一、三	一二、八	一一、二
十一月	四、三	五、二	二、七
十二月	〇、八	一、三	〇、七

(一)マイナスは氷點下

▲晴雨日數

		三十七年	三十八年	三十九年
一月	晴	二一	二四	一六
	雨	三	八	四
二月	同	一九	六	一〇
	同	七	三	三
三月	同	一八	二二	二一
	同	一〇	二	五
四月	同	二〇	一七	二二
	同	一〇	一三	一三
五月	同	二一	一六	一八
	同	九	一六	一二

六月	晴	一六	一五	二〇七	一一五
七月	同	一〇	一四	一四	九
八月	同	二四	八	一〇	一二
九月	同	一八	二〇	一六	一二
十月	同	一八	二一	二三	二二
十一月	同	一九	一八	一九	一五
十二月	同	二〇	九	一八	一四

▲溫度高低

	三十七年	三十八年	三十九年
一月 最高	四、一	八、〇	五、四
最低	(一)一六、八	(一)九、八	(一)一九、〇

二月	同	九、二	四、四	五、六	
	同	(一)一三、三	(一)一六、六	(一)一五、六	
三月	同	九、七	一六、九	一一、三	
	同	(一)六、三	(一)一〇、二	(一)一〇、八	
四月	同	一六、三	一四、六	一六、九	
	同	(一)三、一	(一)五、二	(一)二、七	
五月	同	二〇、三	二五、一	二四、三	
	同	一、三	〇、二	〇、一	
六月	同	二四、三	二二、六	二三、二	
	同	六、〇	五、九	三、六	
七月	同	二八、八	二九、五	二八、四	
	同	七、五	七、八	一一、一	
八月	同	三三、五	二七、一	二七、六	
	同	一三、五	一三、〇	一〇、五	
九月	同	二五、二	二六、二	二五、二	
	同	四、六	二、〇	一、九	
十月	同	二一、五	二一、七	二二、三	
	同	(一)一、二	一、九	(一)〇、七	

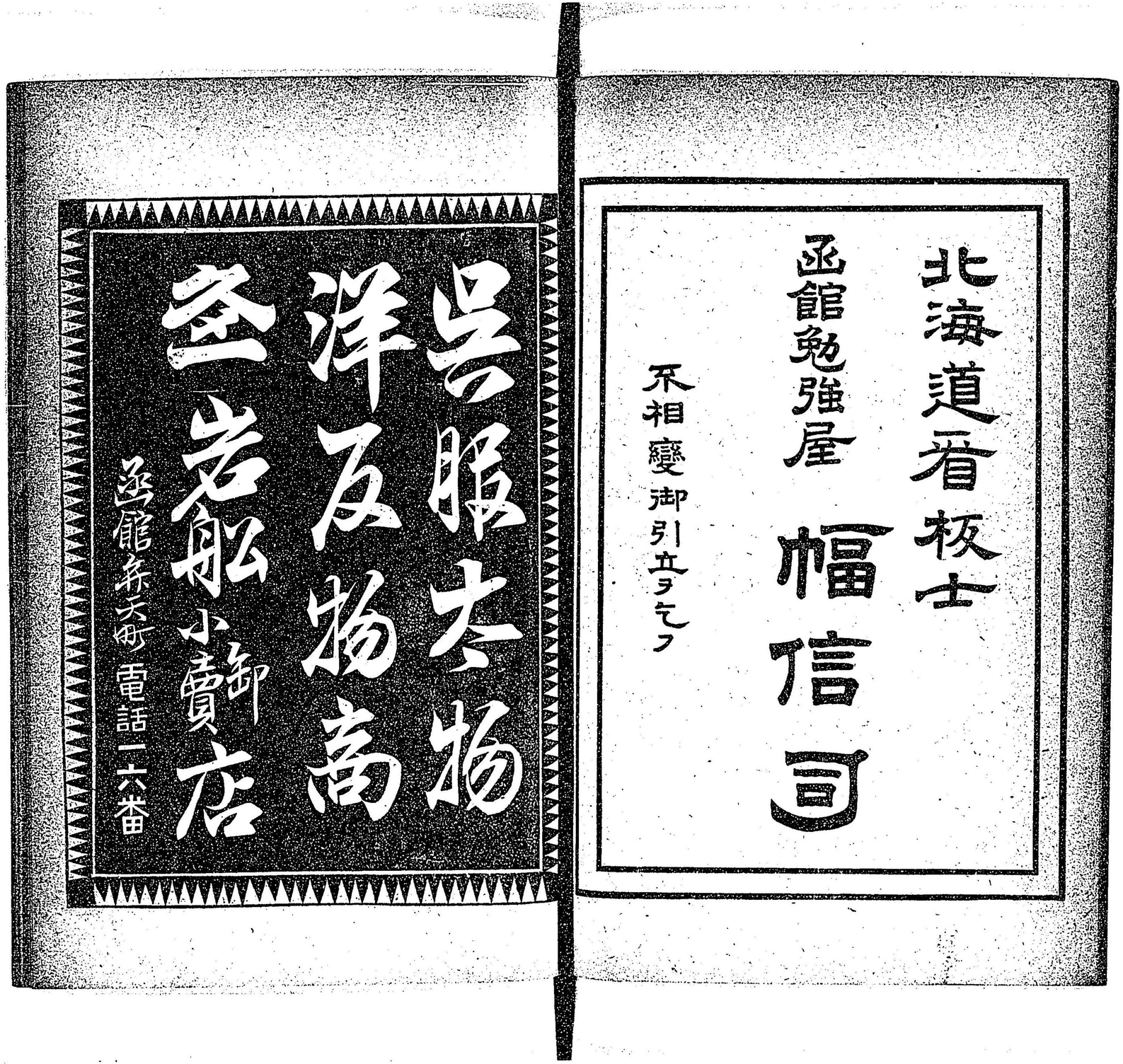
氣溫對照表

十一月	晴	一四、七	一八、三	一四、九
	雨	(二)四、六	(二)四、九	(二)五、六
十二月	同	一三、三	一三、五	一三、八
	同	(二)一三、二	(二)一五、三	(二)一〇、二

(一)マイナスは氷點下

最新函館案内 中編 終

銅鐵物商
函館區末廣町八十七八十八番地
示寺井鐵物店
電話番號〈三一九三二〇〉
電信略號(ニアカ)
振替口座番號(八參七〇)



北海道看板士

函館勉強屋

幅信司

不相變御引立ヲ乞フ

呉服太物

洋反物商

益岩舩

小賣卸店

函館弁天町 電話一六番

営業目品

帽子　メリヤス
洋傘　レース
毛布　膝掛
和洋小間物　洋服附属品

和洋雑貨商

函館區惠比壽町角
竹田傳之助

函館區末廣町
同支店

●北海道ニ於テ最古ノ新聞紙ニシテ内外ニ巨多ノ愛讀者ト偉大ナル信用ヲ有ス

日刊

函館毎日新聞

六頁　無休刊

●本紙定價　一部金貳錢、一ヶ月金三十八錢、郵稅金拾錢
●廣告料　普通一行一回金貳拾錢、特別仝金參拾錢

函館區富岡町五番地
發行所　函館毎日新聞社
電話番號（三四八）電信略號（ハコマイ）

●創立　明治二十一年三月
●資本金　壹百萬圓
●被保險人　拾万三千七百〇三名

帝國生命保險株式會社
函館區會所町（電話四四七）函館支店

●責任準備金及積立金　八百八十六萬九千壹百六十三圓八十七錢三厘
●保險契約高　四千四百二十三萬三千五百圓（四十年六月卅日調）

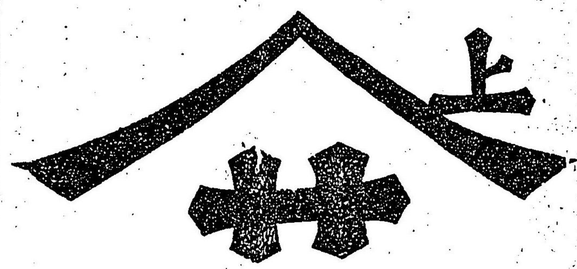
●東京及大坂等大家出版元凡テ特約誠實販賣
東京郁文舍廿五大辭書全部取揃◎新刊小說並ニ冒險小說各種
商業大辭書◎日本家庭百科事彙其他辭書各種取揃
英和辭典和英辭典日露辭典其他改正六法全書並法律書類
新刊書籍雜誌何の發行に不拘日々着荷可仕候

書籍函館ニテ五四六番雜誌大町

久江堂本店

萬年筆各種取揃其他筆墨硯◎洋手帖雜記帖類其他机上用品各學校用品一式取揃
ラケット舶來和製各種子ット及ベースボール◎ピンポン◎鉄アレー◎フートボール◎ミット其他運動具一式取揃
バイオリン練習用共取揃及附屬品各種手風琴ハモニカ並ニ明笛オルカン其他樂譜各種
水彩畫用具一色製圖器械並ニ簿記棒各種◎舶來インキ大瓶小瓶共
大沼及函館各所繪はがき并ニ函館地圖はがき其他舶來ハカキ各種
●其他何品不限臨時注文品確實引受迅速用立可致

達用御省内宮
最上醬油之元祖
登錄商標



元造醸
濱口合名會社　千葉縣銚子町

弊社醸造ノ醤油ハ學理ト實地トノ調和ヲ以テ醸造セルモノナルガ故ニ永ク貯藏スルモ變味腐敗ノ憂ナキハ勿論品質他品ニ超絶シ香味色澤共ニ佳良ニシテ我國各種ノ博覽會ニ於テ金銀牌ヲ受領又巴里萬國博覽會及セントルイス紀念博覽會ニ於テ金牌ヲ受領セリ

電柱廣告とは函館區内至る處にある電燈柱に廣告するのです
電柱廣告は電柱を美麗なる彩色ペンキに塗込み其上に廣告文を記入す
電柱廣告の効能至大なるは街路歩行者の常に目視せらる處なり
電柱廣告は今や函館區内の電柱を悉く彩色ペンキを以て塗上げ御申込の準備なれり

函館電柱廣告取扱所

主任　永井善七
惠比壽町二十八番地

電柱廣告は今や尤も時季好良なり此機を透せず速に御申込を乞ふ
電柱廣告の御申込は御一報次第主任參上御相談可仕故御手數無之候
電柱廣告に關する規定書幷に定價表は御一報次第進上仕り候故御申込を乞ふ

※ 小店本領 ※

荷造注意 ※ 出荷速迅

和洋小間物雜貨玩具卸商

二羽鶴石鹼本舖

石鹼製造業

長田富藏

電話八一一 電略〇ト

大日本精釀醬油

有功賞牌

金賞牌

京

最上醬油

北海道一手販賣

長田富藏雜貨部

寶曆六年釀造開業攝津尼ヶ崎

大塚茂十郎

百事懇切 ※ 他店不讓

※ 薄利勉強 ※

各博覽會共進會ニ於テ優等賞ヲ受領ス

山城宇治銘産

自園製茶直接販賣

弊園ハ廣ク正眞宇治茶御購求ノ便ヲ計リ小包郵便ヲ利用シ專ラ自園製ノ純粹ナルモノヲ以テ特別勉强廉價ニ高需ニ應セントス何卒本場ノ精品ヲ喫用セラレ其香味ノ特色アル眞價ヲ御批評アランコトヲ希望致候

銘蓋定價表

（百六十目一斤ニ付）

玉露	金龍	金參圓
	南山の壽	金貳圓拾錢
	老松	金壹圓五拾錢
	千代の友	金一圓二十錢
	宇治の里	金九十五錢
煎茶	蟠龍園	金八拾錢
	正大福	金七拾錢
	松の露	金六拾五錢
	里の譽	金五拾五錢
	大福	金五拾錢
	松綠	金四十五錢
	梅の尾	金三拾八錢

其他例品不拘ス御注文ニ應シ調進ス定價ハ袋詰直段ニ付鑵詰ハ左ノ鑵代ヲ要ス

一斤入 金十錢

半斤入 金七錢

小半斤入 金五錢

金高壹圓以上御注文ノ方ハ送費ハ弊園ニテ負擔ス

一代金引換小包便ヲ以テ御注文被下候節ハはがきニテ茶銘ト斤數ト御一報被下度候

一代金引換小包便ハ書留小包便ト相成候ニ付普通小包料トノ差額金及代金引替手數料等御負擔ヲ乞フ

一振替貯金口座ヘ代金御拂込ノ上裏面通信記載欄ヲ以テ御注文被下候節ハ無料ニテ送金且ツ返信シ得ラルベク候

宇治茶製造元 山城國宇治田原村 振替貯金口座四參五九

松本蟠龍園

弊園ハ誠實ヲ旨トシ敏活ニ業務ニ從事ス

御注文ノ節ハ函館案内廣告ニ依ル旨御附記ヲ乞フ

（土産物の事）みやげものについては旅行者の常に頭を腦ます處にて彼れか是れかと種々なるものに心を配り決局撰みに撰みて不適當なるものを求めるに往々人のなす處にて遺憾此上なき事なり左れば土産物を求めんと欲せば初めに大体の撰定をなすは尤も當を得たるものなり諫言すれば彼れには如何なるものが適するや彼れば老年或は青年、少年、幼年と贈るべき人物を定むることなり斯く區別をなし置かば購求に心をいたためず然して無用品を求むの愚をさくる等種々好都合なり、土産物に種類も又多數ありて何れも其特色を有するも（世俗流言の如く名物に六なものなし）の樣では甚だ感腹致さず獨り敎育的土産物に至りては名物に非ずとも當時尤も諸人に歡喜せらるゝ處なり同じ錢を散ずるも不適當なるものを求め却て惡風を殘し害毒を流す樣の事なき樣呉れ〳〵も注意ありたく、今老若男女を問はず何れにも尤も好適品として常に旅行者の賞讃を博し居る敎育的土産物を左に招介す北海道名所案內、蝦夷百風景、北海道十二景、北海道地圖各種、北海風景及び函館風景繪葉書、土人風景繪葉書、北海道物産繪葉書等此外土産物に好適品各種あり委細は最終に記載あれば一見せらるゝも無益の事にあらさるべし

最新函館案內　下編

●神社佛閣

▲寺院

（高龍寺）曹洞宗にして臺町にあり、遠く其開祖を尋ぬれば開山は盤谿芳龍和尙にて寛永年中龜田村に建立し寶永年間大黑町に轉じ明治十二年地を臺町に卜して堂宇を建立せしも不幸明治二十一年八月回祿の災する處となり爾來苦辛經營十幾萬圓の大金を投じて今日の大伽籃を建立するに至れり、其裏に名園あり勝田彌吉翁は五千餘圓を投じて奇石異木を蒐集し自ら鋤鍬を取りて造りたるものにて風致佳好跼蹐を以て有名なり、目下末寺院五十餘ケ寺を有し檀徒三千餘戶東北唯一の名刹なり、今復數萬圓の豫算を以て山門及墻壁築造の計畫ありと春の彼岸に於ける同寺の花廻

りとて有名なるものなり、現住職上田大法

（稱名寺）船見町にあり浄土宗にして正保元年の開基、寶永年中今の彌生學校附近にありしが明治十二年頃現在の處に移轉し其後火災に罹り多くの喜捨寄附に依て現今の大堂宇を建築し高龍寺と竝び稱せらる、現住職吉水定穩

（寶行寺）日蓮宗にして明暦元年の開基、船見町にあり元商船學校の處にありしが明治十二三年頃現在の處に移轉せり、現住職中谷潮音、因に同宗の古刹、本道の本山とも云ふべきものは函館を距る四里餘石崎村の經石寺にて開基は今を去ること五百年前にありと

（願乗寺）天保四年の創立にて初め本願寺出張休泊所と稱し萬延元年に至り願乗寺と改稱、明治十年二月本願寺別院となり東川町にあり、明治三十二年五月の大火に流石の大伽藍も亦烏有に歸し容易に再築の運びに至らず爾來辛酸經營の結果本年五月漸やく基礎の堅めをなすに至れり仆石据付箇所の地堅めの如きは信者の多き名

籃とて老媼は令嬪の裝をなし若女は男子に變じて工事手傳に出でたる等非常の盛況を極めり又三十九年七月十六日同本山法主大谷光瑞氏は裏方同伴來錫あらせられ日露戰死者追吊法會を行はせらる安政年間同寺の僧堀川乘經は新渠を穿ち、龜田川を灣内に注がしめ後附近の人民は毎朝之れを掬し以て飲料に供したる等の記錄を有し今に其溝渠を存せり、此碑文門前にあるも署す、如斯多の歴史を有する東川町、西川町は此溝渠に依て東西に區別されたるものなりと云ふ、現輪番名和淵海

（乘立寺）西本願寺、東本願寺と共に東西の大關なり元淨立寺又能量寺阿彌陀堂と稱す堂宇は元町にあり寛永八年の開基、昨年五月新門跡大谷光演氏の來錫ありて要塞に於て日露戰死者の追悼會を執行し一場の說敎をなされたり、檀家信者の多きこと西に讓らず朝夕の參詣者何時も市をなせり、殊に十一月に於ける報恩講當時の如きは一年一度の法要として參詣人非常に多く最も雜踏を極む現輪番青塚慈念

（常住寺）明治十二年の創立にて相生町の先にあり、流石日蓮宗丈けに朝夕太鼓の

音琴々として絶ゆ

（新住連寺）　相生町にあり眞言宗にて明治六年の開基現住職青麻永昌

（秋葉山）　明治十九年一月の創立にして青柳町にあり、今は遠州秋葉寺の直末寺となり現住職小林祖道

（高野寺）　青柳町にあり明治十七年六月寺號公稱を得北南山敎王院と號す現住職矢内嶺明

（湯殿山慈尊寺）　大日如來を祀りて船見町にあり、明治十九年の創建地高燥にして境内は最も眺望に富めり

（眞言寺）　臺町にあり天保十二年の創建、成田山眞言寺と稱す現住職小林道詢

（成田山出張所）　三十年十二月建立す、下總國新勝寺の派出所にて松風町にあり毎月二十八日には藝妓等の參詣盛なり

（信州善光寺別院）　榮町にあり明治二十七年九月の創立にて三十一年二月中信州善

光寺法務所を移す

（新善光寺）　春日町四十三番地にあり淨土宗にて檀似の等樹院、厚岸の國泰寺、と共に幕府の御朱印付なる三ケ寺の膽振國有珠郡有珠村善光寺の末寺なり、安政四年の創立に係る今遠く有珠村の善光寺の由來を尋るに慈覺大師が南部恐山參詣の歸途麓より遙に山の如きものゝあるを見て渡道し有珠郡に至ると夢枕に立たるものゝあり之即ち善光寺にて大師自身は此肖像を刻み土人に依り堂宇を建てたるは抑も同寺の開基にて十萬石の資格を有せり、其七代目仙海師は今の善光寺を建てたる開祖にて明治五年六月十日沒し信者には蓮華講と云ふものゝありて四十八組あり有珠郡本山に於ては秋彼岸に此講中參詣して元は中々盛なるものなりしと

（天祐寺）　春日町にあり嘉永元年宗主は天台宗にて陸前國相馬の僧智周創草に係り て、慶應年間龜田郡神山村等樹院休泊所を天祐庵と公稱するの許可を得後天祐寺と改稱す、又時の控訴院長靑木信寅氏等の歸依を得て歡喜天堂を建立す、本年五月十

九日假入佛式を擧行せり新堂宇建立は多年の宿題なりしか明治三十九年六月十九日始めて起工式を行ひたるものにして現境内は信仰目黒源吉氏四百五十餘坪の寄附に係るものなり、現住職山口智順

（大泉寺出張所）曹洞宗にして本寺は上磯郡泉澤村にあり元和元年の開基

（佛光寺）音羽町にあり

▲基督教會

（露國正教會）（希臘教）聖堂元町にあり、（羅馬カドリック）天主堂元町にあり（英國基督教）聖公會々堂曙町にあり、（米國メソジスト教）教會堂會所町にあり（日本基督）一致教會堂相生町にあり

▲神社

（國幣中社）品陀和氣尊、住吉大明神、金刀比羅大神、諏訪大神、田村將軍の五社を合祀して函館八幡宮と稱し谷地頭町函館山の半腹に鎭座す、境内最も風景に富み

超脫俗を離れて春に花あり鳥あり秋は團々たる大月を万里の海上に眺む例祭は八月十五、十六、十七日の三日間にて區の大祭なれば其の賑へること云はん方なし、文安二年河野政通勘請

（鄕社山上大神宮）天照皇大神宮　豊受大神宮を合祀し船見町にあり三十八年社殿を改築せり

（村社船魂神社）元町にあり監士翁神、其他大綿海神、建速佐之男命を合せ祀る

（村社東照宮）維新前までは神山村にありしが函館戰爭の時兵火に罹り其結果函館天祠寺に移されて後現立の蓬萊町に移れり、徳川家康を祀る

（村社市杵島神社）市杵島姫を祀る辨天町にあり

（無格社三吉神社）大巳貴命　少名彦命　三吉大神を合せ祀る、住吉町にあり

（招魂社）汐見町に在り明治二年巳巳勤王戰死者の靈を祀る、區の大祭として六月十五日執行せしも日露戰爭以來東京靖國神社と祭日を同うして五月五日執行するこ

となり、八幡宮と同社は區の二大祭にて賑へること八幡宮に讓らず、土地は高燥にして巴港を下瞰して駒岳の峯巒に對す眺望最も佳なり傍に戰死者の石碑あり、樹下暗くして義烈忠死の魂魄茲に集るもの、如く肅然襟を正しむ、因に登口の「招魂塲」と刻みし碑標は惠比須町高田屋御殿の龜の子石の片割にて今はなきも華表と燈籠三組其他戰死者の墓石を取りたる餘りにて元立待崎より出るものなるが其大石なること思ふべし書者は碧血碑の書と其人を同ふし中村某なり東京谷中の石工軍覺之を刻む當時實に一字五兩宛を支拂いたる有名の碑石なり、又明治六年五月四代目高田屋の主人は世をはかなみてか龜の子石の出處立待崎に於て縊首の最後を遂げたるが世人高田屋と此龜の子石の因緣に付て奇怪呼はりしたる事蹟も有り

（龍神社）西川町にあり海神を祀る、明治三十年中新祠を造營す

（函館山の上神社）大巳貴命小彦命を祀る船見町にあり

（湊川神社）湊川神社の分靈なり有志者三十二年四月二十日其筋の許可を得目下祠

堂建立の計畫中

（神道諸教會）神宮教本部一名神宮奉齋會船見町にあり、金光教會支所青柳町、天理教會支部青柳町、蓮門教會春日町、黒住教會相生町、湯殿山出嶽教東雲町、神習御嶽教鍛冶町にあり、其他種々の教會派支所あるも重なるものゝみを記載して以下略す

（龜田八幡宮）鄉社にて龜田郡龜田村にあり、譽田別尊を祭神とし明德元年河野盛幸勘請、例祭は陰暦八月十五日にして村内の老若男女參拜非常に賑へり

●名所舊蹟

▲函館八景

今は既に故人となりし開拓使權判官杉浦誠氏（梅潭）の詩題となりし八勝は左の如し

回顧すれば此五六年前までは八勝の一たる谷地頭は眞の牧場、運動會場に好適の小

荒原にて中央の一沼池は朝夕水鳥の遊泳場たるに過ぎざりしか現今は人家稠密の市區となり當時の俤かげ亦見るべくもあらず

○高龍寺晩鐘　杉浦梅潭

山腰移築遠人家。　蕭寺風煙也足誇。
知道老僧將被寂。　一聲撞亂晩林鴉。

○大森晴嵐

沙嘴漁歸擱小舟。　淺汀潮縮別成洲。
秋晴不似春晴淡。　一髮青山見奥州。

○臥牛山暮雪

風雪紛々鎖九寰。　寒威一弛一張間。
晩來又是天昏黑。　家在山前不見山。

○立待秋月

百尺懸崖路訝無。　秋空萬里月輪孤。
水天一色金龍走。　急觸巉巖碎作珠。

○谷地頭落雁

靺鞨新寒已奈何。　銀山玉海巨經過。
曉來池沼氷初結。　日暮偏留雁影多。

○公園夜雨

擔滴聲々攪客眠。　夢逢神女亦蕭然。
蓬萊雲雨更深後。　結作名園一抹煙。

○東風泊歸帆

誰言消息九旬稀。　吉夢今朝事出非。
恰好輕帆孕風大。　青樓有女待歡歸。

○旭橋夕照

三十沾煙一港籠。萬檣連在大街東。

舟人卜得明朝霽。夕日紅於旭日紅。

▲蝦夷ケ館

谷地頭の奥に鎮座せる函館八幡宮に向つて右方に小山あり之れ即ち蝦夷ケ館なり其年代史上に明かならざるも其跡今尚ほ存し樹林繁茂、外夷の襲來を防止するの風、地理に存して歴々たり

▲義經井戸

元町船魂神社の上にあり義經の沒落して蝦夷に來るや飲料水に窮し處々清泉を尋ぬるに神靈の御託にて此處に水湧出せりと云ふ開拓時代までは百二十間四方に〆繩を張り埜拔の地なりしも後年何時となく荒廢に歸し今其跡形なし船魂神社は此地域に安置されたるものにて盡尚暗く蓊鬱たる杉林に鴉の鳴くのみ傍らに高等女學校あり世相の推移以て知るべし

▲谷地頭

青柳町より公園を過ぎ住吉町の背後に出づれは平面の濕地あり之れを谷地頭と云ふ地勢海面より尚低く松前藩政の時高田屋嘉兵衛同藩より三萬坪の拜地をなし現今の柳川熊吉氏宅の上に居宅を構へ、代々谷地頭として住居せる歴史あり之れに就て面き話は安政元年幕府竹内下野守保德、堀織部正利熙に命じ函館近傍の地を收めた る時堀織部は谷地でない故野頭に改めると云ひしに高田屋は之れを聞きて自分が能登の出生なれば其能の字を取りて野頭にせしものと思違へ上方とは博識なものだ何時をれの生國を知りたるかと驚きたる云々の逸事なり又記錄を取上られしこともあり今其俤とも云ふべく殘り居るは柳川庭に在る落葉松なり此松は越後より取寄せたるものにて其次は公園の八房の梅、松、招魂社の石燈籠、碑石となり居る龜の子石のみなり之れよりすれば谷地頭は勝地とするよりも寧ろ舊跡地と云ふべきか、然れども風致に富むの地は元より舊跡多く、杉浦梅潭の八勝中に撰入されたるも因由なきに

あらざるべし、料理屋あり炭酸温泉、勝田、金森あり、別荘あり名物としては柳川のサラシ蕎麥、木下丸升の葛餅あり、晝夜車輪の往復頻々東京ならば先づ王子邊とも云ふべきか、絃歌の聲は住吉町の歎乃棹歌と相和し、夜來の客は皆是周公を夢みず美人を夢み月に嘯き花に吟ずる多情多恨の才士也、開け行に隨ひ漸次俗塵に近きしが如く思はるゝも前面には宇賀の浦を控へ背後に巍然たる函館山を負ふ公園の花に倦みては温泉に一浴して天下の大事を談ずる亦妨げん對座閑話一醉又一睡を重ぬるも興なきに非ず花の頃晩霞の中に蛙聲を聞きて昔を偲ぶは雅人騷客の事なり

▲碧血碑

谷地頭町の山麓函館山の半腹に在り、碑は佐幕黨の戰死者に對し有志の建立したるものなり、四季折々の景參拜者の感亦同しからず、其大要を今左に記載せん

春は梅櫻馥郁として紅白妍を競ひ、夏は老樹鬱蒼翠綠將に滴らんとし、秋は晩景の頃虫聲沈々として白骨を吊慰するかの如く或は趁凉に或は觀櫻に或は觀月に四ツ折

々の景に促がされて參拜するもの前面萬丈の怒濤磯に激するを見遙かに字賀の浦の狂瀾、白砂に咆哮するを聞かば勇士奮戰の狀座ろに思ひ出されて、無限の感を起さしむ嗚呼是れ共に戰場の勇士日本魂の精華を發するに於て二致あるべからず而して一は祭られて國士となり芳名長く傳へられ一は草賊として魂魄頼るに處なし順逆其分を誤れるに因ると雖も千歳の下身ら知己あるべし例祭は春季にて又其遺族及有志の組織に係る碧血碑保存會なるものあり、朝夕落葉を掃いて之を吊慰する知己既に在り諸氏夫れ冥せよ碑の裏面に文あり中村某の撰に成る文簡にして意悲壯幽遠其人物想ふべし傍に東京宮本鳴北翁建立の碑あり其詩に曰く

戰骨全收海勢移。紛華誰復記當時。鯨風鰐雨函山夕。宿草茫々碧血碑

とありて又大鳥、荒井兩君の口吟まれたるものは左の如し

吹拂ふ風になひかていさよく折るゝも松の操なりけり　大鳥圭介

色かへぬ人の心もあらはれて今もみとりにしける松かな　荒井郁之助

▲公園地

明治七年此地を相して公園となす地積一萬四千六百坪、現在の函館東濱町埠頭よりすれば西南に當りて青柳町にあり谷地頭に接續す明治十一年中樣大書記官時任爲基氏公園の必要なるを認め自ら勠鍬を取りて土工の事に當り官民協力終に之を成就せり中にも渡邊孝平、淺田清次郎二氏の如きは、最も之に力を盡せり、淺田翁は公園の經營に就ては素人なれど熱心の力驚くべく十中の八九は實に翁の手に成れりと云ふ後明治廿四年櫻二千本を植ゑ付け益々其美觀を添えたり近年有志相謀りて碑を建て其德を頌す先づ入口の松より案内せんに兩側に植付ある松は鶴龜の松にて向つて左側の松は町會所の役宅より移されたるものにて右側の松は今を去ること約七十年前なるべし惠比須町丸北蕎麥屋邊に元一沼池ありて游泳場なりしが高田屋嘉兵衞之れを埋めて高田屋御殿を建築し松前公の御旅館とせり此門前の置石は龜の子石と立待崎の海岸にありしものを不漁の年漁民に職を與ふる爲め引寄せさせたるもの

なり此龜の子石は中々大なるものにて後年幾石塊に切斷せられしが當時此石の側に植えられたるものなり

扨て此松に迎られて公園内に入り明治山（摺鉢山）に登れば松間海を眺めて、南部の諸山指呼の内に在り

●●紀念碑は黒田公の山海奇勝を始めとして一六居士の揮毫に係る同園の紀念碑其他淺田翁の碑は重なるものなり而して此公園の如何に風致に富み居るやは山海奇勝の四字に依て知らるべし

●●櫻餅の元祖は達摩屋にて本名友田梅次郎と云ふ明治九年頃山の上の丸太に寓居せる俳句の宗匠孤山堂無外翁の指南にて丸太庭内の櫻葉を以て製造せしに始まる今は十數軒を以て數ふるに至れり

水産陳列場前に二橋あり一を●●眼鏡橋と云ひ一を●●白川橋と云ふ白川宮殿下の御渡りになりたるを其儘橋名としたるものなり

水産陳列場は第一第二の二館より成る總べての水産物手工品動物等を陳列す又共同館あり清佳幽邃明治八年　鳳輦北巡の日蹕を此に駐めらる、現今ホテルに使用し貴顯縉紳及び外賓の休泊所となれり

白川橋を渡らんとして橋畔より稍々下方に通稱八ッ房の梅あり此梅は高田屋が柳川氏宅にある落葉松と共に鉢植のものを越後より取寄せたるものにて其實二王梅なり實二つ重り着く又此梅は上伸せず地上に張蟠る癖あれば臥龍梅と云ふも可ならんか規模小なるよりも水なきは公園の一大欠點なり若し白川橋下水の流るゝあらばと思はしむ

花開期に梅櫻皆同時にて發葉も同時なれば妍艶を戰はして頗る美觀なり盖し氣候の然らしむる所櫻は末廣町の逸見氏寄附のものは重なるものにて吉野櫻の手なり爛漫の時は恰も雪の如し薄紅の梅花之に參差し晩霞鎖すの頃は住吉の波聲、谷地の蛙鳴を傳へて情趣綿々として盡ず園の中央に當り皇太子殿下御慶事紀念の松あり萬翠

滴るが如し其背後に紅葉樹（時任氏の邸宅より移）あり其他噴水器あり涼氣盡きず又千五百燭の電燈明々として夜陰を破る夏は趁涼に宜しく此處に徹夜する人あるも故なきにあらず

右は大體の案内なり詳細は百聞一見に如かず

▲水道配水池

北越地方の老媼の初めて函館に來りたるもの函館は水の出る地藏尊は澤山あると云ひて拍手參拜したる一口話あり之れ本郡に有名なる函館水道給水鐵管にて一朝一夕に起りたるものにあらず遠くは文化年間に於て函館奉行支配調所富山元十郎飲用水の欠乏を憂ひて函館山中に一の水源を發見したる安政年間本願寺の僧堀川乘經新渠を穿ちて鮫田川を延したる、近くは明治十九年虎列拉病流行して患者一千百餘名死者七百餘名を出して學校休業、諸興行を禁止したる等、皆良水欠乏の實を示さゝるはなし之れ函館區民の負債を意とせず官民一致協力此大工事を起したる所以なり、負

償、償却後も區民は井戸を廢して一年一圓二十錢の水道使用料を納付し居れり今左に該工事の沿革大要を記載せん

明治二十年十一月水道敷設工事の議一決するや公借基金の募集に着手し應募金額七萬有餘圓補助金十萬一千餘圓を以て二十一年十月起工式を擧行せり擔任技師工學士千種基監督者平井時二郎氏にて此時の基本金、總經費は左の如し

基本金二十萬圓內譯公借金十一萬圓補助金七萬五千圓共有金五萬圓なりと云ふ

總經費金二十三萬六千百二十四圓內鐵管購求代九萬四千七百三十二圓工費六千四百二十七圓、諸費十三萬四千九百六十五圓

水道起業公借金第一回拂込期日明治二十一年七月十三日、第二回同十一月十五日、第三回同二十二年二月十二日

にて其後人口の增加に連れて鐵管の增加、或は年一年改良を加へて大に面目を改めたり

●配水池●　高低兩區あり、官有地二萬二百八十八坪を特別拂下して敷地に充てたるも

のにて、地形は長方形、對隅に六角形流入流出井あり、又地壁、斜面、氷塊を取除き、除掃に便ならしむ、周圍は芝を植ゑ砂利を敷き柵を設け靑苔もえんとす

▲辨天砲臺

松前氏の時築きたるものにて辨天町の先にあり此埋立に用いたる土は臺町の登口、大黑町より堀取りたるものにて維新後まで其跡を留めたり、後安政二年函館奉行竹內保德、堀利煕等其基礎に因りて大に改築の必要を認め築城法に精通せる武田斐三郎を擧げて之か經營に任じ五年に至て竣工せり、構造は不等邊六角形にして同じからず前面左右各七十三間右側七十三間左側五十間後側二十五間一尺餘周圍三百九十間二尺餘高さ約三十七尺門一東南端にありて大砲十五門六十斤砲二座二十四斤砲十三座を有せり、之れ辨天砲臺の全形にて明治元年幕府の脫走隊之れを奪取して官軍の攻擊を防止せし事實は函館と戊辰の役の項に記載するが如し其當時の將は永井玄蕃にて能く之を守りしも大勢抗すべからず五稜廓落ち千代ケ岡破れ辨天砲臺亦途に

陥落するに至れり明治六年十一月陸軍省所轄となりしが二十九年港灣改良の必要起るや之れを破壊して此附近の海面を埋立て區有市街地となし其海面に接したる一部を船渠會社敷地となせり、二十九年六月十三日函館船渠會社創立總會を東京に開き十一月八日之が認可を得たり、現在の函館船渠會社之れなり餘地は一部陸軍省用地を除き入札賣貸となし根室の柳田藤吉翁に落札せり氏は此に宏大なる九本倉庫を建設せり新濱、臺場、仲、帆影、小舟の五ケ町は實に其遺跡にして烏賊漁の季節最も繁昌を極む

▲海水浴場

蓬萊町先の海岸にあり大森晴嵐の名勝地を占む盛夏の候人の之に赴き遊ぶ者多し海は漸深にて遊泳者の深淺を擇ぶ自由なり然れども年々溺死者あるは之れ浴場の範圍を脫して遠く遊泳するが爲めなり砂上脫衣場あり、浴場あり又保護船ありて萬一に備ふ細波皷々白砂を洗ひ清風歸帆を颺て清涼言はん方なし正午より午後三四時頃最

も宜し、同場の設置は近年なるにも拘はらず甚だ盛なり又附近東照宮の傍に海水の湯屋あり紅塵を拂ひ精神を清めんとするものは一沐一浴を試らるべし

▲五稜廓

五稜廓畔望江城。流落天涯孤客情。有約明年鑒逆賊。滿城春色調千兵。
と醉後に一吟したる榎本氏、兵氣衰頽事既窮。翻然代衆殺斯身。獨羞一片男兒骨。不曝白沙青草中。と吟じて五稜廓を出でたる大鳥圭介氏等今尙ほ健在なるも廓は既に荒廢に歸し溝濠は製氷所と變じ城内の觀又昔日の如くならず唯白髮衰顏の老翁銃を手にして空し無聲の詩を題するを見る

廓は函館を距る一里餘龜田郡にあり模型は「パッミラン」式にて菱花形を成し周圍に壕渠あり龜田川を引て之れに注入す、起工は安政三年にて函館奉行竹内保德、堀利熙等相計り金湯學校教授武田斐三郎をして設計及監督をなさしめ元治元年竣工六月函館奉行小出秀實移て之に居れり後函館戰爭の時敵の根據地となりしが官軍の奪取

する處となり明治五年九月毀ちて空廓となし六年十二月陸軍省の所轄に屬せり
今は昔辨天砲臺も共に要害堅固の名城たりしも世運の進歩と伴はず僅かに詩歌俳句の資料に昔を偲ぶは英雄の末路に似て憐れなり

▲五稜廓の氷切

國内云ふに及ばず遠く臺灣、清韓、南洋諸島まで輸出され又ポストンの輸入氷と競爭して勝利を得たる結果漸次名聲を博し近年著しく輸出増加して印度、新嘉坡方面まで行渡り内外に廣き販路を有する氷は即ち此五稜廓の壕より出づるものにて製氷人は當區の富豪山田啓助氏なり、氷室も規模大にして全國に其比を見ず眞砂町にあり、其他同氏の外製氷に從事するもの少なからざるも氷屋は皆五稜廓の三字を冠せる者の如し、されば五稜廓の氷切とて名所の一に數らるゝも無理ならず之れを見んとするものは寒威を恐れず夜行を厭はざるにあり扨月夜寒風を冒して至らんか琉璃板の氷光は月に映射して恰も白玉の如く厚きものは尺五に及び鋸にて挽切る音は

新來の客に一種奇異の感を與さしむ運搬亦徹夜にて通行の市街は途上の積雪荷馬車の車輪に軋りて往々人の安眠を破る其盛なる言語に絶ける

▲競馬場

明治十六年十月二木彦七、函館大經氏等發起人となり、函館競馬會社を設立し、馬場を大繩町に開設せしが、函館の繁榮は同方面に發達せると共に規模狹少を告げ更に函館を距る一里餘湯ノ川通り柏野の地を相し數萬圓の基本金を以て現在の大競馬場を有するに至れり、理事は松山吉三郎氏、事務の監督は專ら函館大經氏之に當れり同氏は同競馬場に住居す、函館氏の馬術に就ては有名なるものにて誰知ざるものなく、日常練馬を事とし、驥北の馬群氏に依りて空なしきの慨あり、競馬は春秋の二期に擧行す當日各地より千里の名馬蝟集して洋々たる大平洋の青瀾に嘶き各其健脚を爭ひ或は大金を賭して勝敗を爭ふ等觀客の拍手甚だ盛なり、湯ノ川温泉も亦之れが潤ひを受けて非常の雜沓を極む、執行日割は二日間にて秋よりも春の競馬會を偉

覩とす

●湯の川温泉

函館を去る一里餘松倉川の河口にあり、温度は九十度以上にて温質は混交性にして閑雅紅塵を避るを以て遊樂場に適す近年鐵道馬車の開通により一層浴客多し鐵馬賃は往復切符十五錢片道十錢にて僅か四十分時にて達するとを得、されば一寸粋な遊びをせんとするもの皆此温泉を指せり、地位は海濱に沿ふを以て鮮魚に富む夏季は最も繁昌す初秋に至りては松倉川の鮎釣、銃砲を肩にする、遊獵家亦少からず北鐵開通の當時は一時遊客減少の悲觀を呈せしも此頃復た舊に復せしのみならず却て殷賑を告ぐるに至れり、旅館料理店あり、就中洗心館林長館、保養園等は料理旅館兼業の重なるものにて林長館の如きは玉突場等の設置あり圍子を名物とす又此處より一里半にして鹽澤に通ず柄の連理木あり一里北方に神山の温泉ある等春秋の

候健脚家に好適の地なり今往時に潮りて其の發達の端緒を紹介する亦無用の事にあらざるも據るべき記錄なきは遺憾なり口碑に依れば料理店の元祖は小花と云ふ藝妓にて今の桑原病院の家宅も此藝妓が建築したるものなりと湯ノ川に料理店を開業せしは明治二十年前後なりと云へり之れ抑も同地開發の始祖なるが如し函館戰爭の時は先づ小屋掛位に過ぎざるべくも負傷者は此湯にて療養せりとあれば効果ある温泉としてみるべし、因に小花は東京ものにて函館に落延び來りしが後ち資産を作りて今の桑原病院の家屋を建て又湯ノ川に料理店を出し蓬萊町に貸座敷を置く等一時中々繁昌せしものなり

▲瀧の澤瀑布

函館を距る二里龜田郡湯ノ川村の深奥瀧の澤にあり、有名なる岩船氏別莊のある處にて大と云ふ程にあらざるも四圍風景に富む左右は奇巖絶壁老木之れを蔽ひ、秋は兩岸紅葉に燃る許り、夏季は飛沫頭上を越えて雨の如く肌爲めに寒きを覺えしむ趁

涼に宜しく、其水深を知らず斧に響く震動は百雷の如く耳爲めに聾す一度此處に遊べば恰も仙境に入りたるの思をなさしむされば夏秋白泡飛沫に紅塵を避くるの客甚だ多し

●大沼公園

函館を距る北方十六哩の地にあり、北鐵開通以前までは人の是れを知るもの甚だ稀なりしが鐵道開通と共に其名一時に傳はり今や大沼の勝は内外人士の賞讃を博し一度當港に遊ぶの者は必ず之れを訪ふを例とせり、明治三十八年公園地に指定せられ爾來道廳の經營に依りて其設備稍々完備するに至れり、左に其大要を紹介して遊覽者の栞とす

巍然煙を吐て雲表に聳え山下大沼小沼の水底に翠峯碧巒を倒にするもの之れ駒ケ嶽なり記錄に據れば安政三年八月二十六日震動噴火、石降り雹の如く人畜死傷數ふべ

からず石磈三丈に及ぶとあり又最近の噴火は明治三十八年八月にて灰を降らす二三分、大學より田中館理學博士の來りて調査せられしとあり火山系に屬し海抜三千七百七十九呎渡島第一の高山にして又大沼第一の壯觀なり

大沼は渡島國龜田茅部の兩郡に跨り函館を去る約七里、海面を抜くこと四百余呎の處にあり最も狹き處を「せばつと」と云ふ西にあるを小沼、東にあるを大沼と云ふも今は一般之を大沼と云ふ大沼は土人語にて「ポロトウ」と云ふポロは大、トウは湖の義なり、小沼の面積は幅南北約二十町、大沼は二十五町、全沼東西二里二十町周圍八里二十四町にて、周圍に軍川、峠下、宿野　等の村落あり水清く飲用に適す、最も淺きは二三尋乃至一尋深きは十尋に至る處少なからず、南岸は地味良好農作物に適し湖底は皆磐にて小砂之れを藏へり、目下工事中なる渡島水電は此水を利用するものなり

川は長井、軍、苅間、堺、古小沼川等にて湖内に注ぎ、東端の銚子口より噴火灣に

入るを折戸川と云ひて眺望佳絶なり、
沼島多く大小合せて百四十ありと云ふも未だ数へたるものなく大なる島は面積三萬坪、小は一坪に滿ず島上蓋く草木繁茂し就中櫻、一位、楓等多し
湖岸屈曲良澁多く其數枚擧に遑あらざるも著名のものを擧ぐれば左の如し
釜の下、堀の澤、春子、由一、二ッ石、小鮒、深、せばつと、精進、釜、船付、川尻、大八、鞍掛、三ッ口、苅間川、隅、がま、銚子口、ユグイ溜、地獄、ブンキ、赤澁、赤、高橋小屋の下、山二等あり
樹木は一位、石南花、栗、桑、橡、櫻、楓、楢、ハンノ木、カタシグ、青楷、赤楷、谷地楷、ブナ、ドロ、サビタ等あり近來軍川附近に林檎、梨を植付るものあり發育良好味も亦佳なり
青物は作りて産せざるものなし天産物としては野葡萄、コクワ、覆盆子、椎茸、マイ茸、ムギ茸等にて野蒜葵、ダイス、欵冬、あづき菜、山葵、ぜんまい、蕨等は函館附近よりも二週間位早く至る處發生せざるはなし

野獣は熊、鹿、狐、兎、貂、狸、狢、木鼠等兎最も多く又鳥類は鷲、山から、四十から、こつけい、小がら、山二羽烏、金翅雀、かけす、鶺鴒、鶉、雲雀、時鳥、啄木鳥、山雉、山鳩、鳩鳥、佛法僧等なり其他雁、白鳥、鴨、あいさ鴨、鴛鴦、むぐり、羽白鴨、鹿部、鴫、青鷺、白鷺等狩獵家の材料少なからず
魚類の重なるものは鮒鯉にて年々の産額三千圓を下らずと此鮒鯉は明治四年時任爲基氏移殖せりともありて其他鱒は長七八寸のもの珍とせず、鰌、雨鱒、山べ、ユゴイ、ゴダロ、カヂカ、系魚等あり、去る三十三年函館支廳は千歳湖よりカバチエホ魚二十萬粒を移殖し試驗の結果好良なりしを以て又三十五年七十萬粒を移殖して養成することゝせり味は鮭鱒の如く生長期二ケ年大一尺三四寸に至ると此移殖に就ては漁業組合頭取澤口猶藏、元函館支廳第三課長藤居祐造氏與りて力ありと
陸産物は馬鈴薯の如きは水車を以て盛に澱粉を製造し尚將來有望なるは林檎、梨、栗李等にて宿野邊の薪炭は有名なるものなり函館區に供給する薪炭七分は此地の産

なり

●●土産物は鮒の雀焼、鯉等は重なるものにて他は函館より持行きて風を換へたるものを持歸るに過ぎず

●●料理兼旅館は山月亭、大盛館、龜の湯、紅葉館等は重なるものにて農場には香川縣人宇喜多秀夫、金澤正次、早見辨輔氏等の農場あり又山本巳之助氏の硫黄山ありて幾百の勝景と共に此湖沼を圍繞す

▲口　碑

●鰻は昔大沼の主にて大なるものは船を覆し人を害せり留の瀧は五十年前駒ケ嶽噴火の節折戸川の中央に瀧を生せり即ち之れなり、佛法僧は四十年前一僧あり小鳥來りて佛法僧となくを聞き之れ佛使なりとて一寺を建立せしが參詣するもの甚た多し鬼柳は沼の南岸停車場より東三町計りにあり昔日角力取此に居を構へ大酒亂暴を働く故に名づけたりと、又相原周防守は戰ひ利ならず大沼に身を投じたり故に鞍を乾し

たるを駒ケ岳、鞍をかけるを鞍掛岩と稱せり等の諸說あるも史上に散見するを見れば康正二年東夷大に七飯邊に戰て利あらず姫君姉妹姉を連れて茅部郡に落行くの途中姫君姉妹は狡夷の襲撃に遭ひ悉戰の結果投身せりとあり或は其誤傳なるべし其他事實とすべきものなきを以て之を略す

▲勝　景

（釜比羅山）　一名讃岐山と云ふ位置は八沼停車場を距る正南二町余に過ぎず登ること僅か一町、頂上に金比羅宮を安置す風景佳絶（●●地獄灣）　奇形なること古本の倒れて枝左右に延ぶるに似たり千態萬像灣底白く水色の青きに映じて一種異樣の觀を呈す水深幾尋なるを知らず灣内に入るもの出るに途を失ふ四時水中温氣なり名けて地獄灣と云ふ（大岩）　地獄灣より入ると數町怪巖直立高さ五十呎頂上より大斧を以て切斷せるが如く二ツに割れて其奇形云はんかたなし歩を轉すれば斷崖千仞轉た人心を寒からしむ（鞍掛岩）　地獄灣の沖南方にありて其奇を競ふもの、如し（●●島嶼）最

も多き處を「セバット」とす恰も松島に遊ぶの觀あり烟霞杳靄の中に出沒し大なるもの小なるもの遠きもの近きもの各其色を異にし其態を異にし風景絶佳比倫尠し對岳辨天、澤口島等其重なるものなり（駒ケ岳登山の快）同山の概略は前述の如しされば大沼に遊ぶ歐米人の好んで登山するも無理ならず之に登れは渡島、膽振、後志、奥羽の諸山を併せ大平洋を一眸の内に收め風景甚た雄大なり（蓴菜沼）大沼と僅かに五町を隔つに過ぎず周圍約三里、灣曲して大沼に注ぐを堺川と云ふ風光の明媚なる大沼に讓らず（峠の上の景）夜行の列車にて二千四百呎の隧道を通り拔け車窓函館を見たる風景は何んとも云はれず（軍川）湖の南岸大沼の中央に注ぐ小河にて、相原周防守時代の古戰場なり里余にして人家二百戸あり風景最も絶佳（小沼川）湖の西南岸停車場と相對し細流潺々溪間より出づ（長井川）隧道口の北方近き處にあり漁舍四五、鰡泉噴出して四時浴客絶えず名けて鳳の湯と云ふ（温泉）今日まで發見せるもの十ヶ所、浴場の設けあるもの鳳の湯、龜の湯、留の湯等は重なるものにて

鳳の湯は隧道口の左側、長井川に枕み、留の湯は折戸川の中流、龍の上にあり、龜の湯は「セバット」の北岸にあり浴客四時絶ることなし是れ其大觀なり若し夫れ仔細に其幽を聞き其微を明かにするが如きは探勝家の務めなり而して風光の春に宜しく夏に宜しく秋冬に宜しきは大沼の特色として世上に喧傳せらるゝ所以なり氣候は初霜九月上旬に始まり五月上旬に終る結氷は例年冬至二週間前にして解氷は土用前後なり氷の厚さは三尺に及べり村落は軍川村二百戸、長井川、古小沼等に大凡三十戸、蓴菜沼は國道に沿ふて學校旅館商店農家約二十戸あり、島廻りせんとすれば大沼端艇會の設けもありて僅か一圓五十錢と一日の日子を費しなば優に一週して大略探勝することを得べし

戰勝の紀念として函館或る一部の有志者は東郷、大山兩大將の銅像を大阪鑄造所に注文して鑄造し三十九年六月二十日着（二體の重量四百六十貫目）大山大將の銅像は公園前方の廣場に東郷大將の銅像は北鐵々橋との直線上東郷島（原名北垣島）に建立し碑文は國

田長官の撰にて七月十四日除幕式擧行せり、會するもの無慮一萬餘人非常の盛會を極めたり、姿廻爽實戰に於ける兩大將の偉勳目前に迫るが如し

又函館山より、取下げたる三十三觀音の安置式を五月二十日擧行せしが之れ又非常の盛會にて北鐵は賃金四割の割引をなせり其他記すべきもの少なからざるも觀客に取りては餘り案内の必要なきものと信じ之を略す

別莊及庭園

函館の發達は近年の事に屬し且つ新開地の常として庭園を玩ぶの餘暇なきを以て自然賞讃すべき程のものなしと雖も舊家亦無きに非ず左に紹介するものは其大體なり

（杉浦別莊）住吉町にあり、函館山の麓に當りて十餘年前の創開にして岡角上旅人宿の先主人之れを作る年々修補して今日に至りしが天然の水流之れに通ずるを以て頗る趣あり

（金澤別莊）谷地頭にあり今を去る二十年前の開作に係り櫻樹を以て名あり六七年前小破壞して元の美觀を失ひしが今は他人の有に歸せり

（飯田別莊）谷地頭にて規模小なれども池もあれば流れもあり平庭にして函館第一の藤あり其棚十四五間元柳川熊吉の庭園なり

（平田別莊）谷地頭にあり平庭にして先づ見るべきもの花崗石の雪見燈籠位なり

（一山十加藤）谷地頭にありて新規模なれば賞する程のものなし

（石塚彌太郎）谷地頭にあり新規模にて見るべきものなきも池ありて緋鯉の能く成長するは人の知る處なり

（逸見別莊）住吉町にありて中々金のかゝり居る庭なり、開作以來二十餘年を經たり、山庭にて鹿の棲息せんかと疑はるゝ景色何とも申されず

（柳田別莊）青柳町公園地前に樹木繁茂し板塀の圍繞せるは同氏の別莊なり林庭にて中に千金を投じて禰山より移植したる名松あり山階宮殿下の御旅館に充てたる建

物なり

（明石別荘）　曙町にあり家屋は和洋折衷にて中々大金のかゝりたる評判なり先づ特筆すべきは長七八尺の紀念碑なり此石は仙臺産にて父の音吉氏が壽と云ふ字を自筆したるものなりと庭は平庭なり

（相馬別荘）　當港唯一の大金満家と云はるゝ割に風致を愛する思想少なく同氏の居住する邸宅とすれば一寸物足らぬ感なきにあらず、平庭にして元町にあり石の置方は申分なく見るべき松あるも其特色は駒ケ岳の碧峯に對すると眼下に灣内を見下すとにあり

（田中正右衛門）　船見町にありて展望甚だ佳なり天神町居宅の松は定評あり其他此附近に若松、平出、井口、ハウル諸氏等の別荘庭園あるも獨り樂みに構造したる丈け手も行屆ず主眼とする處は櫻花爛熳の下巴港の水を眺めて杯を傾くるに過ぎず

（岩船別荘）　湯ノ川村瀧の澤にあり、庭園より寧ろ公園と稱する方至當ならん乎公開以て衆人の觀覽に供す、創立は今を去る十二年前庭新しきも天然の瀧あり風致に富む又緋鯉を養成す其他尤も注意を惹しむものは高價の鉢類にして其數三四百規模の宏大なると園主の寛大なるとに依り名聲頓みに高く大沼へ行かんより湯の川温泉に行き久〳〵一別荘に遊ばんとするもの漸次多く、運動會に園遊會に何れも此所に開かるゝもの多し湯の川温泉場より半里の内にあり

（金森別荘）　湯の川村にあり久〳〵一に續きての大規模なり創作二十餘年前なれども早く和洋折衷の建築法を採れり位置頗る當を得海岸に沿ひ遠く陸奥の諸山を望み風景佳絶、庭園又廣く〳〵アイヌ小屋の模形あり平庭には泉水を設け周圍の樹木には全道各地より寄せたる稀木もあり先年某宮殿下の御休息場にあてられたり同地に於ては先づ第一ならんか（同氏の別荘は谷地頭にも宏大なるものあり）

（岩値の梅）　庭にあらず自宅の入口にある一寸したものなれど函館にて梅信の迅速

なるは此梅なり

（森龜別荘）　相生町にあり手入れ中にて賞すべきものは松位なるも茶室は當今函館一ならん乎

（丸宮屋別荘）　丸宮屋松太郎の庭園は桔梗野村に地を相して取かゝりて以來二三年なるも岩船氏より規模宏大との評判なれば一寸滊車便にて行き見るも一興ならん乎右者重なるものにて今後幾十年を經過せば他國に讓らざる庭園となるべきも年所淺くして薫苔古木に乏しく晩秋鹿鳴くの風致なきは遺憾の極みなり其他警察の梅、小林の白鶴と云ふが如く有名のものあるも夫は本案内の事項に記載す

（植木屋）　青柳町苔香園、同川村、同荒井香風園等は重なるものにて内地の緣日に於けるが如く繁直をせず精々繁けたる處品に依り二三割位なれば其心得にて買求められたし

遊廓繁昌記

妓樓の番頭の頭ほど安いものはないと思はれては困るが愈々御好みとあれば案内致しませうが扨函館の遊廓は東西に別れて東廓を蓬萊町、西を臺町と云ふ蓬萊町の沿革は町名移動の項に、臺町も豊川町大火の記事中に一寸記載したるが如く過去のことは珍らしくもあらず現在の事に重きを置て大抵に致しますが先づこうナノだ人情風俗景氣を知らんとすれば直ぐ遊廓に行け

不夜城なる丈けありて白晝程不景氣凄然たるものはなし

雪月花の眞郷里、不老長生の別世界

曲折の欄干は燦然、樓閣嶽然雲表に聳えて高く

孝行に賣られ不孝者に買はれ

朱簾に罄る萬朶の櫻、輕風嫋々門前の柳

引手茶屋なくも鰻屋、鳥屋、料理屋あり
玉殿の笑語歌聲春風に相和し
皓々たる秋月粧鏡を開き擾々たる綠雲の鬢亂を梳るあり
落花片々たる朱唇
樓上樓下千電萬燈煌々白晝の如く
紅衣翠袖紛態裊々艶を戰はし
雨中の海棠、竹外の梅花、濃粧、艶態
等の字句を當嵌めざるべからざるもそれでは理窟一片に走りて事實と隔離するの恐れあれば決して御散財は致させませんと云ふ實際眞面目的に出でゝ左に現在の有樣を紹介せん本年六月に於ける警察の調査は貸座敷七十九戸娼妓五百五十一人ありて昨年の成績は實に左の如しと

▲蓬萊町

▲臺町

三十九年

	遊客	費消金
一月	六、一七三	一八、六一六〇〇
二月	四、三五〇	一三、四三七〇二
三月	五、六六八	一六、四三一一四
四月	一、九〇三	一一、三四〇一七
五月	四、一九一	一二、四〇六一六
六月	四、三四〇	一三、七九五三四
七月	四、九〇九	一五、一二八六〇
八月	八、四〇三	二四、三二三二
九月	七、五六九	二一、九一一五
十月	六、六七六	二〇、〇三九〇八
十一月	五、五九七	一六、四九六五八
十二月	四、五五四	一四、一九七二一
合計	多さは遊客八千費消金二萬圓を下らずで三分一位の届高と見てよからう、若しも往	

三十九年

	遊客	費消金
一月	九八七	一、八七八三五
二月	七三九	一、一三三一八〇
三月	七九二	一、五四三五五
四月	八五九	一、五三一八〇
五月	九八三	一、九九二六〇
六月	一、五一九	二、八三八五〇
七月	九三六	一、九九六二五
八月	一、七一二	三、六八七五五
九月	一、六五一	三、七二四、九七
十月	一、六五四	三、五七八一五
十一月	一、二六二	二、五三六一二
十二月	七二三	一、二一六八五

時黄金を砂礫土塊の如く見て一擲白金豪奢を意とせざる遊冶郎の多き好景氣時代ならばいざ知らず何もかも經濟主義を取りてほんの部屋キマリで登樓すゝ今日でさへこうだ、それから貸座敷數ですか

▲蓬萊町（明治四十年六月十二日現在）

樓名	樓主氏名	住所	娼妓數
サ印	金盛樓	坂部キン	蓬萊町一番地	十四人
金菊	金菊樓	白金サキ	同　七番地	十一人
金タ	新金九樓	田中庭吉	同　二番地	八人
角立	招盛樓	若松勘右衛門	同　三番地	七人
○高	宮川樓	大川ヒデ	同　八番地	八人
○山	九山樓	山田精一	同　拾四番地	九人
○石	石港樓	尾崎イシ	同　十五番地	十一人
い印	いろは樓	柳谷七右衛門	同　十六番地	九人
金越	樋口樓	樋口敬吉	同百十二番地	四人

入カ	萬年樓	丸山嘉吉	同百三十八番地	七人
第二	丸山樓	中村玉次郎	同百三十九番地	八人
キ一	喜盛樓	米谷サダ	同　十四番地	十二人
山仙	昇月樓	進藤富藏	同百四十三番地	十四人
○川	幾多樓	時田マス	同百四十一番地	二十八人
○六	盛龜樓	佐々木ハマ	同百四十四番地	八人
金木	清嘉樓	清水ハル	同百四十五番地	六人
金ソ	常盤樓	山崎ヒデ	同百四十七番地	一人
金ヤ	福井樓	杉村ヨキ	同　百十番地	六人
角山	角山樓	山岸常太郎	同百四十五番地	十一人
山市	田中樓	田中嘉一郎	同百五十一番地	十二人
○谷	朝野樓	谷口與三吉	同百三十一番地	十人
角越	吉田樓	菅谷マツ	同　百十三番地	八人
○井	宮城野樓	泉田マサ	同　百十五番地	五人
角市	武藏野樓	武藤野祐五郎	同百二十五番地	八人
角九	新山樓	川原吉三郎	同百二十四番地	六人

○カ　泉　樓　豊島スミ　同　百十六番地　五　人
　松　月　樓　風間鶴松　同　百十六番地　六　人
山一盛喜樓　星野鐵藏　同百二十二番地　六　人
○之　中村樓　中村ミエ　同百二十三番地　六　人
金庄　金昇樓　伊藤庄太郎　同百二十一番地　五　人
　金波樓　千倉サメ　同百五十四番地　六　人
角ト　鶴松樓　上口鶴三郎　同百二十二番地　三　人
山小　幸龜樓　竹内利三郎　同百五十五番地　八　人
角の　靜岡樓　高田フヂ　同百二十三番地　四　人
○さ二　一文字樓　石川重兵衛　同百九十五番地　六　人
　新丸高樓　宮川誠太郎　同百二十二番地　四　人
○イ　北越樓　永井ヤエ　同百五十一番地　五　人
山本　北海樓　野口憲造　同百二十四番地　四　人
山正　三河樓　梅津キク　同百五十五番地　六　人
○高　富貴樓　鈴木千代　同百十四番地　五　人
山印　吉野樓　吉田シナ　同百五十五番地　三　人

山○　東　樓　山岸常太郎　同百二十四番地　五　人
　梅香樓　武子猪次郎　同百五十五番地　六　人
メヨ　岩手樓　矢舗シノ　同百二十四番地　四　人
○杉　杉本樓　片谷フヨ　同百五十五番地　六　人
○玉　圓玉樓　阿部九兵衛　同百五十五番地　八　人
○新　新盛樓　戸田スエ　同　八　人
○福　林勝樓　工藤ナミ　同　十四　人
第二角市　金園樓　佐々木サタ　同　七　人
角隆　伊勢樓　小別當ナカ　同　十三　人
三ツ輪　迎陽樓　飯塚キク　同　六　人
金政　正菊樓　羽倉キク　同　三　人
角二●　大川樓　清水ヨシ　同　五　人
金本　金榮樓　宮本エイ　同　七　人
○福　永盛樓　加藤サヨ　同　四　人
山加　榮樓　加賀谷キン　同　四　人
今一　菊世樓　須藤イマ　同　七　人

入山高　小枝樓　小枝トモ　同百五十五番地　六人
金山　山多樓　後藤千代　同　同　二人
角サ　勇樓　佐々木藤治　同　同　七人
○キ　善招樓　金子キヌ　同　同　六人
第二〇新　第二新盛樓　戸田スエ　同　同　三人
○上　巴樓　竹村ミキ　同　同　三人
山ト　渡島樓　原田ハル　同　同　三人
大山　大島樓　桑原マツ　同　同　四人
金六　金昇樓　野澤タケ　同　同　三人
金中　松榮樓　白石千代　同　同　三人

▲臺町（明治四十年六月十二日現在）

山一●　長盛樓　佐藤ヨシ　臺町七番地　六人
角イ　安井樓　服部常次郎　同　七人
金カ　久米川樓　久慈トキ　同　四人

逢萊町二業取締　柳谷七右衛門
同　副取締　進藤富藏

金チ　岩手樓　三國サト　五人
○さ一　山木樓　佐々木留次郎　六人
角平　豊平樓　久藤イワ　九人
角メ一　長命樓　相澤タヲ　七人
山●　喜笑樓　平松ヒヤク　六人
金○メ　大黒樓　清水ヒサ　十二人
角サ　富山樓　奥田佐平　七人
○柏　常陸樓　柏木タカ　七人

臺町二業取締　工藤長平
同　副取締　服部常次郎

逢萊町六十九軒、臺町十一軒にて貸座敷の等級は從前と違ひ、家屋其他の設備より定めたのでなく娼妓四名以下は五等四名以上九名まで四等、九名より十三名まで三等、十三名以上二十人まで二等、二十人以上は一等で娼妓數から等級は別れ居るのだから元の三等貸座敷に揚る積りで懐の用意なく行くと、甚助を起したり警官立會

遊廓繁昌記

の上品物を置て歸る様な大間違は出來るから假令一夜の樂遊を極め込まんとするにしろ注意した方がよいのです左もないと登樓する時の元氣、朝歸る時のアノザマと笑れますよ……

蓬萊町は此通りで高樓の櫛比、道路坦乎として砥の如き割合に山海の景に乏しきを以て函館の發達に連れ之れを湯ノ川柏野に移轉さすると云ふは宿題になり居るも、臺町は之れに反し地勢よりすれば眞に登樓の二字に當て嵌る價値あるのです、眼下に入船出船を眺め所謂船は出て行く帆掛て走る茶屋の娘は出て招ぐと云ふ風で歸帆青嵐共に棹聲絃歌に和して何共云はれざる形容、之れにて客筋は大抵知らるゝが臺町には多くは船乘、職工、蓬萊町は藝娼の旦那、商人、書生、漁夫の旦那サンが便宜上多いのです、だが不景氣の聲は絶ません、おキマリですか其樓と其時の都合で區々なるも蓬萊町は金菊、丸山、金盛樓あたりは二圓八九十錢より三圓で酒二本肴は料理屋同樣種々出すそうですが其他普通の樓は一圓五十錢おきまり（部屋キマリ）で

酒二本、肴五品、一圓は酒一本肴三品位です臺町も同樣にて角平、角さ、丸柏等は一圓六十錢其他は一圓三十五錢で酒一本に肴は水菓子共三品位です又廻はしなしと云へば臺町は五圓に玉三ツ位では喜んで應ずる樓はありません蓬萊町は不景氣の時が多い丈け三圓に玉三ツ位で登樓させる時もありますが大樓となりては七圓でも餘り喜びますまい、ソレから一寸內向になりますが、ビール一本四十五錢より五十錢酒一合あるかなしの德利一本二十錢（大抵白鹿）茶菓子三十錢、サシミ五錢位の作りは三十五錢位、密柑七個入四十錢位の割合に取ります、中には之れは小樓なれど小物代、蠟燭代として十錢位取る處ありて番頭と客は往々衝突することがありますから此邊も心得居りて敢て不利益になりますまい、こんなに高く取りて困るまいと仰せられますが稅金の高いと折々不景氣に襲はれて、お茶引があるから何時も勘定あつて錢足らずで元の三等今の五等貸座敷の如きは廣くて四疊、狹きは二疊半位にて豆ランプに足は突當りて安臥することは出來ません次に話は岐れますが粹士とあら

ば多少女を憐れみてもらいたい實に可哀相なもので、果して孝行に賣れしか願意の如く親が極貧の爲めか、此五百何十人と云ふ女は如何なる手續きにて如何なる國のものが多いか一寸御話し致しますが山形、秋田縣のものが多い其は明治三十七八年の凶作が影響して越後女は名物丈けに年毎に拂底を告げ格安にては容易に雇入ることは出來ない東北は如何しても雇易い越後は三分、東北秋田山形は七分の割合だサテ樓主と娼妓の割合は如何にと云ふに女五分或は四分、樓主五分の割合で情夫の爲めに酒肴料の立引をなして算筒を空にするは女の自辨、金のなき客を揚げたるは番頭の失策として番頭の支辨番頭は揚高の五分を貰うので其他女の技倆で御キマリより散財する揚高は樓に依ては五分呉れるのもあります、其かはりは女に何も貸與しませんメ玉一ッ四五錢呉れ切りの處もあります夫であるから病氣すれば中々浮ぶことは出來ません、浮川竹とは何時の世からのなぐちはしぞ

函館は引手茶屋なく大抵客の登樓振を見るに鳥屋、壽司屋、料理屋にてサン〳〵飲

み疲れたる第二次會の客、手輕な北星牛飯店で一杯キコシメシて乘込むもの多く、能く〳〵度胸の据りたる者の滿更顏知らざる旅人にあらざれば素顏デ登樓しません之は遂萊町の登樓客振りで辜町も一定せざるのでカクジマイ（廻しなしで即ち隱れ住居よりの轉訛か）の谷は殆んど屈指程にて差しで登るか或は女の撰擇を番頭任せにする習慣の處なれば、貴君は初めてゝすか此邊を心得ぬと一利一害があるから末筆までに注意して置きます

以上東西兩廓の現況及び繁昌記・世の盛衰を知らんが爲め概記したるものにて餘事ながら記載するは如何に女の供給增加を來せしや世界中日本淫賣婦のあらざる處なく既に樺太新領土には淫賣婦三百七八十人もありて何時も三四十人の女は病院に入院し居れりと又三十九年度の調査に依れば本道貸座敷總數三百三十六ヶ軒娼妓三千七百三十五人である

▲藝妓

遊廓繁昌記

往時の藝妓風は蓬萊町過去の記事中に一寸漏せしが今はこう變化したのだ、最負客の名殘を惜みて人靜まる時計チン〳〵の頃を好機となし見送りに出でたるのか埠頭何時も三四人の紅裙隊が見受けらる但し旅人宿にて客の伽はしますまい、又貴君の處は料理屋で夕景から夜の十二時一時まで二三人の粋客を止め置いて後二三十錢の座敷料を投出されて能く割に合ふものですな、だから待合は必要なのよ、此爲でもあるまいが戰爭中軍人連中も花柳病を受けたとか、併も日露戰爭の當時戰鬪區域地として料理店旅人宿の女中初め藝妓の健康診斷を實施することゝなりたるは抑も斯界の大革命時代で、一時非開帳、開帳の二派に岐れてテル内閣は總辭職して三ツ派は新内閣を創立すると云ふ大騒ぎに終に黨派は三ツに破裂して東は、町醒板蓬萊町見番、東見番となり西見番は其儘であった、イクラ藝妓全盛の時代と云つて僅か一本二十五錢の線香にて毎月六圓以上の稅金を納むるは容易のことではあるまい、戀愛の情濃なる紳士資産家は床榻枕許り與へ置くも無慈悲ではあるまいかどうして

立切れるものでない、それを女許りを責るは酷だ三慾煩惱に氣迷ひて藝の發達しよう筈はあるまい、

左に本名藝名を記載して表裡兩面を紹介す心ある粹客巴港の名花を聘んで窈窕巴の如き彼等の胸中を捜り見られよ

▲西見番（明治四十年六月十二日現在）

藝名	本名	本籍現住所	生年月
のし	矢口キョエ	大町四十二番地	明治十一年十一月
島吉	姥名リサ	旅籠町二十七番地	同 十年五月七日
小三	竹内フサ	鍛冶町三九	同 十年九月二十五日
松助	大坊エサ	大黒町七九	同 十二年九月七日
三勝	太刀川カネ	旅籠町三二	同 十四年八月十五日
小市	達曾ツカ	鍛冶町二五	同 十二年六月二十日
萬歳	長谷川ミツ	二五	同 十六年八月十五日
福壽	津田タカ	同 四六	同 十七年一月七日

しま	吉澤シマ	鍛冶町二七	明治十一年二月十六日		
のぶ子	尾上ヤス	大黒町八四	同	十八年四月八日	
茶子	西川フサ	鍛冶町三五	同	二十四年九月二十八日	
りつ	丸山リツ	天神町二一七	同	十年四月五日	
竹吉	岩井ミツ	江差旅籠町三二	同	十五年三月十日	
〆壽子	三國サク	鍛冶町二四	同	十六年二月　日	
竹子	長谷川ツル	同　一七	同	二十三年十二月十五日	
繁松	武藤マス	同　一七	同	九年十月　日	
八重子	松下八重子	旅籠町二七	同	二十一年六月十三日	
光子	吉田ミツ	鍛冶町二九	同	二十四年九月一日	
ふく	波邊トミ	同　一九	同	二十六年八月十日	
信子	林ノブ	東京淺草、現大黒町八二	同	二十六年一月十五日	
源平	高橋トワ	同　八四	同	十一年四月四日	
吉丸	松田セン	同　七九	同	二十六年六月二日	
勝子	小田カツ	鍛冶町二五	同	二十一年一月	
勝利	濱坂タカ	大黒町八三	同	十八年十一月　日	

三福	中野スエ	旅籠町三二	同	二十一年十月二日	
勢子	川村スエ	鍛冶町一七	同	廿四年七月二十日	
いて	高田テイ	名古屋、現天神町五一	同	十一年八月十一日	
小いね	富田コト	同　天神町五一	同	十一年十二月十三日	
千代	福田チカ	同　五一	同	十三年五月一日	
櫂助	淺野フサ	同　同　五一	同	十四年三月十五日	
金子	吉田カヲ子	鍛冶町二九	同	二十年一月七日	
喜代子	茂村キヨ	辨天町三四	同	二十三年二月　日	
きん子	桐内キン	盛岡、現大黒町七四	同	二十年十月十日	
静子	池田セイ	大黒町三六	同	二十一年七月　日	
やま子	渡邊キン	福島伊達、現富岡八	同	十五年三月三日	
小春	齋藤セン	鍛冶町二一	同	九年九月二十五日	
長吉	鈴木テツ	同　同	同	十八年二月四日	
桃子	杉浦セン	栃木那須、現鍛冶三	同	二十三年十二月二日	
村子	長久保キン	東京旅籠町三二	同	十九年九月八日	
梅子	原ムメ	東京　同　三二	同	二十三年九月五日	

遊廓繁昌記

小藤	大川フチ	仙臺大黑町五〇	明治十九年五月二十六日
今吉	隅木イチ	鍛冶町四九	同　十年六月　日
留子	近藤トメ	大黑町四一	同　二十六年六月十日
鶴松	岩瀨チヨ	同　七九	同　二十三年一月二日
柳子	小坂リウ	同　九一	同　二十二年五月二十五日
おこん	中村コン	旅籠町六二	同　二十八年三月十日
小フミ	坂本コス	石川縣、現鍛冶一九	同　二十年四月九日
榮子	上林サワ	江差、現天神町三七	同　二十七年十月二十日
濱吉	鈴木コウ	大黑町七四	同　十三年一月七日
とん子	和泉チヨ	福島伊達、鍛冶二二	同　十六年三月一日
琴丸	左高カク	岐阜縣、鍛冶町二四	同　廿五年九月二十一日
五郎	小崎チカ	名古屋、鍛冶四四	同　二十四年七月一日
太郎	寺島セイ	名古屋　現大黑町七五	同　十六年八月二十二日
次郎	寺島トウ	同、同　同	同　二十年六月十六日
とし子	小島クメ	福島平町、鍛冶町三	同　廿一年十二月十二日

取締役　三　勝

▲蓬萊見番　副取締の　し

（明治四十年六月十二日現在）

藝名	本名	本籍現住所	生年月
金八	小梅なつ	相生町五三	明治十八年七月五日
小新	中村しん	蓬萊町九六	同　十八年八月廿二日
才三	中村ちよ	江差、現相生町五三	同　二十二年二月廿五日
いく	小島いく	相生町六七	同　二十年十月　日
柳吉	伊勢ゑい	仙臺、同　五三	同　六年六月十三日
喜せん	阿部つや	同　五三	同　十六年三月三日
かの子	秋葉ちよ	同　五四	同　二十三年一月三十日
蓬萊	樋口こと	蓬萊町一一三	同　二十四年二月五日
力丸	高橋いし	同　一〇三	同　二十五年二月二十日
ぽんた	中里いさ	相生町五三	同　二十三年月　日
かつ子	越後かね	蓬萊町九九	同　十三年七月二日
助六	伊澤うめ	同　一〇一	同　十七年三月十五日
仲助	三上ふゆ	相生町五三	同　十九年七月　日

小みね	藤村よし	東京、同二一	明治二十三年六月五日		
やま子	渡邊きん	横濱、現蓬萊町一〇六	同 十五年三月三日		
かつ丸	松本ふく	青柳町六八	同 二十五年四月 日		
小利有	古川ふじ	仙臺、現蓬萊町一〇七	同 十九年五月 日		

（取締役なし）

○東見番（明治四十年六月十二日現在）

藝名	本名	本籍現住所	生年月日
權助	上坂きよ	蓬萊町三〇	慶應元年五月 日
小三	吉田たま	相生町二八	明治四年 月 日
てる	瀨田松てる	惠比須町七〇	文久二年一月廿四日
とう	竹内とう	同 六七	同 三月五日
房吉	松田ふく	蓬萊町八〇	同 元年三月 日
小とり	櫛井とり	新潟、現 同	明治三年十一月 日
仲吉	大坂たか	同 八〇	同 四年六月 日
愛治	松橋はる	相生町二六	同 三年一月 日
小直	五十嵐ちか	蓬萊町三一	同 五年四月 日

菊助	鈴木ふく	同	八五	同	八年五月 日
富治	佐々木すが	瀨棚、相生町五五		同	九年五月 日
豐野	八木せん	蓬萊町三五		同	八年一月 日
京	丸谷なを	同	三五	同	十一年十一月 日
小市	桟敷ふく	青柳町六七		同	十二年六月 日
梅香	前田ふじ	同	六七	同	十二年五月 日
ふく	中村こと	蓬萊町二七		同	十二年三月 日
つた子	永井しか	東京、現同	八九	同	十二年二月 日
六琴	鈴木こう	東京、現相生町五五		同	十三年六月十三日
花吉	河口いち	蓬萊町三一		同	十二年三月 日
ピン助	山本たつ	東京、現相生町五五		同	十三年四月五日
市松	中山てる	東京、蓬萊町三〇		同	十三年三月十五日
喜久壽	鈴木ふき	同	八七	同	十二年五月五日
小ふみ	安田さよ	横濱、現蓬萊町九四		同	十四年二月十日
富子	和田かね	東京、現蓬萊町三〇		同	十五年九月八日
肇子	三輪こう	相生町七一		同	十二年 月 日

君平　小田桐きみ　横濱、現相生町五五　明治二十年二月十一日
小蝶　菅原つね　茨城、現蓬萊町八九　同　十八年十月二十五日
米治　今村よね　三重縣、現青柳町卖　同　十八年一月二十四日
しげる　三上ちせ　青森、現蓬萊町二七　同　十六年二月十日
桃子　田中よね　東京、現蓬萊町二九　同　十七年十月十日
妙子　竹田とよ　相生町六一　同　十八年二月十五日
おこん　岡崎とき　横濱、現蓬萊町九四　同　十七年四月三十日
濱子　飛鳥はる　新潟、現蓬萊町三二　同　十七年二月十四日
小稻　石井れん　東京、現同一〇七　同　十九年一月四日
たみ　竹内たみ　蓬萊町二九　同　十七年一月五日
壽々子　鈴木ふじ　八七　同　十六年八月二十七日
百助　中村まつね　同　二十年三月五日
三太　横濱いそ　江差、現相生町五六　同　二十年二月　日
八重子　中村やえ　蓬萊町一一七　同　二十年五月二十六日
音助　平山まつ　東京、現蓬萊町八七　同　二十年二月十二日
お鯉　松任谷の　東京　現同三　同　二十一年　月　日

妻助　中村のぶ　蓬萊町九六　同　二十年三月　日
一六　泉谷ふさ　江差、現相生町五六　同　二十一年十二月　日
壽々め　山下すみ　東京、現蓬萊町八九　同　二十二年八月廿八日
常子　山口ちせ　青森、現同三〇　同　二十一年三月廿八日
高子　山木たか　蓬萊町八五　同　二十二年一月廿八日
しん駒　三部ひさ　横濱、現同八九　同　二十三年十一月五日
こう　竹内こう　恵比須町六七　同　二十一年四月十一日
萬歲　佐久間てる　蓬萊町三五　同　廿四年十二月廿九日
千代丸　吉田きた　相生町二八　同　二十三年十月　日
千代子　藤井ちよ　青森、現相生町五五　同　二十二年七月十四日
ひな子　金子たみ　寶町一八　同　二十四年十月廿二日

（赤襟）の部

あや子　高橋かね　蓬萊町一〇九　同　二十四年二月三日
染子　栗山ふく　同　二五　同　二十三年三月十四日
五郎　鈴木ふさ　同　八五　同　二十三年九月十二日
桃太郎　宮川はな　同　三五　同　二十四年四月廿四日

遊廓案内部

清香　櫻井みね　蓬萊町一三四　明治二十五年　月　日
子寶　吉川いま　同　三一　同　二十六年二月五日
福助（半玉）の部　柳谷とめ　同　一七　同　二十五年四月廿八日
小初　伊草はつ　蓬萊町二九　同　二十三年七月四日

▲町懸板　取締役　上坂きよ
（明治四十年六月十五日現在）　副取締役　吉田たま

宮次　沼田タカ　蓬萊町八二　明治三年一月十一日生
〃子　梅本ハナ　鍛冶町三一　同　九年二月四日
みつ　小澤ミチ　蓬萊町九　同　四年一月十五日
鶴子　小村ツル　鍛冶町三一　同　十九年九月二十六日
千代子　成田千代　天神町八七　同　十八年八月十七日
六助　佐々木サメ　相生町六〇　同　十五年四月十四日
きた　松島サタ　同　五二　同　七年三月三十一日
小濱　杉村ハヤ　大黒町七七　同　十年七月二十一日

きん　小村キン　鍛冶町三一　明治十二年六月二十九日
信子　小笠原カヂ　青柳町八三　同　十九年六月二十日
雪子　村形ヨシ　春日町一九　同　二十年九月二十二日
金時　櫻井ヨシ　蓬萊町一三四　同　二十年一月九日
幸　鈴木ハル　寶町二〇　同　十八年一月十七日
かめ　武藏野カメ　蓬萊町三七　同　十五年十一月十一日
小高　成澤タカ　寶町二六　同　十七年五月二十二日
〃八　木下カヂ　相生町七一　同　十七年二月十一日
小仙　竹林ヨシノ　同　七一　同　十九年三月十九日
小芳　松岡ヨシ　春日町十八　同　十五年一月二十九日
一平　石川カシ　蓬萊町一五五　同　二十六年九月五日
琴丸　小麥コト　寶町一　同　二十六年十月一日
千代香　三上チヨ　同　二七　同　二十九年九月五日

取締役　沼田タカ
副取締役　梅本ハナ

竹枝之一

青年紳士到處而、割剤朱樓不認時、漫聘赤襟電話的、
醉歌舞踏定鐘遲。
函灣熱市小瀛津、海陸軍人互競春、一種蓬萊宮裡趣、
豈料此地在紅塵。

料理店

明治四十年六月の調査に依れば二百九十三軒にて之れは營業看板の數なるも今料理屋として小宴は勿論大宴會をなすに適し人も許して耻しからざる有名のものを掲ぐれば左の如し

（小林亭）東の大關にて蓬萊町にあり、主人は小林與兵衛、規模の大なる器物の完備せる函館を代表する丈けの料理屋なり、されば大小宴會は皆此亭に開かるゝのみならず何百人入るも差支なく屋上には遊戲場ありて眺望絶佳、調理法、勿論河一ツ

吟味せざるものなく紅裙に現拔して亦情有りと叫び出す前是を見てもらいたいのは家屋の構造である、一番ひの鶴は珍の珍なるもの

（勝見家）西の大關にて鍛冶町にあり先年火災にて半燒となりしが今日は略出來上りて輪奐なる大厦昔日に讓らず樓上の風景巴港第一と稱す西に於ける大宴會は大低此處を根據とせり、酔て美人の膝のみ枕にせず床柱、天井板等を見てもらいたい

（西洋料理）五島軒末廣町にあり西洋風の宴會をなさんとするものは大低此處を以てす、料理も東京に讓らず、其次は扶桑軒にて惠比須町にあり小宴には最も適す又蓬萊町に丸芳旭軒ありて御好みに應ず

（丸茂）末廣町にありて主人は食道樂に通じ居るかはりは隨分變りものを料理す、四季折々新規のものを案出して珍鳥なごことに名ありされど上戸には一寸甘過ると云ふものあり

（都庵）末廣町に在り一寸一酌する場所としてはき丶過る程なり